

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構

# 生涯学習部門

令和元年度 成果報告書

## はじめに

岩手大学の生涯学習部門は、生涯学習・生涯教育の強化を目的に設立された「生涯学習教育研究センター」（平成12年4月）を前身として、地域住民を対象に生涯学習・教育事業に取り組んでまいりました。その後、組織の改編が進み、「地域連携推進センター」（平成16年4月）、「地域連携推進機構」（平成26年4月）を経て、平成28年4月に「三陸復興・地域創生推進機構」内の生涯学習部門として新たに発足されました。機構には、実践領域と教育研究領域が設けられ、生涯学習部門は地域住民の学習の場としての役割を果たす実践領域に位置付けられています。

岩手大学では、大学の理念および目標の1つの柱として社会貢献を掲げており、第3期中期目標・中期計画（平成28年～令和3年）においても「地域の中核的学術拠点として、地域創生に向けて、自治体等地域社会との連携及び大学の知的資源を活用した社会貢献」を目標とした「地域と連携した社会人の学び直しプログラムの充実化」が掲げられています。こうした大学の使命や役割を担うために、生涯学習部門においても、地域住民のニーズを反映した学びの場の拡大とともに、生涯学習プログラムの「量」から「質」への転換を目指した取り組みを行っています。

今年度は、第3期中期目標・中期計画および戦略4の事業に取り組んで4年目を迎えた年です。生涯学習部門では、これまで4年間取り組んできた事業において、一つの柱である「社会人学び直し関連事業」に力を入れてきました。特に、社会人学び直し関連プログラムの開発は、東北地域では初めての試みでもあります。今年度の取り組みとして、①生涯学習指針づくり、②社会人学び直しプログラムの基準づくりの一環として、学内での履修証明の認定を行うための委員会づくり、③社会人向けの「いわて生涯学習士育成講座」（60時間）の開講、さらに、④企業（JR東日本）から依頼を受けて、観光の視点からの「いわて観光グローバル人材育成講座」（44時間）を開講しました。

なお、上記プログラムの実施にあたって、地域住民のニーズ調査を行いました。4年間の地域学習ニーズ調査において、住民の地域課題への関心度の高さに対し学習機会の不足が課題となっていることが明らかとなりました。そこで、そのニーズに応えるべく、岩手県の各市町村の教育委員会との連携の基で、生涯学習・社会教育関連従事者を対象にキャリアアッププログラムとして「いわて生涯学習士育成講座」を開講することができました。また、今後岩手大学において組織的かつ効果的に生涯学習関連事業を推進する目的で、学内の有識者による「岩手大学における生涯学習指針」の策定に繋げることができました。

さらに、今年度の新たな試みとして、JR東日本の寄付を受けて観光人材育成のリカレントプログラム「いわて観光グローバル人材育成講座」を開講しました。この講座における「観光」の視点からの地域の人材育成は、地域の活性化に繋がるものであり、来年度も継続事業として開講する予定です。

最後になりますが、生涯学習部門の今後の事業展開の一層の充実を図るために、今年度1年間実施した事業について、各部局の先生方や生涯学習部門スタッフのご協力を頂きながら報告書として取りまとめ製本いたしました。今後のより一層充実した生涯学習の実現に向けて、皆さま方の忌憚ないご意見・ご要望をお寄せいただけましたら幸いです。

令和2年3月

三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門長 朴 賢淑

# 目 次

## はじめに

## 1 生涯学習部門概要

1-1 事業の目的	1
1-2 組織体制・年度計画	8
1-3 会議報告	12

## 2 生涯学習部門事業報告

2-1 いわて生涯学習士育成講座	27
2-2 いわて観光グローバル人材育成講座	39
2-3 アートフォーラム	46
2-4 公開講座	51
2-5 企画講座「がんちゃんの学び」	79
2-6 地域連携	92
2-7 社会教育主事講習	105

## 総括



# 1 生涯学習部門概要

事業の目的

組織体制・年度計画

会議報告



## 1-1 事業の目的

日本では大人の学びの場として公民館が大きな役割を果たしてきた。特に、戦後、地域の住民たちが公民館に集まって、身近な生活課題をはじめ社会的課題を議論し合いながら実践し、日本社会を変えていた。このような学びの場には、専門的職員として社会教育主事が行政と住民の橋渡し役割を果たしながら地域住民の学習を支えてきたと言える。

しかし、日本政府は小泉内閣発足後に「公設民営化」が急速に進行し、平成15年に指定管理者制度が導入された。当制度を導入する理由の一つとして、住民のニーズの多様化に「効果的」「効率的」に対応するためには、民間の事業者のノウハウを広く活用することが有効であることが上げられた。

したがって、近年、社会教育施設も余儀なく民間委託が進められ、社会教育主事の配置も縮小されつつある。その結果、社会的弱者（高齢者、若者、女性、外国人など）は、ますます学ぶ機会が閉ざされ、学習者においても格差が広がっている。

一方、グローバル化や知識基盤社会に対応できる人材が求められ、大学教育が既存の若い学習者中心から成人学習者への拡大が期待されているなか、大学が“リカレント教育の場”としての転換が求められている。

そこで高等教育機関がリカレント教育の場として機能を果たすためには、まず、地域住民のニーズの把握は欠かせない。また、地域課題に対応できる人材を育てるためには何に重点を置くべきなのか真剣に向き合わなければならない。

よって生涯学習部門では、上記の課題の可視化を図るとともに、岩手大学第3期中期目標・中期計画の【12】（地域の中核的学術拠点として、地域創生に向けて、自治体等地域社会との連携及び大学の知的資源を活用した社会貢献を推進する）と【27】（地域創生の先導者を養成するために、地域と連携した社会人の学び直しプログラムである「いわてアグリフロンティアスクール」、獣医師卒後教育及び防災リーダー育成などの継続と新たなプログラムの開発、女性の活躍促進・能力育成事業の推進により、リカレント教育を拡充する。これによって、リカレント教育のプログラムに参加する社会人を平成27年度比で第3期中期計画期間終了時に20%増加させ、満足度も向上させる。）及び国立大学法人機能強化促進事業の戦略4（地域の中核的学術拠点として、東日本大震災からの復興を着実に前進させ、その上で地域の持続的発展を目指す“地域創生”を実現していくため、「知の創出機能」の充実・強化を推進する。）の評価指標③社会人を対象とした学び直し受講数の目標値を達成するため、学内の各学部との連携し、事業を進めている。なお、第3期中期計画に係る年度計画は下記の表の通りである。

第3期中期目標・中期計画 各年度ロードマップ及び年度計画

H28	①大学が提供すべき生涯学習プログラムに関する検討、連携関係機関との協議	
	②既存のプログラムを社会人学び直しプログラムとして整備	
	【年度計画】	「いわてアグリフロンティアスクール」等の既存のプログラムを岩手大学社会人学び直しプログラムとして体系化し継続するとともに



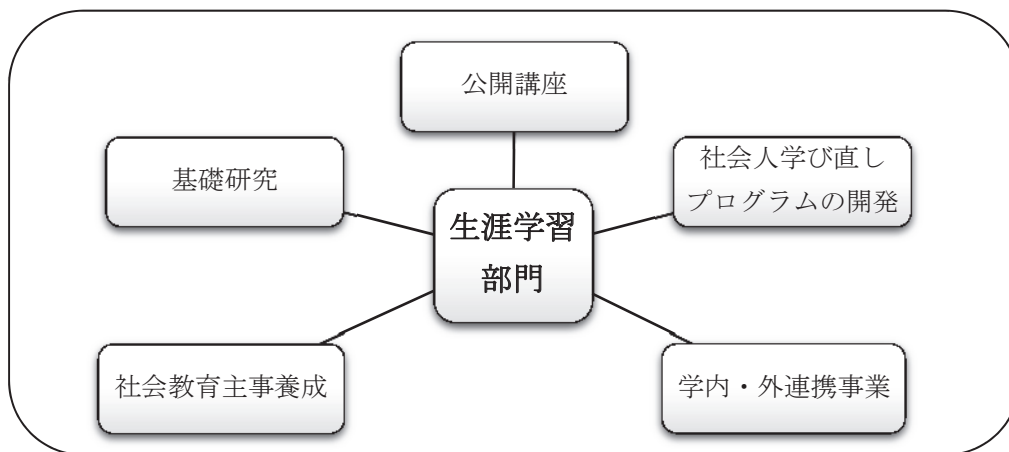
		に、新たな社会人学び直しプログラムの開発に向け学内外関係者と協議を行う。(三陸復興・地域創生推進機構、農学部、理工学部)
H29	①社会人学び直しプログラム開発に向けた県教委等の関係機関とのネットワーク構築 ②社会人学び直しプログラムの充実化を図るための地域ニーズ調査 ③社会人学び直しプログラムのパイロットプログラムの実施	
	【年度計画】	平成 28 年度に立案した、地域づくりをテーマとした社会人向けのキャリアアッププログラムを実施する。その上で、既存の社会人学び直しプログラムとの連携事業のモデル構築を進める。(三陸復興・地域創生推進機構、農学部、理工学部)
H30	①既存社会人学び直しプログラムの体系化、地域での検証 ②社会人学び直しプログラムのパイロットプログラムの実施 ③キャリアパスに繋がる社会人学び直しプログラムの基盤構築	
	【年度計画】	社会人学び直しプログラムについて、キャリア形成の側面からみた効果と課題を明らかにして今後の事業改善に資するため、既存プログラム修了者を対象にアンケート調査を実施する。また、社会人の参加拡大に向け、新たにパイロットプログラムの実施及び学習環境の整備を行う。さらに、エコリーダー・防災リーダー育成プログラムについては、地域活動に資する事業としての検証を行い、成果と課題をまとめ、これを次年度の事業に反映させる。
H31	①新たな社会人学び直し本プログラムの実施 ②リカレント型社会人学び直しプログラム化の検討	
	【年度計画】	平成 30 年度に実施したパイロットプログラムの成果を踏まえ、岩手大学の特徴を生かした地域に密着した新たなプログラムを実施し、プログラムの修了者へのアンケート調査を実施・検証し、その結果を踏まえて今後のリカレント型社会人学び直しプログラムの開発に着手する。さらに、引き続き実施するいわてアグリフロンティアスクール、エコリーダー・防災リーダー育成プログラム及び岩手マイスター育成プログラムにおける調査結果を踏まえて、カリキュラムの再検証を行い、次年度事業に反映する。また、社会人学び直しや生涯学習について、第 4 期中期目標期間を見据えた今後の方向性をめぐる協議を学内外で行い、これを踏まえた組織的な連携・協力関係を構築する。
R2	①平成 31 年度までの取り組みに対する満足度調査を含む検証 ②新たな社会人学び直し本プログラムの充実化 ③リカレント型社会人学び直しプログラムのモデル提示	
	【年度計画】	
R3	①検証結果に基づく、改善策の検討	

②地域住民のニーズに応じた継続的な生涯学習支援体制の構築	
【年度計画】	

次に、生涯学習部門が置かれている三陸復興・地域創生推進機構は三陸の復興と岩手県の「まち・ひと・しごと創生」を目指して整備されており、人口減少と産業衰退が予想される岩手県で新たな地域創生モデルを構築し、その知見を総合科学研究科に還元して地域創生型人材の育成を推進していると共に、社会人に対して多様な学習プログラムを提供し、産業界や地域社会の中で活躍できる人材を育成し、何度でも学び直しができる体制を構築し、新しい価値観（豊かさ）を提案するため、重点支援（戦略4）を受けている。戦略4では、①県内全33市町村と連携して、地域のニーズを踏まえたシンポジウム等を新規に実施する県内市町村数（累計）、②学生及び院生主体による県内市町村・団体等を対象とする地域課題解決プログラムの取り組み件数、③社会人を対象とした学び直しプログラムの受講者数の3項目を評価指標にしており、生涯学習部門では③社会人を対象とした学び直しプログラムの受講者数の達成に向けて各講座の質保証、広報等を行っている。

戦略名	地域の中核的学術拠点として、東日本大震災からの復興を着実に前進させ、その上で地域の持続的発展を目指す“地域創生”を実現していくため、「知の創出機能」の充実・強化を推進する。（戦略4）
評価指標（KPI）③の概要	
社会人に多様な学習プログラムを提供し、産業界や地域社会で活躍できる人材を育成するため、三陸復興・地域創生推進機構では農学部や理工学部等と連携していわてアグリフロンティアスクール、地域を支える防災リーダー育成プログラムを実施してきた。この取り組みを継続すると共に、新たなプログラムも開講し、何度でも学び直しができる体制を構築することを指標として、第3期中期目標期間終了年度の令和3年度の受講者数を90名と設定している。	

最後に、生涯学習部門では、研究成果を生かした地域還元を目指しながら、①基礎研究（地域調査など）、②社会教育主事養成、③社会人学び直しプログラムの開発、④公開講座、⑤学内・外連携事業などをおして、誰でも、いつでも参加できるような地域住民の生涯学習場づくりを目指している。

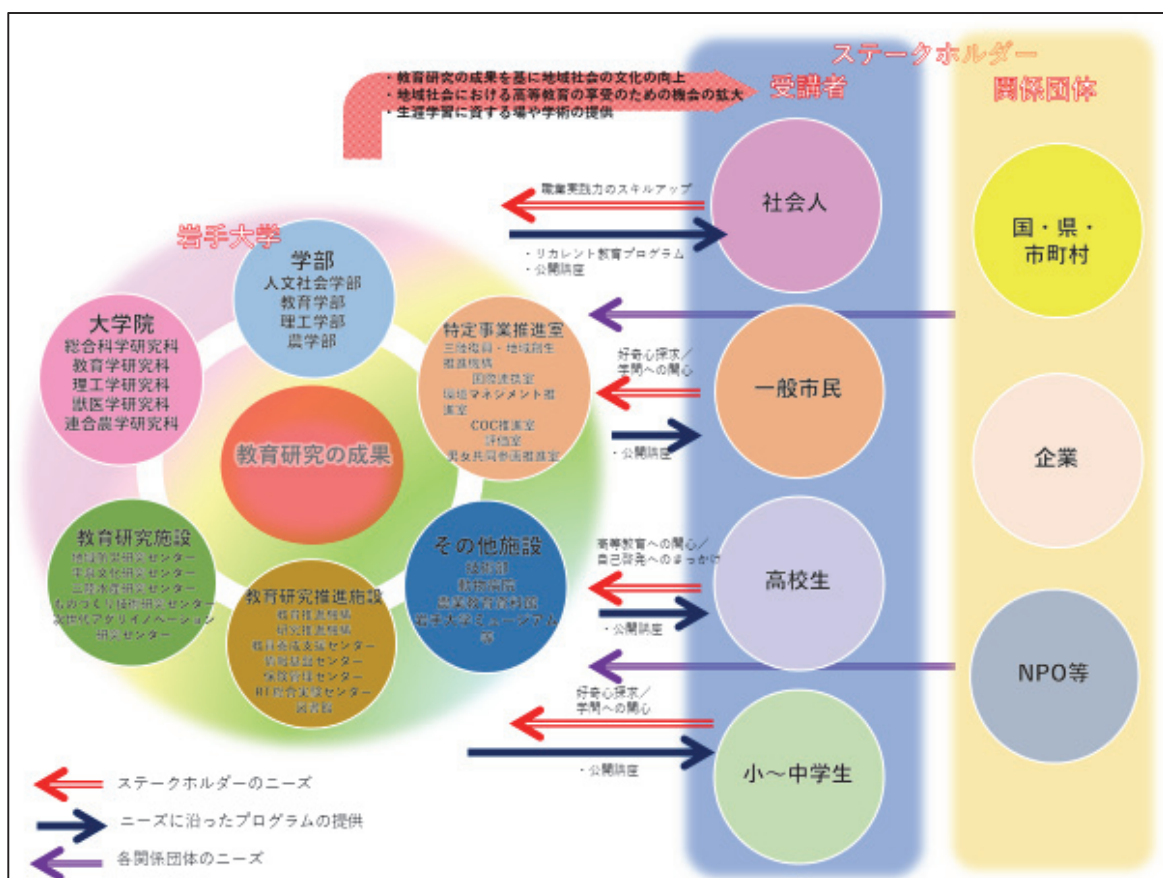


また、今年度は岩手大学の理念である「地域社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会の文化の向上」、さらに社会貢献目標である「教育研究の成果の社会的な還元を基本として、地域社会における高等教育の享受のための機会の拡大と生涯学習に資する場や学術の提供」をより積極的に実践することを目指し、組織的かつ効果的に生涯学習の取組を推進していくために、本学構成員と学外のステークホルダーに対して、岩手大学の生涯学習指針を定めている。詳細は<資料1-1-1>岩手大学における生涯学習指針を参照されたい。

## 岩手大学における生涯学習指針

### 1. 岩手大学における生涯学習指針策定の趣旨

岩手大学の理念である「地域社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会の文化の向上」、さらに社会貢献目標である「教育研究の成果の社会的な還元を基本として、地域社会における高等教育の享受のための機会の拡大と生涯学習に資する場や学術の提供」をより積極的に実践することを目指し、組織的かつ効果的に生涯学習の取組を推進していくために、本学構成員と学外のステークホルダーに対して、岩手大学の生涯学習指針を定める。



### 2. 目標

地域社会に開かれた大学として、学部間の垣根を越え、本学の教育研究成果をもとに、地域と協働で、広く一般市民に高等教育の機会と生涯学習に資する場を提供し、地域社会の文化の向上を図る。

### 3. 基本的な視点

#### (1) 生涯学習の定義

- ・本指針における生涯学習とは、岩手大学で取り組んでいる児童生徒・一般市民向けの公開講座、更には社会人向けのリカレント教育を言い、それぞれのプログラムが一般市民の人生100年時代（マルチステージ）の「働き方」と「学び」の機会に対応するものである。

#### (2) 各プログラムの運用方針

- ・生涯学習の各プログラムは、人生100年時代の「働き方」と「学び」の機会に対応するものであるため、一般市民のニーズと学内の教育研究シーズを定期的にマッチングさせる。

#### (3) プログラムの実施体制

- ・一般市民の人生100年時代の「働き方」と「学び」の機会に対応する生涯学習の各種プログラムを全学的に取り組めるよう、生涯学習を担当する教育研究支援施設と主担当学部との連携体制を整備するとともに、それぞれの研究・教育資源、人的ネットワーク等を活かした実施体制を構築する。また、教育研究支援施設の担当教員と主担当学部が中心となり、全学的に岩手大学の生涯学習を推進していく。

#### (4) ステークホルダーとの関わり方

- ・自治体、企業、NPO等の業界団体から生涯学習の相談があった場合は、受講者のニーズや学内の教育研究シーズを踏まえ、新規プログラムの開講や講師派遣など、ステークホルダーのニーズに沿ったコーディネートを行う。
- ・一般市民のニーズを把握するため、県内の各種組織（自治体、教育委員会、業界団体等）と積極的に連携を図る。

### 4. 生涯学習の取組における基本方針

#### (1) 一般市民のマルチステージを踏まえたプログラムの構築

- ・これまで取り組んできた芸術、スポーツ分野等の各種公開講座、社会人学び直しプログラム等を、よりニーズに沿ったプログラムとするため、以下のとおり体系化する。

プログラム対象者	主なプログラム	プログラム内容
社会人 (キャリアアップ)	リカレント教育プログラム	社会人及び企業等のニーズに応じた実践的・専門的型プログラム ※1
一般市民	公開講座	教養重視型プログラム
高校生	公開講座	大学講義体験型プログラム ライフデザイン探究型プログラム
小～中学生	公開講座	好奇心探究型プログラム

※1 社会人及び企業等のニーズに応じた実践的・専門的型プログラムとは、

「いわてアグリフロンティアスクール」、「地域を支えるエコリーダー・防災リーダー育成プログラム」、21世紀型ものづくり人材岩手マイスター育成講習コース、文科省委託事業「社会教育主事講習」、教員免許状更新講習等をいう。

※<sup>2</sup>なお、受講者のニーズによっては、対象以外のプログラムを受講することも可能とする。

(2) 学内構成員の理解増進と協力体制の整備

- ・生涯学習担当の教育研究支援施設と主担当学部との連携を核として、岩手大学の生涯学習を推進するためには、主担当学部の協力が不可欠である。また、一方、各種プログラムを実施する学部との連携強化も必須である。今後は学内構成員の理解と協力を得るため、全学的な情報共有に努める。

(3) 学外機関との連携

- ・具体的なプログラムを実施するにあたり、そのニーズを把握すること、さらに協力体制を構築するために、学外組織と積極的に連携を図る。

(4) 高校生以下対象プログラムの充実

- ・将来、地域を担う小中高生を対象としたプログラムについては、知的好奇心を満足するプログラムや、高等教育への関心を満たすプログラムのほか、将来、地域を担う人材を育成する観点からライフデザイン思考<sup>※3</sup>を取り入れたプログラムも重要である。高校生向けのプログラムに関しては、実施部署である各学部との連携を図り、ニーズに沿ったプログラムの提供に努める

※<sup>3</sup>ライフデザイン思考とは

その人の価値観に基づく生き方であり、また人生全体の目的を決める元になるもの。

(5) リカレント教育プログラムの充実

- ・大学でのリカレント教育における社会人受け入れについては、履修証明制度<sup>※4</sup>、職業実践力育成プログラム(文部科学大臣認定制度)<sup>※5</sup>など多様なプログラム体制が整備されている。

本学でもこれまで取り組んできた各種社会人学び直しプログラムを、前出のようなプログラムに移管し、履修者・大学双方にとって、プログラムの見える化を目指すとともに、コンテンツの充実を図る。

※<sup>4</sup>履修証明制度とは

社会人を対象に体系的な教育プログラム（60時間以上）を編成し、その修了者に対し、大学・専修学校等が履修証明書を交付できる制度

※<sup>5</sup>職業実践力育成プログラムとは

大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定

(6) 生涯学習指針に沿ったプログラムの検証

- ・本指針に沿って実施するプログラムについては、定期的に学内の実施体制、学外のニーズ、成果などを検証・評価し、プログラムの改善に努める。

## 1-2 組織体制・年度計画

生涯学習門の事業を進めるにあたって、専任教員（1名）、特任研究員（1名）、兼務教員（6名）の体制で行っている。兼務教員は部門会議の委員であり、月1回の部門会議に出席して生涯学習部門の事業に関する助言を行っている。なお、令和元年度の事業計画については下記のとおりである。

部門名	生涯学習部門		
部門長	朴 賢淑（三陸復興・地域創生推進機構・准教授）		
班員			
氏名	所属・役職	氏名	所属・役職
溝口 昭彦	教育学部・准教授	浅沼 道成	人文社会科学部・教授
田代 高章	教育学部・教授	西村 文仁	理工学部・教授
由比 進	農学部・教授	竹村 祥子	男女共同参画推進室 人文社会科学部・教授
朴 仙子	三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門・特任研究員		
部門の事業テーマ			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯学習基盤づくり</li> <li>2. 社会人学び直しプログラムの開発</li> <li>3. 社会教育主事養成</li> <li>4. 地域の生涯学習リーダー育成</li> <li>5. 地域住民の生涯学習ニーズ調査</li> </ol>			
第3期中期目標・中期計画（平成28年度～令和3年度）活動概要			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.各学部および機構・センターとの連携による生涯学習支援体制づくりをととした生涯学習支援窓口の一本化を試みる。</li> <li>2.多様な学習者の学習ニーズに答えられる生涯学習プログラムづくりをととして地域課題に対応できる人材育成を目指す。</li> <li>3.社会教育主事養成をととして地域課題へ対応かつ自立した専門的職員の量的育成を目指す。</li> <li>4.地域の学習者が大学の公開講座および社会人学び直しプログラムで学んだものを地域で実践できる人材育成を目指す。</li> <li>5.定期的な地域住民の意識調査をととして地域住民のニーズを反映した生涯学習プログラムおよび生涯学習場づくりへ繋げていく。</li> <li>6.地域の生涯学習担当者とのネットワークづくりをととして、地域住民の生涯学習支援における質的向上を図る。</li> <li>7.岩手大学の生涯学習プログラムに参加する成人学習者を対象に定期的なニーズ調査を行</li> </ol>			

うとともに、調査結果を生かして社会人学生の正規課程への進学を促す。
令和元年度事業計画
事業テーマ1 生涯学習基盤づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習関連諸機関（教育委員会・社会教育施設等）とのネットワークづくりを通して、生涯学習の基盤づくりを行う。</li> <li>・1年の活動を成果報告書にまとめ、事業の拡大を図る。</li> <li>・外算要求に向けて東北経産局などヒヤリングを行う。</li> </ul>
事業テーマ2 社会人学び直しプログラムの開発
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会参加及び生涯学習関連関係諸機関のヒヤリングおよび資料収集を行うことで国の施策の動向、実践事例の現状を把握する。</li> <li>・社会人学び直し関連のシンポジウムを継続的に開催し、率先して大学における社会人学び直しプログラムの現状と課題を発信する。</li> <li>・国際的視点を持った社会人学び直しプログラム開発ため海外調査（政策動向、実践成果）を行う。</li> <li>・社会人学び直しプログラムの実施校との連携を図る。</li> <li>・各プログラムの受講者への学習ニーズ調査を通して、プログラムの充実化を図る。</li> <li>・企業・NPO・行政などとの連携を通じた地域人材の育成の可能性を検討する。</li> <li>・プログラム開発の経費を確保するため、概算要求の準備を進める。</li> </ul>
事業テーマ3 新たな社会人学び直しプログラム実施
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年から継続して開講している「がんちゃんの学び」の成果を踏まえ、地域産業（農業）、アート、スポーツ、文学（宮澤賢治）、文化（平泉）など岩手大学の特色を生かした地域に密着した新たなプログラムを実施する。</li> <li>・プログラムの修了者へのアンケート調査を実施し、受講者の「ライフ」と「ワーク」の相互の視点からアウトプット及びアウトカムを検証し、その結果を踏まえて今後のリカレント型社会人学び直しプログラムの開発に着手する。</li> <li>・地域の女性リーダーを対象に継続的な学習の機会を提供することで、地域の活性化を図る。</li> </ul>
事業テーマ4 社会教育主事育成
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度は協力校（弘前大学主催）として、運営に協力するとともに講師を派遣する。</li> <li>・1年後の社会教育主事講習カリキュラムの改編に備え、開発研究を実施する。</li> <li>・新カリキュラムの開発に向けて教育委員会との意見交換を行う。</li> <li>・岩手大学での開催に向けて実習先の確保の準備を進める。</li> <li>・社会教育施設職員の質向上のため、岩手県教育委員会、岩手県立生涯学習推進センターとの連携を通して、社会教育主事を対象にフォローアッププログラムの開発に着手する。</li> </ul>
事業テーマ5 生涯学習関連諸機関とのネットワークづくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北東北各県の教育委員会、社会教育施設との意見交換および事業への協力をとおして持</li> </ul>



<p>続可能な生涯学習システムの構築を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手大学がリーダーシップを発揮しICTを活用したプログラムを開発に取り組む。</li> </ul>
<p>事業テーマ6 生涯学習関連プログラムの検証</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内で開講されている社会人学び直しプログラムの受講者を対象にアンケート調査を行うことで学習成果を明らかにする。</li> <li>・生涯学習部門と各プログラムの連携を通して学習プログラムの質向上を図る。</li> <li>・大学での学習経験を持たない人が大学の各プログラムに参加できるよう環境整備を行う。</li> <li>・受講者の拡大を図るために、学外でのニーズ調査を行う。</li> </ul>

また、令和元年度よりアートフォーラム事業も生涯学習部門に組み込まれ、生涯学習部門と連携の基で事業を展開している。なお、令和元年度のアートフォーラムの事業計画については下記の通りである。

部門名	生涯学習部門 【アートフォーラム】		
班長	溝口 昭彦 (教育学部 准教授)		
班員			
氏名	所属・役職	氏名	所属・役職
阿部 裕之	人文社会科学部・教授	平野 英史	教育学部・准教授
田中 隆充	人文社会科学部・教授	藁谷 収	三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門客員教授(申請予定)
本村 健太	人文社会科学部・教授	玉澤 友基	人文社会科学部・教授
溝口 昭彦	教育学部・准教授	久保田 陽子	人文社会科学部・准教授
金澤 文緒	教育学部・准教授	牛渡 克之	教育学部・教授
大場 陽子	教育学部・准教授	木村 直弘	人文社会科学部・教授
長内 努	三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門客員教授 (継続申請予定)		
事業テーマ：第3期通年(H28～33年度)			
<p>事業テーマ1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いわての芸術文化活動を底上げし、牽引する人材の育成</li> </ul> <p>事業テーマ2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民・指導者・生徒のニーズに沿った活動に沿った市民の芸術活動の促進</li> </ul> <p>事業テーマ3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術指導者の学び直しの場の提供</li> </ul>			

活動概要：第3期通年(H28～33年度)	
<p>事業テーマ1. いわての芸術文化活動を底上げし、牽引する人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手の美術資源を活用して美術で人と人のつながりを広げることを目的として対話型事業「いわて美術茶話」を実施する。</li> </ul> <p>事業テーマ2. 地域住民・指導者・生徒のニーズに沿った市民の芸術活動の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アートフォーラムいわてと協力しながら、地域に開かれた芸術文化の学びの場としてアートスクールを開講し、学校教育の芸術環境の補完や向上、芸術に関心を持つ社会人、加えて芸術分野専門職等の継続的学びの機会提供など、学習・創作・交流の場を提供し、岩手の芸術文化活動の底上げ、牽引する人材を育成する</li> </ul> <p>事業テーマ3. 美術指導者の学びの場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特殊で技術の講習を受ける機会がない分野の研修を実施し、制作の発想、加工工程、発表までの流れを体験させ、芸術分野専門職等を育成する</li> </ul>	
目指すべき成果	
学術分野	無し
地域貢献分野	地域に芸術を媒体としたネットワーク・コミュニティを構築する。
人材養成分野	地域の芸術活動の核となる人材を養成する。
※その他、特筆すべき事項を記載下さい。	
令和元年度事業計画	
事業テーマ1	
いわて美術茶話中高校生版「美術」 いわて美術茶話高校生版「書道」 出張いわて美術茶話「宮古」	
事業テーマ2	
岩手大学アートスクール2019染織 岩手大学アートスクール2019版画 岩手大学アートスクール2019彫刻	
事業テーマ3	
美術指導者研修会	

### 1-3 会議報告

令和元年度生涯学習部門会議報告については<資料1-3-1>に代える。

## 会 議 報 告

会議名 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 第1回 部門会議

平成31年4月22日（月）開催

### 議 事

#### 1. 平成30年度第8回部門会議（メール会議）議事録について

部門員からの意見・質問等はなく、了承された。

#### 2. 平成31年度事業ロードマップについて

朴部門長より資料2に基づき、平成31年度事業計画について説明があった。また、アグリフロンティア、ものづくりマイスター、防災リーダーについては、今後議論をしながら進めること、まずは、社会人学び直しプログラムを中心に実施していくことを説明した。

（意見・質問）

藤代 予算を伴う部分もあるが、どのように考えているか？

朴 優先順位を考えて取り組みたい。

田代 アンケート等ニーズ把握も必要だが、中期計画で示す20%増を念頭に置いて平成31年度実施していくビジョンの明確化や、学部目線でどの項目が重点なのかロードマップ上で可視化する必要がある。

朴 修正して、次回の会議に提出したい。

藤代 アートフォーラムを公開講座の1つとして位置づけられないか？

朴 以前は、公開講座の1つであったが、公開講座にするのであれば、方法論を変えなければならない。

本件については、一部修正・検討が必要な部分はあるが、大枠として了承された。

#### 3. 企画講座（パイロットプログラム）について

朴部門長より資料3に基づき、以下の概要で企画講座を実施したいことを説明し、次回の部門会議で詳細な内容について提案することとした。

- ・実施時期：8月～12月
- ・回数：年15回
- ・定員：15名程度
- ・備考：フィールドワークを入れた講座、キャリアアップとなるような講座を検討中

（意見・質問）

溝口 カリキュラムにアートも入っているが、アートフォーラムとの差別化はどのように考えているか？将来的には文科省の認定、修了証など体系化を考えないと行き場がなくなってしまう。アートフォーラムの対象は、中高生向けもあるので整理が必要。

朴 方針が決まれば、数字や質の問題についてご意見を頂きたいと考えている。

田代 定員を満たせばよいのではなく、それぞれの受講者が地域でどのような活躍をしているのか把握すべき。また、第3期終了時を見据えて後半3年間で整理し、これを全体発表会や交流会などで受講者に示す必要がある。

朴 ポンチ絵で提示したい。

竹村 防災リーダーに参加した女性からは、「荷が重い」、「避難所の運営に何が必要かを知らなかった」という意見があり、受講者側の求めているものが違うのではないかと思うところ。一方でアグリフロンティアスクールでは、『自分に何ができるのか』を考えている人からは「参考になった」との意見もあった。

このように、地域のリーダーを『女性』の視点で考えるともう少し内容が絞られてくるのではないか。例えば、リーダーという場合、盛岡市近郊の中年の女性をターゲットとして考えたとき、講座がどういうことにつながるのかについて話をするとよいのではないか。また、回数は多くても10回（15回は多い）、5回を2～3セットの方が受講しやすい。各学部における震災復興への取り組みを1コマずつ紹介することもいい。

朴 社会人学び直しプログラムの受講者は、女性の高齢者が多いので、女性の視点が必要と感じているところ。まずは、できるところから案を作りたい。

藤代 企画書はせっかく企画室ができたのでそこで議論するとよい。

本件については、一部修正・検討が必要な部分はあるが、大枠として了承された。

#### 4. JR 寄付講座について

朴部門長より JR 東日本から観光・地域につながるような人材育成関連の講座について依頼（限度額 100 万円）があり、開催の方向で検討を進めていると説明された。また、寄附講座としての位置づけについては岩手大学では 2 千万円以上が寄附講座の要件となることを JR 東日本の担当者に伝え、了承済みであることを説明した。

次回部門会議で JR の依頼に対応した講座案を提示することとし、本件については、大枠として了承された。

### 報 告

#### 1. 第3期中期目標・中期計画について

藤代機構長より、資料5に基づき中期計画27、年度計画39についての説明と今年度新規に追加となった内容についての説明があった。

特に、意見・質問なし。

#### 2. 生涯学習（社会教育）指針検討ワーキンググループの設置について

藤代機構長より、資料6に基づきこれまでなかった指針の策定や将来の方向性を定めるため、ワーキンググループを設置すること、また、このことが学長副学長会議、部局長会議で了承されていることについて、説明があった。

特に、意見・質問なし。

#### 3. 三陸復興・地域創生推進機構組織改編について

藤代機構長より、資料7に基づき機構の組織改編について、説明があった。

特に、意見・質問なし。

#### 4. 生涯学習部門自己評価と平成31年度活動計画書

朴部門長より資料8の通り自己評価と活動計画書を提出したことについて、説明があった。

特に、意見・質問なし。

**5. アートフォーラム自己評価と平成 31 年度活動計画書**

溝口部門員より資料9の通り自己評価と活動計画書を提出したことについて、説明があった。

特に、意見・質問なし。

**6. その他**

次回の会議については、5月に日程調整を行い、実施日を決めることとした。

## 会 議 報 告

会議名 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 第2回 部門会議

令和元年5月31日（金）開催

### 議 事

#### 1. 令和元年度第1回生涯学習部門会議（メール会議）議事要旨について

朴部門長が「資料1 令和元年度第1回生涯学習部門会議（メール会議）議事要旨」に基づき説明し、特に、意見・質問等はなく、了承された。

#### 2. 令和元年度公開講座について

朴部門長から、「資料2 令和元年度公開講座一覧」に基づき説明し、特に、意見・質問等はなく、実施内容、予算等について了承された。

### 報 告

#### 1. 平成30年度活動経費執行報告について

朴部門長から、「資料3 平成30年度活動経費報告」、「資料4-1 平成30年度一般会計決算」、「資料4-2 平成30年度特別会計決算」に基づき、生涯学習部門に係る平成30年度決算について報告を行った。

#### 2. 令和元年度活動経費配分額について

朴部門長から、「資料5 令和元年度活動経費配分額」、「資料6-1 令和元年度三陸復興・地域創生推進機構予算案（一般会計）」、「資料6-2 令和元年度三陸復興・地域創生推進機構予算案（特別会計）」に基づき、生涯学習部門に係る令和元年度予算について報告を行った。

### その他

今回の会議については、7月に日程調整を行い、実施日を決めることとした。

## 会 議 報 告

会議名 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 第3回 部門会議

令和元年6月26日(水)開催

### 議 事

#### 1. 令和元年度第2回生涯学習部門会議(メール会議)議事要旨について

朴部門長が「資料1 令和元年度第2回生涯学習部門会議(メール会議)議事要旨」に基づき説明し、特に、意見・質問等はなく、了承された。

#### 2. 令和元年度事業ロードマップについて

朴部門長から、令和元年度の生涯学習予算削減に伴い「資料2 令和元年度三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門ロードマップ」の修正を行った旨を説明し、意見交換を行った。

なお、意見交換の際、朴部門長から、①今年度の戦略4のKPIの達成において既存プログラム(アグリフロンティア、エコリーダー・防災リーダー)の定員を生涯学習部門としては変えることができないため、認知度を高めることを主眼に置いたこと、②公開講座を競争的事業にする等、地域ニーズにあった講座に整理していきたい旨の付言があった。

また、朴部門長より岩手大学は「アグリフロンティアスクール」のみが履修証明プログラムとして位置づけられているが、履修証明プログラムの認定システムが学内でできていない現状説明と共に、法改正により今年度から60時間プログラムも認定対象になる旨説明があった。そこで、学内の既存プログラムの履修証明プログラム認定および、文部科学省の職業実践力育成プログラム(BP)への認定に向けて検討を進める旨説明があった。

なお、令和元年度の生涯学習部門事業については部門員から了承された。

#### 3. 新規プログラムの企画について

朴部門長から、「資料3 社会人学び直し関連講座 企画書(案)」に基づき説明し、意見交換を行った。

なお、意見交換の際、朴部門長から、①いわて生涯学習士は、準社会教育主事として位置づけていること、②いわて生涯学習士をイメージしやすいポンチ絵を作成すること、③「生涯学習・生涯教育学」のNo.1~7については、カリキュラムを修正し、次回に提示することに関して付言があった。

なお、新プログラムの企画案については課題はあるが、今年度開講し、その実績に基づき検討し、次年度に向けて準備を行うこととした。

### 報 告

#### 1. アートフォーラム事業報告について

溝口部門員から、①アートスクールメンバーによる定例会を開催すること②今年度はアートスクールに染織を加えること、③オープンキャンパスの際に美術茶話13を行う予定であることについて報告があった。



## 2. JR 寄付講座について

朴（仙子）部門員から、①現在 JR 側で寄付申込書を検討中であること、②旅行業における地域人材育成が求められていることから「インバウンド人材育成」をテーマに JR 側に提案していること、③寄付金はおおよそ 100 万円見込まれていることについて報告があった。

なお、企画には自治体からの共同研究員にも入ってもらうべきでは等の意見があった。

## 3. 公開講座リーフレットの発行について

朴（仙子）部門員から、岩手大学で地域住民を対象に開講している全ての講座を公開講座として位置づけ、リーフレットを発行したことについて報告があった。

リーフレットは、県内の小中高校、公民館、教育委員会などに送付し、一般の方から多数の問い合わせがあるなど反響があったことが報告された。また、生涯学習士講座について、市町村関係者から職員研修として位置付けたい意見が寄せられた。

## その他

今回の会議については、7月に日程調整を行い、実施日を決めることとした。

## 会 議 報 告

会議名 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 第4回 部門会議

令和元年7月24日(水)開催

### 議 事

#### 1. 令和元年度第3回生涯学習部門会議議事要旨について

朴部門長が「資料1 令和元年度第2回生涯学習部門会議議事要旨」に基づき説明し、特に、意見・質問等はなく、了承された。

#### 2. いわて生涯学習士育成講座について

朴部門長が「資料2-1 社会人学び直し関連講座「いわて生涯学習士育成講座」企画書」、「資料2-2 岩手県立生涯学習推進センターとの連携に関する打ち合わせ記録」、「資料2-2 岩手県教育委員会との連携に関する打ち合わせ記録」に基づき審議を依頼し、委員から以下の質疑応答及び意見が出され、審議の結果、了承された。

##### 【質疑応答・意見】

Q1. 企画書2 ページ9 対象者及び定員の表について、項目ごとに定員を設定しているのであれば、各項目に人数を入れた方が良い。定員が15名程度であれば、項目ごとの枠線は不要ではないか。

A1. 項目ごとに定員を設定しているわけではないので、ご指摘の箇所は枠を外す。また、募集要項を作成する際には、対象者と定員を分けてそれぞれ作成する。

Q2. 第3回生涯学習部門会議議事要旨では、「いわて生涯学習士育成講座」における「いわて生涯学習士」を「準社会教育主事」と位置づけるとの部門長の発言が記録されているが、資料2-1の「いわて生涯学習士育成講座」企画書の中のイメージ図では、「準生涯学習士」という言葉を使っており、「生涯学習士」の位置づけが不明。

また、そもそも「準生涯学習士」と「社会教育主事」との違いについて、受講生に分かりやすくするため、イメージ図でも明記する必要があるのではないか。

A2. 企画書に「生涯教育」、「生涯学習」の用語が混在していることから、下記のように統一する。

「準生涯学習士」 ⇒ 「準社会教育主事」

「生涯教育」 ⇒ 「生涯学習」

また、「準生涯学習士」と「社会教育主事」の違いについては、次回部門会議までに資料を準備いたします。

Q3. 資料2-1の「いわて生涯学習士育成講座」企画書の3頁の11.の修了証について、修了書の認定権者（主催者である岩手大学長なのか?）、認定修了証発行時期、認定基準を明記しなくて良いか?

また、同箇所の「生涯教育計画書を提出した者」の「生涯教育計画書」とあり、イメージ図の上部にも「生涯教育計画構想」とあるが、「生涯学習計画書」とか、「生涯学習」という用語に統一しても良いと思うが。

A3. 次回部門会議までに資料を準備する。

#### 報 告

**1. 令和元年度 副学長（国際連携担当）裁量経費について**

朴部門長より「台湾国立台東大学との研究連携強化事業」（20万円）が採択された旨を報告した。

**2. 社会教育主事講習について**

朴部門長が「令和元年度北東北の社会教育主事講習が弘前大学で開講されている旨を報告した。

## 会 議 報 告

会議名 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 第5回 部門会議

令和元年8月27日(火)開催

### 議 事

#### 1. 令和元年度第4回部門会議(メール会議)議事録について

朴部門長から、資料1に基づき前回記録の確認を行う旨の説明及び前回メール会議時における質問事項に対する回答についての説明があった。

なお、部門長から、質問事項3でのいわて生涯学習士育成講座に係る生涯学習計画書の提出については、提出を求めないことにしたい旨の補足説明があった。

審議の結果、これを了承した。

#### 2. いわて生涯学習士育成講座について

朴部門長から、いわて生涯学習士育成講座の実施に際し、第1期受講生募集案について確認を行いたい旨の説明があった。

次いで、朴(仙)委員から、資料2-1及び資料2-2に基づき、受講生募集及び教育プログラムの実施並びに修了証の授与を行いたい旨の提案があった。

提案に際し、委員から以下の質疑応答及び意見が出され、審議の結果、意見を反映し修正した受講生募集案をメール会議等により再度審議することとなった。

#### 【質疑応答・意見】

- ◆募集定員について、各講義15名となっているが、充足する見込みはあるか？  
→ 現在、岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、釜石市教育委員会に後援いただく予定としており、今後、八幡平市教育委員会及び奥州市教育委員会にも後援いただける見込みである。これらの機関と協力し、定員充足に尽力したい。
- ◆募集定員について、各講義15名となっているが、講義ごとに募集を行うのか。  
→ そのとおりである。
- ◆修了証・資格の授与について、3年間の記述がある。講義ごとに募集を行うとのことだが、3年間の開始日は初回講義の日から起算するのか。その場合は、受講生ごとに3年間の起算日が異なることが想定されることから、開講日時に配慮する必要がある。また、このほかにも想定される事態があると思われることから、注意が必要である。
- ◆修了証・資格の授与について、3年間で各コースとの記述がある。3年間で教育プログラムを修了できればよいとのことだが、このままでは、3年かけて受講すると読み取れることから修正した方がよい。同じく、演習を1回以上とあるが15時間以上へ修正した方がよい。  
→ ご指摘の部分は再度検討し、メール会議にて提示する。
- ◆修了証・資格の授与について、コース単位での修了を認めることとしてはどうか。
- ◆教育プログラムについて、講座名・講師が変わることはあり得ると思うが、コース名は固定した方がよい。
- ◆教育理念について、イメージ図内の関連諸機関に記載されている自治体機関は後援申請状況と連動させるようにした方がよい。
- ◆教育プログラムについて、次回以降、ゆとりをもった開催日時を設定した方がよい。

### 3. いわて観光グローバル人材育成講座について

朴部門長から、いわて観光グローバル人材育成講座の実施に際し、机上配布資料（観光関連講座企画書案）に基づき、受講生募集要項案について確認を行いたい旨の説明があった。

次いで、朴（仙）委員から、資料3-1及び資料3-2に基づき、受講生募集要項及び教育プログラムの実施並びに修了証の授与を行いたい旨の提案があった。

提案に際し、委員から以下の質疑応答及び意見が出され、審議の結果、意見を反映し修正した受講生募集要項をメール会議等により再度審議することとなった。

#### 【質疑応答・意見】

◆募集対象者について、学生を対象としているが大学の授業時間区分と当該講座の開講時間にずれがあり、学生が参加できないことが想定される。

→ 当講座は主に社会人を対象に考えており、興味がある学生が参加することを想定している。よって、学生は削除することも考えている。

◆教育理念について、岩手県の観光資源との文言があるが県単位では範囲が狭く、少なくとも東北地域を単位とした視点が必要である。

→ 見出しの部分の「教育理念」を修正し、内容も修正し次回の会議で提示する。

◆本講座について、本年度のみの開催とのことだが、それでよいのか。実施に要する経費をJR東日本からの寄附金で賄うとのことであり、また、同様の事業を行う県立大の事業経費もJR東日本が負担しているとのことだが、JR東日本の事業の一部に本学が協力するものと理解してよいのか。そうではなく、複数年度にまたがる事業の協力であれば、次年度以降も開催する可能性があるのではないか。JR東日本内での本講座の位置付を確認する必要がある。

→ 当講座は社会人学び直しプログラムの開発の一環として、JR東日本の寄付金を活用し観光の視点から地域活性化を考えるためのモニタリングを行うためのものである。なお、JR東日本からの寄付は単年度になるが今後も続ける可能性もある。

◆本講座に限った事ではないが、講座を修了することのメリットを熟慮する必要がある。

→ 今後の課題として検討していく。

## 報 告

### 1. アートフォーラム事業報告について

溝口委員から、資料4に基づきアートフォーラム事業について、報告があった。

## 会 議 報 告

会議名 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 第6回 部門会議

令和元年8月30日（金）開催

### 議 事

**1. 令和元年度第5回生涯学習部門会議議事要旨について**

朴部門長が「資料1 令和元年度第5回生涯学習部門会議議事要旨（案）」を添付し、特に、意見・質問等はなく、了承された。

**2. いわて生涯学習士育成講座について**

「資料2 令和元年度いわて生涯学習士育成講座募集要項」を添付し、特に意見・質問等はなく、了承された。

**3. いわて観光グローバル人材育成講座について**

「資料3 令和元年度いわて観光グローバル人材育成講座募集要項」を添付し、特に意見・質問等はなく、了承された。

### 報 告

なし

## 会 議 報 告

会議名 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 第7回 部門会議

令和元年 10月30日（水）開催

### 議 事

**1. 令和元年度第6回生涯学習部門会議議事要旨について**

「資料1 令和元年度第6回生涯学習部門会議議事要旨（案）」を添付し、特に、意見・質問等はなく、了承された。

### 報 告

**1. いわて生涯学習士育成講座について**

「資料2-1 「いわて生涯学習士育成講座」受講者名簿」「資料2-2 新聞記事」により受講者募集の進捗状況が報告された。

**2. いわて観光グローバル人材育成講座について**

「資料3 「いわて観光グローバル人材育成講座」受講者名簿」により受講者募集の進捗状況が報告された。

## 会 議 報 告

会議名 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 第8回 部門会議

令和元年 12月5日(木) 開催

### 議 事

#### 1. 令和元年度第7回生涯学習部門会議議事要旨について

朴部門長が「資料1 令和元年度第7回生涯学習部門会議議事要旨」に基づき説明し、特に、意見・質問等はなく、了承された。

#### 2. 令和2年度生涯学習部門事業計画について

部門長から、資料2-1及び資料2-2に基づき令和2年度生涯学習部門事業計画について、以下のとおり事業内容の説明があった。

また、説明後、令和2年度年度計画案の修正及び三陸復興・地域創生推進機構組織再編によっては、ロードマップを修正し再度審議したい旨の補足説明があった。

説明後、委員から企業連携のJR東日本寄附講座は、いわて観光グローバル人材育成講座と連動するものであれば、社会人学び直しプログラムの項目へ変更した方がよい旨の意見があった。

<事業内容説明>

##### ◆社会人学び直しプログラム

- ・いわて生涯学習士育成講座運営委員会

令和2年度の運営会議開催に向けて本年度1～3月に部門長が関係市町村教育委員会へヒヤリング調査を行う。

- ・いわて観光グローバル人材育成講座

JR東日本から今年度同様に令和2年度も開催したいとの打診が部門長宛に来ており、開催する方向で調整する。

- ・地域創生専攻、平泉文化研究センターとの連携

いわて生涯学習士育成講座、いわて観光グローバル人材育成講座の開講に向け、専攻・センター教員へ協力(科目担当)を依頼する。

##### ◆企業連携

- ・JR東日本寄附講座

岩手大学寄附講座及び寄附研究部門に関する規則について、公開講座等の運営目的の寄附にも対応できるよう見直しを行う。

#### 3. 公開講座について

部門長から、資料3-1に基づき、平成30年度公開講座担当教員へインセンティブ経費を配分したい旨の提案があった。

審議の結果、これを了承した。

次いで、部門長から資料3-2に基づき、令和2年度岩手大学公開講座実施計画書の提出について、各部局へ提出を依頼したい旨の提案があった。

また、提案に際し、実施までの日程について、年度内に提案された公開講座一覧を報告した後、開催経費等の審議を次年度5月頃に行い、提案者へ結果を通知したい旨の補足説明があった。



審議の結果、これを了承した。

## 報 告

### 1. アートフォーラム事業報告について

部門長から、資料4に基づきアートフォーラム事業報告について、8月から11月の実施報告及び12月以降の計画について報告があった。

### 2. いわて生涯学習士育成講座について

部門長及び朴（仙）委員から、資料5-1、資料5-2及び資料5-3に基づきいわて生涯学習士育成講座の開講結果について報告があった。

### 3. いわて観光グローバル人材育成講座について

部門長及び朴（仙）委員から、資料6-1及び資料6-2に基づきいわて観光グローバル人材育成講座の開講結果について報告があった。

なお、部門長から、10名が受講し9名が修了した旨の補足説明があった。

### 4. 第3期中期目標令和2年度年度計画及び戦略4について

部門長から、第3期中期目標令和2年度年度計画及び戦略4について、資料7-1及び資料7-2のとおり機構長から点検評価委員会へ報告されている旨の説明があった。

また、説明に際し、3月の文科省への提出に向けて修正されることがあること、令和2年度年度計画及び戦略4評価指標について男女共同参画推進室の事業との関係性を機構長へ確認したい旨の補足説明があった。

### 5. 機構組織変更について

部門長から、次年度に向けて三陸復興・地域創生推進機構の組織変更が機構長を中心に検討されている旨の報告があった。

### 6. 生涯学習指針検討ワーキング会議について

部門長から、藤代理事を座長とした生涯学習指針検討ワーキングが開催され、生涯学習指針案が策定された旨の報告があった。

## 2 生涯学習部門事業報告

いわて生涯学習士育成講座

いわて観光グローバル人材育成講座

アートフォーラム

公開講座

企画講座「がんちゃんの学び」

地域連携

社会教育主事講習



## 2-1 いわて生涯学習士育成講座

少子高齢化、貧困問題、震災復興、外国人の増加など、近年地域における多様な課題に対応できる人材育成が求められているなか、社会教育行政の縮小が進んでおり、地方における人材不足が浮き彫りになっている。こうした現状を鑑み生涯学習部門では今年度より、社会教育（生涯学習）・保健福祉関連の行政職員、NPO など地域の課題に取り組んでいる方を対象に地域社会の変化をいち早くキャッチし、地域課題の解決に取り組む力を育むキャリアアッププログラムである「いわて生涯学習士育成講座」（60 時間）を実施した。

本講座は、過去 3 年間実施したパイロットプログラム「がんちゃんの学び」及び「社会人学び直しシンポジウム」（2 回開催）の成果、地域住民の生涯学習ニーズ調査を実施した結果を踏まえ、岩手県教育委員会、盛岡市、釜石市などの生涯学習・教育担当者と検討を重ねたうえで実施したものである。

講座では、生涯学習理論を学ぶ「生涯学習基礎コース」、地域の現状を把握し、ともに地域課題を考える「地域課題コース」、地域の歴史、資源について理解を深めることで、地域の振興につなげる「地元学コース」、先進的実践現場の活動に参加、地域課題について受講者同士が共同作業を通して議論し解決に繋げる「フィールドワークコース」の 4 コースを開講し、理論と実践を組み合わせたプログラムを提供している。

また、仕事と学習を両立できるように受講期間を 3 年としている。修了認定においては、各コースを 15 時間以上受講した場合、コースごとに「コース修了証」を発行し、4 コース全て受講した者には「いわて生涯学習士育成講座修了証」〈資料 2-1-3〉を発行した。さらに「いわて生涯学習士」の称号を与えており、今年度は、19 名の受講者の内 10 名が修了した。



コース詳細は、〈資料 2-1-1〉、〈資料 2-1-2〉を参照されたい。

なお、「いわて生涯学習士育成講座」のカリキュラムに地域ニーズを反映させるため受講者を対象にアンケート調査〈資料 2-1-4〉をしている。さらに、令和 2 年度より岩手県教育委員会、市町村教育委員会及び NPO、生涯学習関連専門家等で運営委員会を発足させる予定である。

## 岩手大学 社会人学び直しプログラム

少子高齢化、貧困問題、震災復興、外国人の増加など、近年地域における多様な課題に対応できる人材育成が求められています。さらに、社会教育行政の縮小が進んでおり、地方における人材不足が浮き彫りになっています。

こうした現状を鑑み岩手大学では、社会教育(生涯学習)・保健福祉関連の行政職員、NPOなど地域の課題に取り組んでいる方を対象に地域社会の変化をいち早くキャッチし、地域課題の解決に取り組む力を育むキャリアアッププログラムである「いわて生涯学習士育成講座」を実施します。

なお、当講座は社会人学び直しプログラムの開発の一環として実施します。

ところ

岩手大学 地域連携推進センター棟  
2階 ゼミ室

定員

各講義15名 [申込みは9月26日まで]

受講料

無料

対象者

地域で生涯学習活動や地域福祉  
に関わっている方

- 生涯学習、保健福祉関連の行政職員
- 生涯学習ボランティア活動をされている方
- 学校支援や地域貢献活動をされている方
- 地域学校協働活動推進事業に携わっている方(小中学校地域コーディネーター等)
- 社会教育施設、青少年教育施設、生涯学習推進センター、公民館等の関係者
- 社会教育主事、社会教育委員、教育行政等の関係者
- 児童館、博物館、図書館、歴史館、動物園等の関係者
- 企業、団体、福祉関係で社会貢献等に携わっている方
- これから、地域や学校でボランティア活動を始めたい方
- 将来、社会教育や学校教育の領域へ就職を希望の学生
- 生涯学習に興味のある方

修了証  
あり

# いわて生涯学習士 育成講座 受講者募集

### ■ カリキュラム (一部のみの受講も可能)

生涯学習 基礎コース	1	生涯学習概論		
	10/2	10:00~12:15	社会教育の意義と展開	
		13:00~15:15	生涯学習社会と学校教育	
		15:30~17:45	生涯学習関連施策の動向	
地域課題 コース	2	社会教育経営論		
	11/6	13:00~15:15	社会教育施設の経営戦略	
		15:30~17:45	社会教育を推進する地域ネットワークの形成	
	10/30	10:00~12:15	地域社会と女性	
		13:00~15:15	国際理解教育と生涯学習	
		15:30~17:45	高齢者の運動と健康	
地元学 コース		11/20	13:00~15:15	東日本大震災からの農林水産業と地域社会の復興
			15:30~17:45	貧困問題と子ども支援
		10/9	13:00~15:15	平泉文化と古代中国
			15:30~17:45	宮澤賢治と地域社会
	11/27	10:00~12:15	観光と地域社会	
		13:00~15:15	三陸のサケと日本のサケ	
		15:30~17:45	被災地の復興に資するプラットフォームとしての 地域防災研究センターの役割	
フィールド ワークコース	10/23	10:00~17:00	地域の課題を考える(実践事例で学ぶ)	
	11/13			

申込み  
方法

受講申込書に必要事項を記載の上、E-mailまたは郵送で  
9月26日(木)までにお申し込みください。受講申込書は  
ホームページ(<http://www.ccrd.iwate-u.ac.jp/news/3310/>)から  
ダウンロードまたは、事務局にご連絡いただければ郵送いたします。  
※個人情報保護は当講座の運営管理の目的のみに利用いたします。



問合せ  
申込み

岩手大学 三陸復興・  
地域創生推進機構

生涯学習部門

TEL:019-621-6492 E-mail:renkei@iwate-u.ac.jp  
〒020-8551 岩手県盛岡市上田4丁目3番5号



主催/国立大学法人岩手大学 後援/岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、釜石市教育委員会、奥州市教育委員会、八幡平市教育委員会



地域の課題を  
一緒に考えましょう！

**2019年度  
いわて生涯学習士育成講座  
第1期受講生募集**

主催：岩手大学 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門  
後援：岩手県教育委員会 盛岡市教育委員会 釜石市教育委員会  
奥州市教育委員会 八幡平市教育委員会

## I いわて生涯学習士育成講座の概要

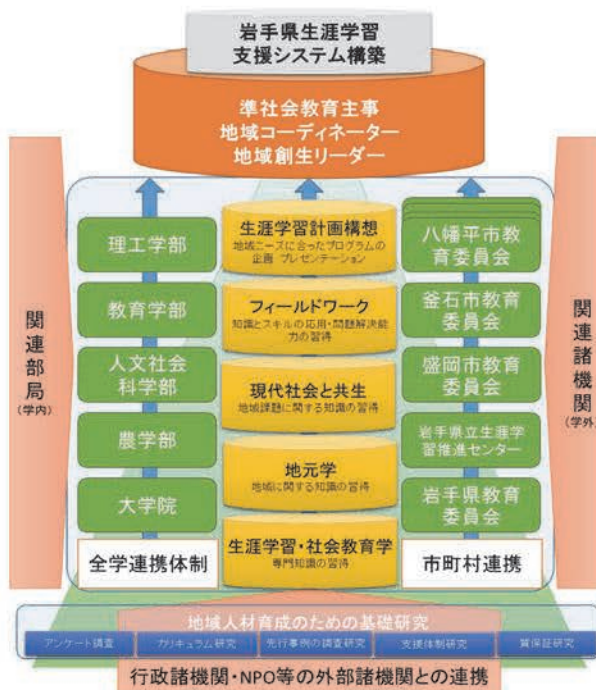
### <教育理念>

近年、社会教育行政の縮小により、市町村の社会教育（生涯学習）の担い手の不足が深刻な課題となっています。よって、公民館等の生涯学習施設への社会教育主事の配置が困難となり、社会教育、生涯学習関連部署の担当職員の専門知識の不足が浮き彫りとなっています。

そこで、社会教育関連の職員など地域で生涯学習に関わっている方を対象に地域社会の変化や地域課題の解決に取り組む力を育む社会教育・生涯学習リーダー育成及び社会教育を推進する地域ネットワークの形成を目指したキャリアアッププログラムである「いわて生涯学習士育成講座」を実施します。本講座では、岩手県が抱えている地域課題に焦点を当て、社会教育・生涯学習担当者にリカレント教育の場を提供します。

なお、当企画講座は社会人学び直しプログラムの開発の一環として実施します。

### いわて生涯学習士育成講座 イメージ



### <教育科目と教育方法>

生涯学習概念一般が勉強できる「生涯学習基礎コース」、地域の現状を把握し、共に地域課題を考える場を提供する「地域課題コース」、地域の歴史、資源への理解を深めることで、地域の振興を企画する「地元学コース」の他、実践現場の活動を見ながら情報交換できる「フィールドワーク」を開講します。

### <修了証・資格の授与>

3年間で各コース（生涯学習基礎コース、地域課題コース、地元学コース）15時間以上受講すると共に、演習を1回以上受講した方には、修了証を授与します。

### <受講料>

無料（但し、フィールドワーク先での飲食代は受講者の負担とする。）

<教育プログラム>

コース	開催日時	講義名	講師所属	時間数 (45分)
生涯学習 基礎コー ス	1 生涯学習概論			
	10/2	10:00～12:15 社会教育の意義と展開	岩手大学 三陸復興・地域創生推進機構 准教授 朴 賢淑	3
		13:00～15:15 生涯学習社会と学校教育	岩手大学 三陸復興・地域創生推進機構 客員教授 新妻 二男	3
	15:30～17:45 生涯学習関連施策の動向	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課 主任社会教 育主事 澤柳 健一	3	
地域課題 コース	2 社会教育経営論			
	11/6	13:00～15:15 社会教育施設の経営戦略	盛岡市上田公民館 館長 中野 玲子	3
		15:30～17:45 社会教育を推進する地域ネットワークの形成	岩手県立生涯学習推進センター 所長 藤原 安生	3
	10/30	10:00～12:15 地域社会と女性	岩手大学 三陸復興・地域創生推進機構 准教授 朴 賢淑	3
		13:00～15:15 国際理解教育と生涯学習	岩手大学 教育推進機構 教授 尾中 夏美	3
		15:30～17:45 高齢者の運動と健康	岩手大学 人文社会科学部 教授 栗林 徹	3
	11/20	13:00～15:15 東日本大震災からの農林水産業と地域社会の復興	岩手大学農学部 教授/地域コミュニティ再建支援班 班長 廣田 純一	3
		15:30～17:45 貧困問題と子ども支援	特定非営利活動法人 インクルいわて 理事長 山屋 理恵	3
	10/9	13:00～15:15 平泉文化と古代中国	岩手大学 平泉文化研究センター 教授 劉 海宇	3
		15:30～17:45 宮澤賢治と地域社会	岩手大学 教育学部 教授 大野 眞男	3
	11/27	10:00～12:15 観光と地域社会	岩手大学 三陸復興・地域創生推進機構 准教授 朴 賢淑	3
13:00～15:15 三陸のサケと日本のサケ		岩手大学 農学部 助教 塚越 英晴	3	
10/23 11/13	15:30～17:45 被災地の復興に資するプラットフォームとしての地域 防災研究センターの役割	岩手大学 地域防災研究センター 教授 福留 邦洋	3	
	10:00～17:00 フィールドワーク (地域課題に対する実践事例の訪問調査)	岩手大学 三陸復興・地域創生推進機構 准教授 朴 賢淑	15	

※授業時間：15 時間×4 コース＝60 時間（学校教育法第 105 条等で定める履修証明制度認定基準に準ずる）。



## II 受講者の募集要項

### <募集対象者>

地域で生涯学習活動や地域福祉に関わっている方（特に、下記のような方にお勧めします）

- 生涯学習、保健福祉関連の行政職員
- 生涯学習ボランティア活動をされている方
- 学校支援や地域貢献活動をされている方
- 地域学校協働活動推進事業に携わっている方（小中学校地域コーディネーター等）
- 社会教育施設、青少年教育施設、生涯学習推進センター、公民館等の関係者
- 社会教育主事、社会教育委員、教育行政等の関係者
- 児童館、博物館、図書館、歴史館、動物園等の関係者
- 企業、団体、福祉関係で社会貢献等に携わっている方
- これから、地域や学校でボランティア活動を始めたい方
- 将来、社会教育や学校教育の領域へ就職を希望の学生
- 生涯学習に興味のある方

### <募集定員>

各講義 15名（先着順）

### <募集期間>

【1次募集】：令和元年9月2日（月）～9月27日（金）（必着）

※1次募集締め切り以降、定員に達していない講座においては、追加募集を行う予定です。

### <応募書類>

所定の受講申込書に黒のボールペンで必要事項を記載してください。

上半身、脱帽、正面向き、背景無しの写真1枚（4cm×4cm）を貼付してください。

### <応募書類の提出先・お問合せ先>

必要事項を記載済みの受講申込書を下記に郵送またはメールに添付してください。郵送の際、封筒の表に「受講申込書在中」と朱書きしてください。

〒020-8551 盛岡市上田4丁目3番5号

岩手大学 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門

TEL：019-621-6852

E-mail：[renkei@iwate-u.ac.jp](mailto:renkei@iwate-u.ac.jp)

### <会場へのアクセス方法>

会場：岩手大学地域連携推進センター棟2階 ゼミ室

（〒020-8551 岩手県盛岡市上田4丁目3番5号）

お車の方はコラボMIUの駐車場をご利用ください。

（理工学部正門からは入れません。）



第001号

# 修了証明書

〇〇〇〇 殿

下記の講座において、全課程を修了したことを証明する  
なお、いわて生涯学習士と称することを認める

## 記

講座の名称 いわて生涯学習士育成講座

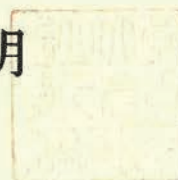
講座の概要 岩手県が抱えている地域課題に焦点を当て、社会教育関連の職員など地域で生涯学習に関わっている方を対象に地域社会の変化や地域課題の解決に取り組む力を育む社会教育・生涯学習リーダー育成及び社会教育を推進する地域ネットワークの形成を目指したキャリアアッププログラムである。

総時間数 60時間

令和元年11月27日

国立大学法人 岩手大学

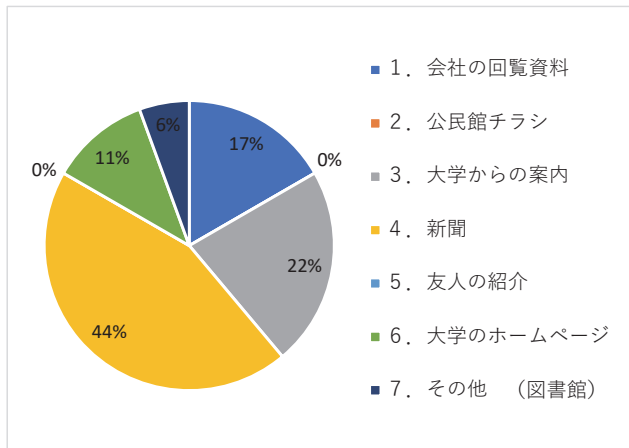
学長 岩淵 明



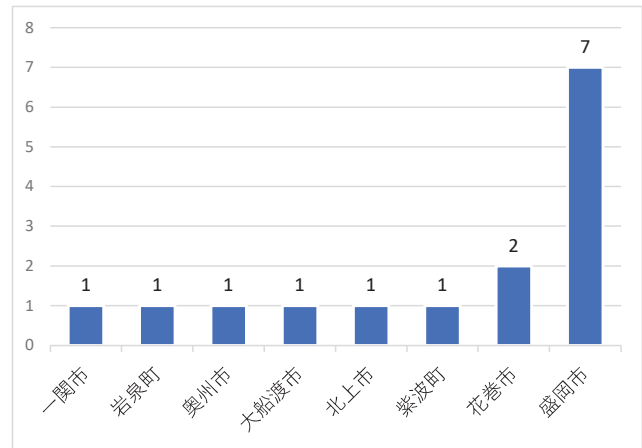
## 令和元年度いわて生涯学習士育成講座アンケート調査結果

実施日：令和元年11月27日（水）  
受講生：19名（うち回答者：17名）

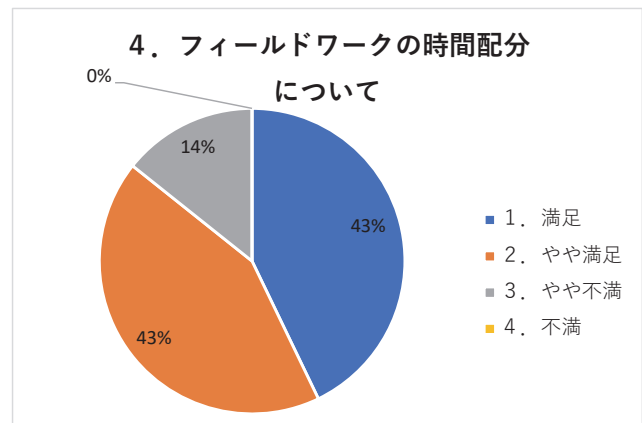
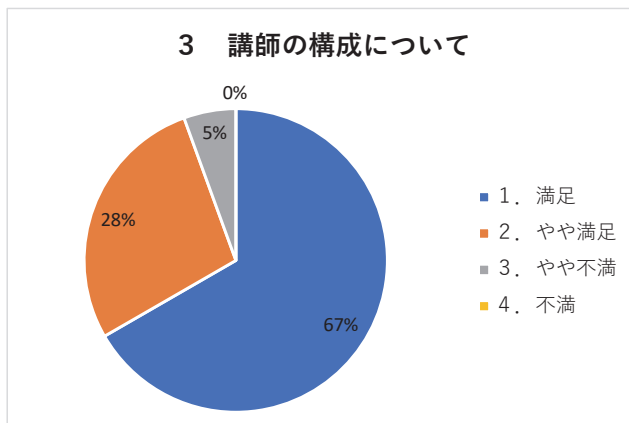
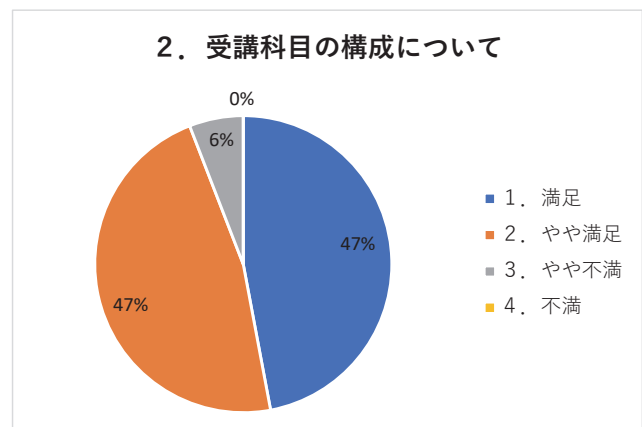
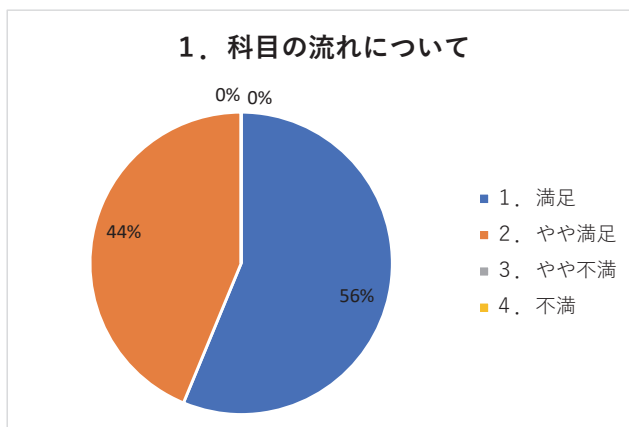
問1 当講座の情報はどちらから知りましたか。



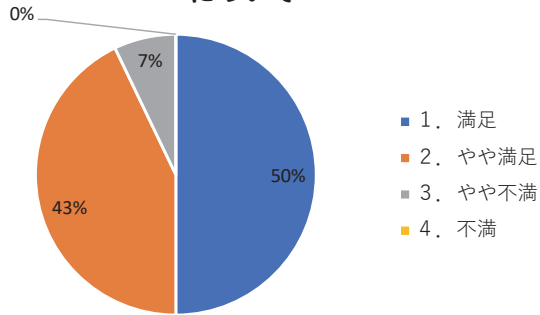
問2 居住地域を教えてください。



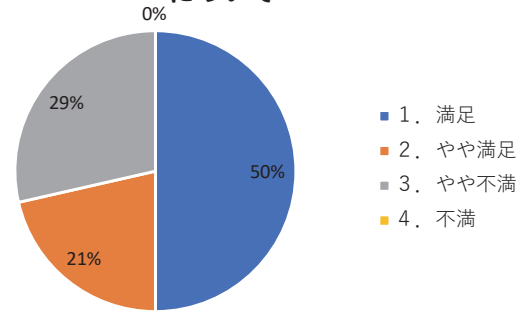
問3 講習のプログラム、運営にかかる次の項目についてあなたの考えに近いものを選んで○を付けてください。



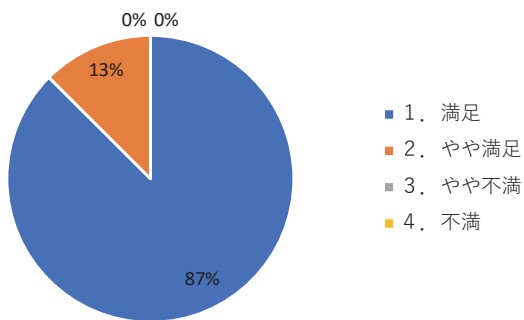
### 5. フィールドワークの訪問地 について



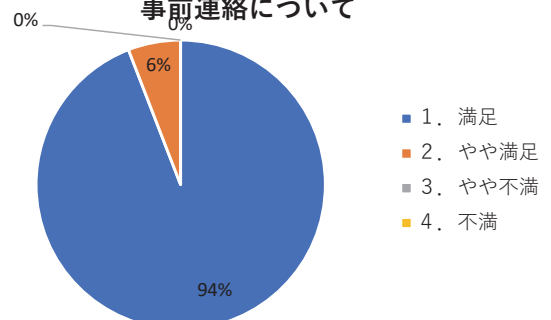
### 6. フィールドワークの目標設定 について



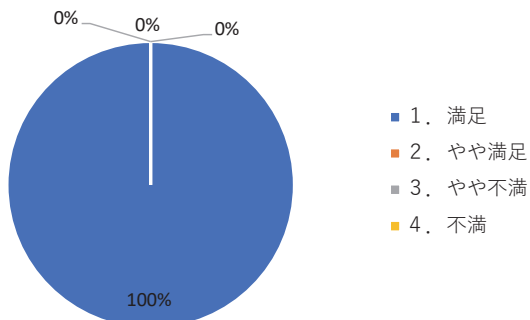
### 7. 講習会場について



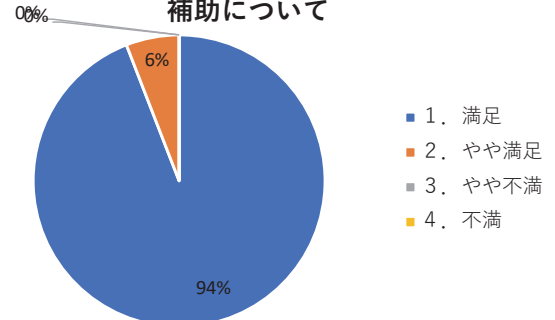
### 8. 受講前からの大学からの 事前連絡について



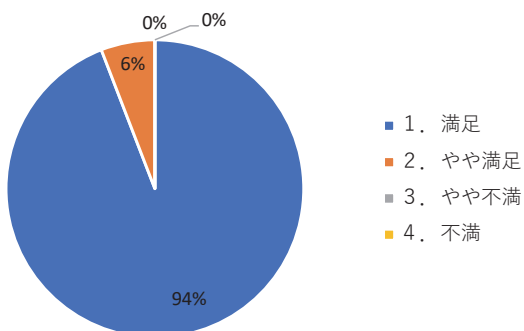
### 9. 受講にかかる経費について



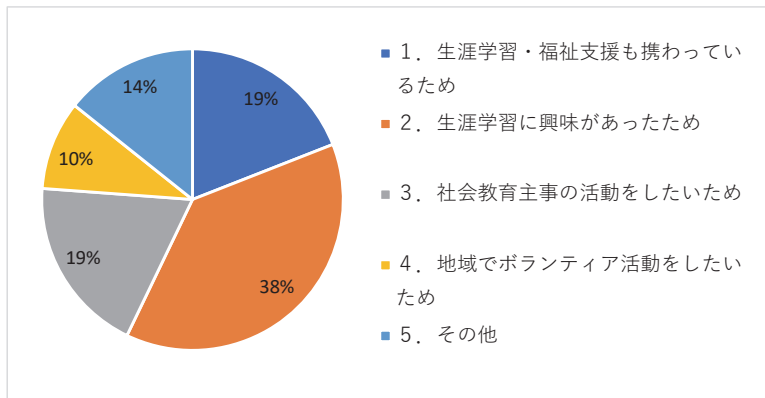
### 10. 講習の運営スタッフの 補助について



### 11. 講習全般の運営について



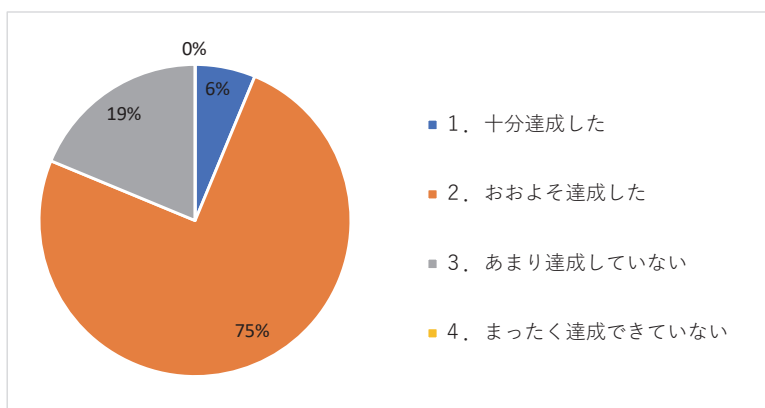
問4 本講座に参加した目的を教えてください。



【問4「その他」の記載】

- ・紫波町行政への改善のため
- ・何かしたいと思うが、それが分からないため。
- ・講座の内容で興味あるのものがあったため。

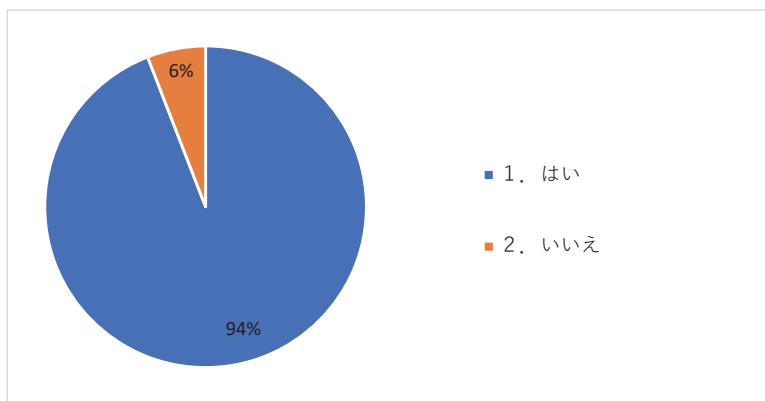
問5 本講座に参加して、問4の達成度を教えてください。



【「問5」の理由】

- 「3. あまり達成していない」選択者
- ・全ての講座を受講できず、受講者同士で名刺交換できず、ネットワークを広げられなかったため。

問6 来年度も生涯学習士育成講座を開講をしますが、講義内容が変更となる場合参加したいと思いますか。その理由も併せてお教えてください。



【「問6」の理由】

※「はい」の回答者

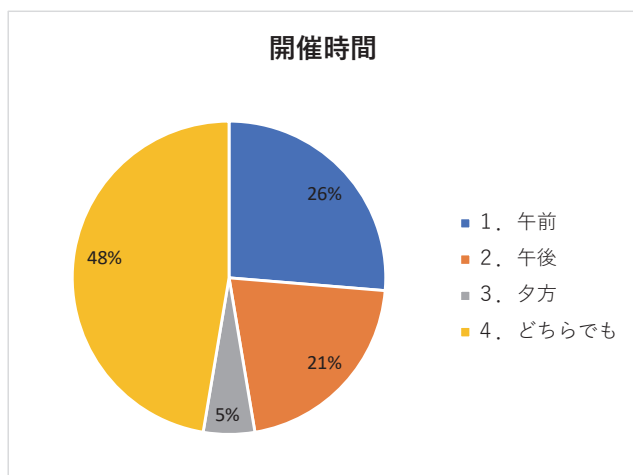
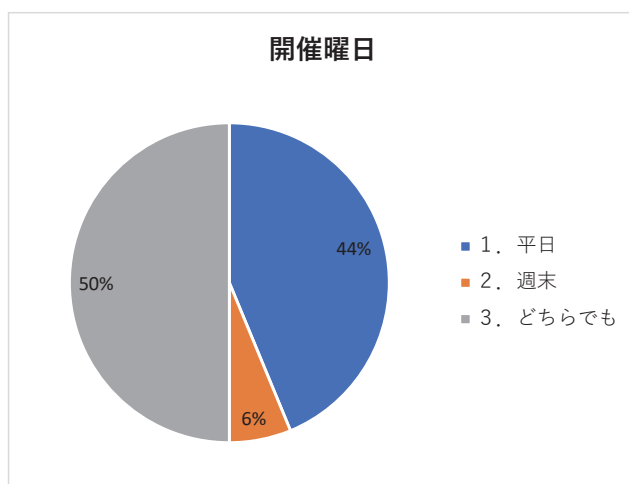
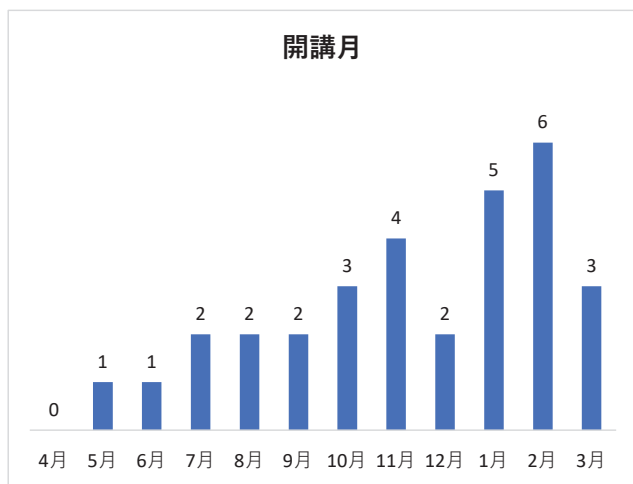
- ・ 色々な分野の話を知りたい。
- ・ この先、地域や社会に貢献したいが、もう少し地域状況や、どう進めていくか知りたい。
- ・ 行政法の解釈についてもっと知りたいと思いました。
- ・ 職務に役立てたい。
- ・ まだまだ勉強が足りない。
- ・ 色々学びたい。
- ・ 興味があるものだったら学びたい。
- ・ 講義内容が変更となるのであれば参加したい。

- ・ 講義内容が多岐にわたり、先生方も理解しやすく、講義していただいた。
- ・ 講師や内容によって、視点が異なるので興味があるため。
- ・ 様々な「つながり（方）」を学びたい。
- ・ 各分野の（講師の）研究の成果を知りたい。
- ・ 自分の興味ある講座があるかもしれないので。
- ・ ボランティア活動をしているため、日程さえあって、内容が関心度の高いものであれば。
- ・ 生涯学習士の資格を得たいため。

※ 「いいえ」の回答者

- ・ より興味のあることに集中したい。

問7 開催日程にご希望がございましたら教えてください。



問8 最後に、講座全般についてお気づきの点、今後の要望等をご自由にご記入ください。

- ・ 学び直しプログラム、とても気に入りました。高齢ですが、指導を受けること、とても楽しいです。地域には何らかの恩返しを必ずやらなければと思いました。地区の公民館に指導員さんを配置されております。この方々に受講を勧めたいと思いました。必ず成果が得られると確信いたしました。
- ・ 非常に素晴らしいです。可能であれば、社会教育士任用資格にも併用させて頂ければ幸いです。職務上、社会教育士資格を受講できない人もいます。
- ・ 今年の講座も大変勉強になりました。スタッフの皆さんご苦労様でした。明年もよろしく願います。

- ・ 今回の生涯学習という中にはありなのかもしれないが、1コマほど、全く受講生の心にも頭にも入らない、先生だけが一方通行で説明して終わったコマがあった気がした。フィールドワークに今回参加しなかった理由として、座学とフィールドワークとセットってことだったが、座学で学び、興味があったらフィールドワークに参加、不参加を決めたかった。参加した人にたずねたら、フィールドワークは満足度が低かった方が多かった。次回の生涯学習の講座を募集する時は、フィールドワークの内容が先にしっかり説明されていた方がいいと思う。
- ・ 固定日は参加しやすかった。この講座に対する目標や意識の違いが大きかったので、できればレベルを合わせていただいた方がよろしいかと思います。
- ・ 受講のはじめの方に1度皆さんと話をする機会があると良いと思います。そうすると2ヶ月の間に色々な話ができ、つながることが出来ると思うからです。最後の懇親会だけだと、その後話をしたくても会う機会を作らないといけないため、2ヶ月間毎週会えるという貴重な機会に先生とも受講生ともより親交が深まればと思います。
- ・ 講座にジェンダー視点があり、とても良かった。男性の参加が多くなかなか受け入れられない様子もありましたが、生涯学習のうえで欠かせない視点と思うので、すごく良かった。自分が「大人の女性の学び」（キャリア形成）について、助成事業に応募していたので、この講座のタイトル「大人の学びなおし」にひかれました。
- ・ 今後の要望。岩手国立大学に新しく学部を増やして、例えば法学部、物作り科、工学部含む、観光科、文学部、芸術科、看護師・保健福祉学部。特区として国に、岩手県首長、大学校後援会。労働者、PTA、お母さんの会、学生、高校生、教師、政党、青年会、県民全体で国に請願書を連名で提出して岩手国立大学を誘致し、新しい学長のもとで県民と共に大事業をやりましょう。
- ・ 朴先生の幅広い知識と各先生方の研究内容も奥深く、いずれの講義も納得、満足がいきました。質問の時間に特定の人だけが話して終わることの無いよう、仕切ってほしい。
- ・ 11/27の「地元学」の内容は、「地域課題」的な感じ。各コース融合・総合的な時間もあって良いのではないか。Workshop、Q&Aの時間の工夫はできるか。
- ・ 後援が教育委員会（特に「市」）となっていることの背景がよくわからない。出席者同士自己紹介という機会（個々に一部やったが）を設けて欲しかった。今回の講座の修了者としての発言を自由にしてみてもいいのかな？十分理解できていない内容もあり、自分の考えと分けずに勝手な発言をしかねない（やることは無いと思いますが）。
- ・ 実務者の講義は話の組み立てや内容が稚拙で受講に耐えられないときもあった。講師は論理的に講義をすすめることのできる研究者が望ましい。
- ・ フィールドワークには行っていませんが、行った先のお昼の食事が高すぎる。基本無料で行われるのが非常に大きい。受講料が1万円になると行きたくない。チラシを見た時に、コースを完了すれば生涯学習士になれると勘違いしてしまった。もう少しわかりやすい方が良い。アンケートもメールが良い。講義はワークショップ形式の方が参加者同士の交流があって、ネットワークを広げるきっかけになりやすいと思う。

## 2-2 いわて観光グローバル人材育成講座

近年、少子高齢化が進むにつれて地域の衰退や過疎化が大きな課題となっている。こうした課題を解決するための一つのキーワードとして「観光」を取り上げ、生涯学習部門では、東日本旅客鉄道株式会社（以下JR東日本）の寄付金を受け、グローバルな視点を持つ観光人材育成を目的に令和元年度より「いわて観光グローバル人材育成講座」を開講している。講座では、令和元年のラグビーワールドカップ 2019TMの開催、令和2年の東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催などにより、日本に注目が集まることから、外国人のさらなる来訪が期待されることを鑑み、観光のグローバル人材育成を目的としている。

ここで岩手県の現状をみると、岩手県は北海道の次に大きい都道府県として、広く豊かな自然の中に世界遺産の「平泉の文化遺産」、「明治日本の産業革命遺産（橋野鉄鉱山）」を含めた多数の観光地を保有しているが、観光地間の距離が広く、点在している、気候の影響を強く受けている等の課題も同時に持っている。平成 30 年に岩手県を訪れた外国人観光客の発地別入込割合は、多い順に、台湾が 60.5% (208,364 人回、前年比 46,640 人回・28.8%増)、中国が 8.5% (29,133 人回、前年比 13,164 人回・82.4%増)、韓国が 4.6% (15,979 人回、前年比 5,419 人回・51.3%増)、香港が 4.5% (15,357 人回、前年比 3,075 人回・25.0%増)、タイが 2.9% (10,149 人回、前年比 961 人回・10.5%増)となっている。台湾からの旅行者の動向を分析した結果、初回の訪日は北海道及び東京や大阪周辺に集中している傾向があり、訪日回数が増えるにつれて訪問先が東北地域を含む地方へと拡大していることが明らかになっている。こうした状況を鑑み、訪日客に東北・岩手の魅力を発信することで再訪日の時に東北地方へ呼び寄せるため、本年度の講座では岩手県の観光資源をいかした観光モデルの開発により岩手県におけるインバウンド客を拡大へ繋げることに重点を置いた。

また、岩手県を訪問した外国人観光客の傾向をみると冬季に集中しており、市町村別入込割合は、八幡平市が 23.0% (79,259 人回) を占めており、続いて盛岡市が 15.5% (53,432 人回)、平泉町が 14.8% (50,891 人回)、花巻市が 14.5% (49,886 人回)、雫石町が 10.7% (36,815 人回) を占めている。

上記の状況を鑑み、本講座では、岩手県の現状を踏まえ、インバウンド客を増やすことを視野に、県内外から講師を招き、観光に従事している社会人を対象にリカレントプログラムとして開講したものである。講座は座学3日間、フィールドワーク2日間、1日の発表会の44時間講義で構成されている。講座の最後には受講者にインバウンド客の誘客拡大につなげていくための「岩手県観光の課題と展望」をテーマにプレゼンしてもらい、岩手県商工労働観光部国際観光担当課長の氷山光悦氏及び盛岡市商工観光部観光交流課長の曾根田雅彦氏に会場してもらい、各企画の実行可能性についてコメントをいただいた。

今年度は、10名の受講者の内9名が修了している。修了者には、修了証<資料 2-2-2>を授与している。今年度のコース詳細は、<資料 2-2-1>を参照されたい。



岩手大学 社会人学び直しプログラム

# いわて観光 グローバル人材

## 育成講座 受講者募集

近年、少子化・高齢化が進むにつれて地域の衰退や過疎化が大きな課題となっています。こうした課題を解決するための一つのキーワードが「観光」です。そこで岩手大学では、地域の活性化を図るためにグローバルな視点をもつ観光人材育成をJR東日本との連携をとおして「いわて観光グローバル人材育成」講座を開講します。

みなさまのご参加をお待ちしております。

ところ 岩手大学 コラボMIU 会議室

対象者 観光関連従事者等

受講料 無料 (一部実費負担 / フィールドワーク時の飲食費等)

- 各市町村の観光関連業務に従事している方
- ホテル、旅行社などの境界で従事している方
- 将来、観光関連の領域へ就職・転職を希望する方
- インバウンド・アウトバウンドに興味のある方

定員 15名 [申込みは **10月4日** まで]

### カリキュラム ※原則として全日程参加すること

本講座はJR東日本の寄付を受けて開講いたします。

10月16日(水)	13:00~14:30	観光と地域社会	朴 賢淑	岩手大学・准教授
	14:40~16:10	観光と歴史と文化	劉 海宇	岩手大学・教授
	16:20~17:50	平泉・一関DMOが描く観光ビジョン	松本 数馬	(一社)世界遺産平泉・一関DMO 代表理事
10月17日(木)	8:50~10:20	岩手県の観光資源とインバウンド戦略	山田 麻紀	公益財団法人岩手県観光協会 観光振興部長
	10:30~12:00	東北における観光振興	紺野 純一	(一社)東北観光推進機構 専務理事
	13:00~14:30	グローバル時代の観光について考察	櫻井 亮太郎	株式会社ライフブリッジ 代表取締役
	14:40~16:10	観光経営学	櫻井 亮太郎	株式会社ライフブリッジ 代表取締役
10月18日(金)	16:20~17:50	グローバル観光人材に必要な資質	櫻井 亮太郎	株式会社ライフブリッジ 代表取締役
	8:50~10:20	JR東日本が地域の皆さまと取り組む観光振興施策	内川 秀人	JR東日本 盛岡支社 観光推進室長
10月24日(木)9:00~25日(金)17:00	10:30~12:00	フィールドワークの目的と到達目標	朴 賢淑	岩手大学・准教授
	10:30~12:00	フィールドワーク(いわての観光資源と各市町村の実践)	朴 賢淑	岩手大学・准教授
11月19日(火)	10:30~12:00	フィールドワーク(いわての観光資源と各市町村の実践)	朴 仙子	岩手大学・特任研究員
	10:00~17:00	岩手県観光の課題と展望(受講者プレゼン)	朴 賢淑	岩手大学・准教授

### 申込み方法

受講申込書に必要事項を記載の上、E-mailまたは郵送で **10月4日(金)** までにお申し込みください。受講申込書はホームページ (<http://www.ccrd.iwate-u.ac.jp/news/3312/>) からダウンロードまたは、事務局にご連絡いただければ郵送いたします。

※締め切り前であっても、人数が定員に達し次第締め切らせていただきます。個人情報は当講座の運営管理の目的にのみ利用いたします。



問合せ  
申込み

岩手大学三陸復興・  
地域創生推進機構

生涯学習部門

TEL:019-621-6492 E-mail:renkei@iwate-u.ac.jp  
〒020-8551 岩手県盛岡市上田4丁目3番5号

主催/国立大学法人岩手大学 後援/JR東日本、岩手県、盛岡市、釜石市、奥州市、八幡平市



第001号

# 修了証明書

いわて観光グローバル人材育成講座

〇〇〇〇 殿

あなたは頭書の講座の全課程を  
修了したことを証明する

## 記

**講座の概要** グローバルが浸透している今日において、海外からの観光客は急増していることから、本講座では、観光関連従事者を対象に岩手県の観光資源をグローバルな視点から開発できる人材を育成し、観光を通じた地域再生を目指す。

**総時間数** 44時間

令和元年11月19日

国立大学法人 岩手大学

学長 岩淵 明

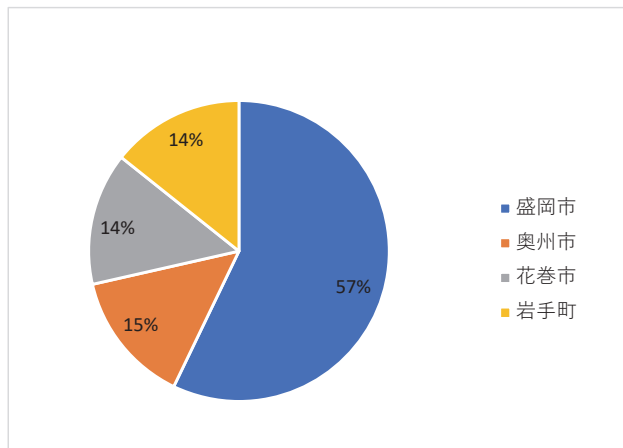
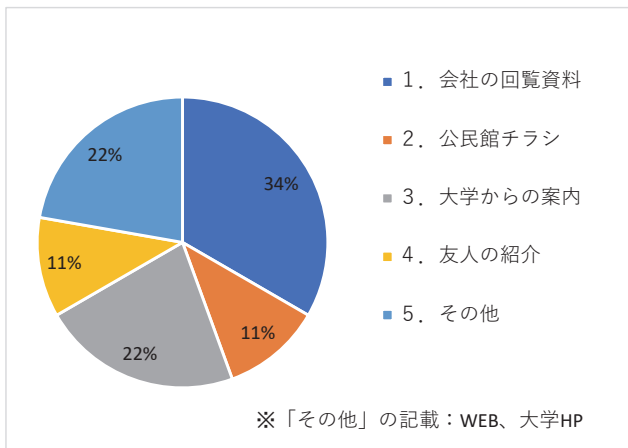


# 令和元年度いわて観光グローバル人材育成講座アンケート調査結果

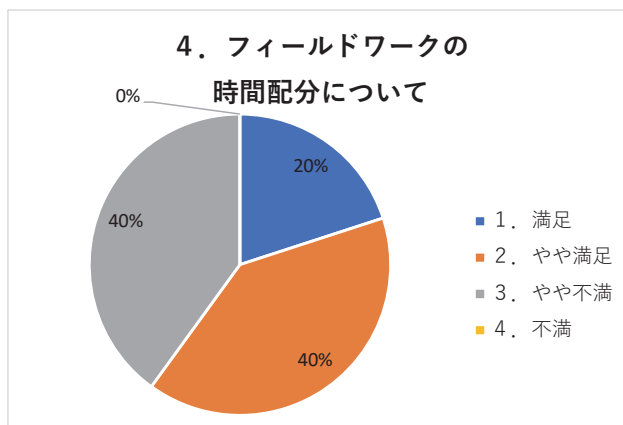
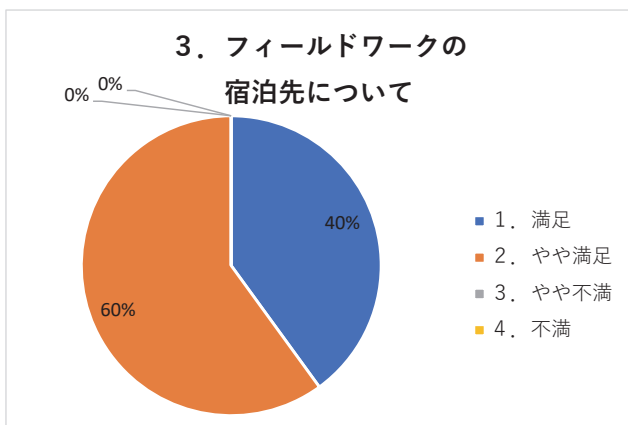
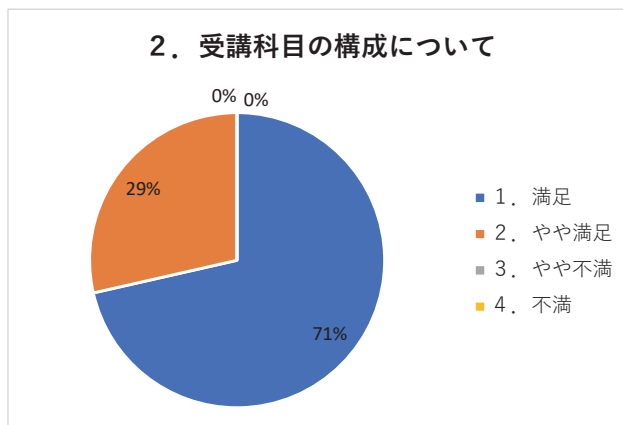
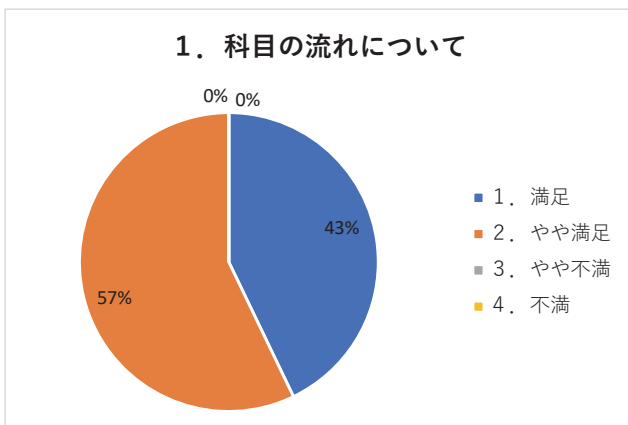
実施日：令和元年11月19日（火）  
 受講者：9名（うち回答者：7名）

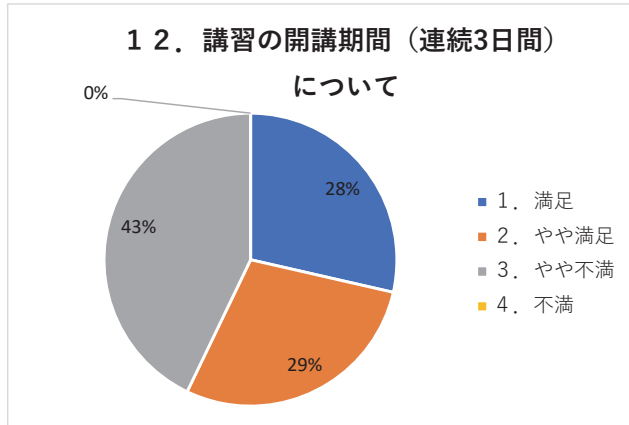
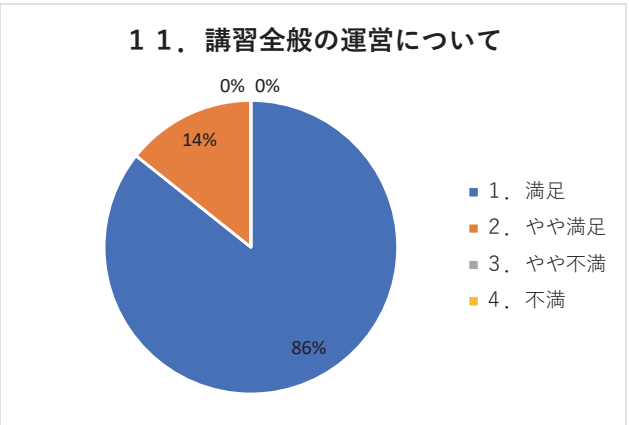
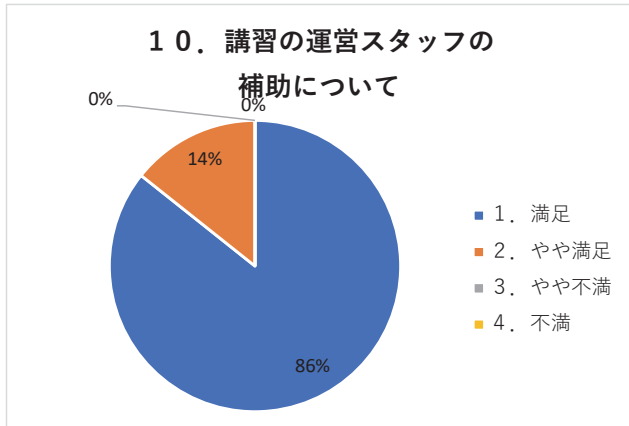
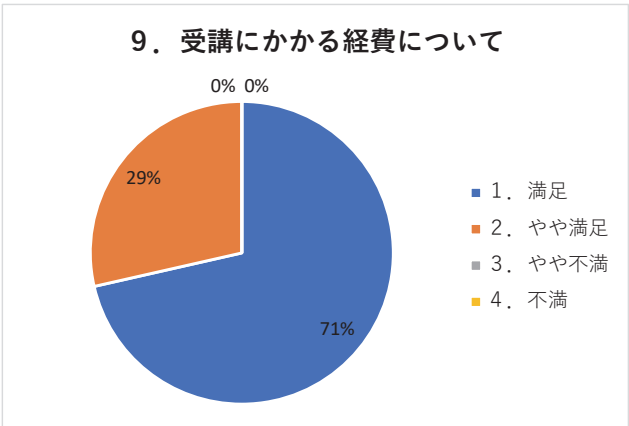
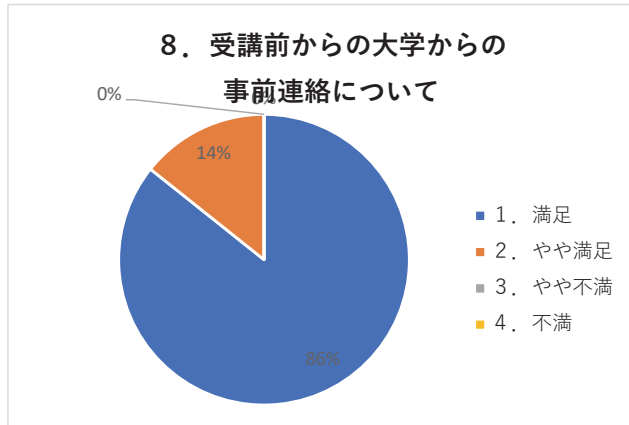
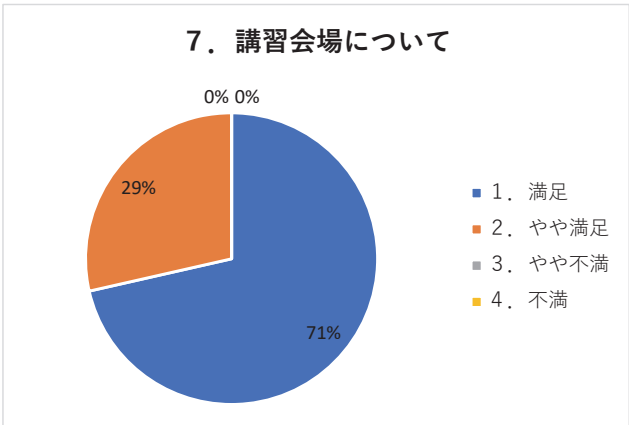
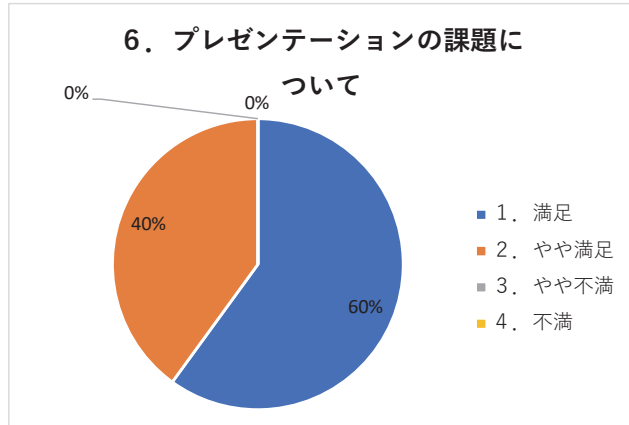
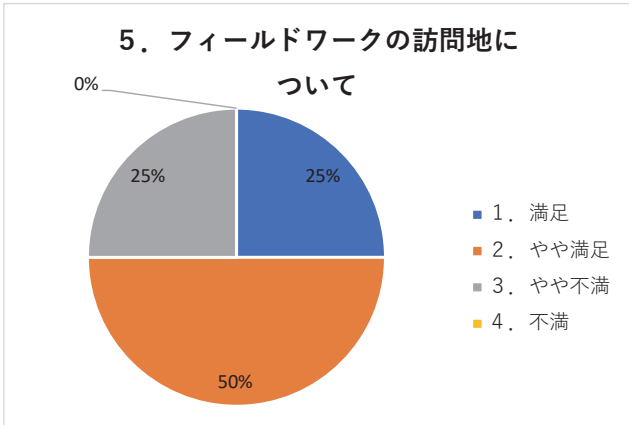
問1 当講座の情報はどちらから知りましたか。

問2 居住地域を教えてください。

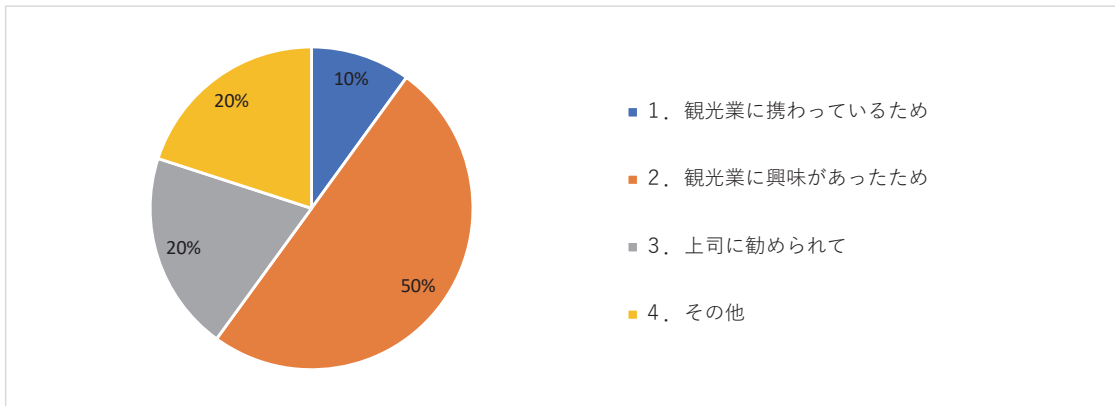


問3 講習のプログラム、運営にかかる次の項目についてあなたの考えに近いものを選んで○を付けてください。

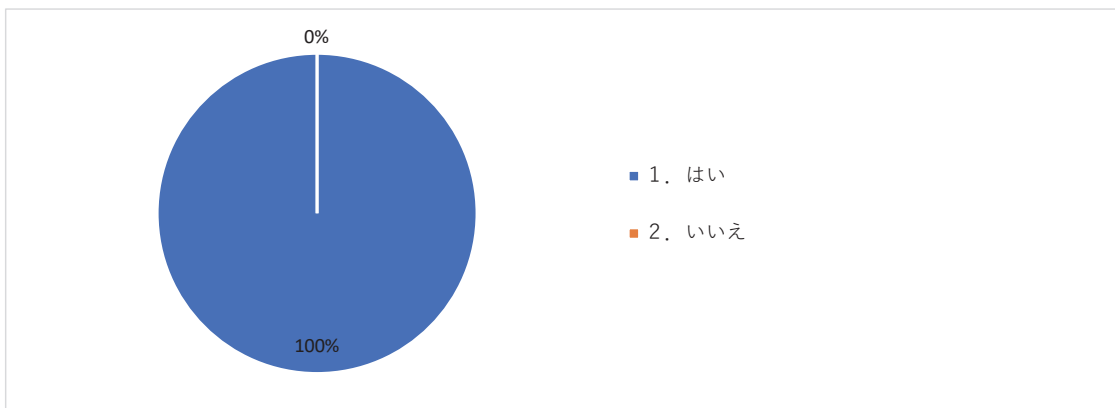




問4 本講座に参加したきっかけを教えてください。



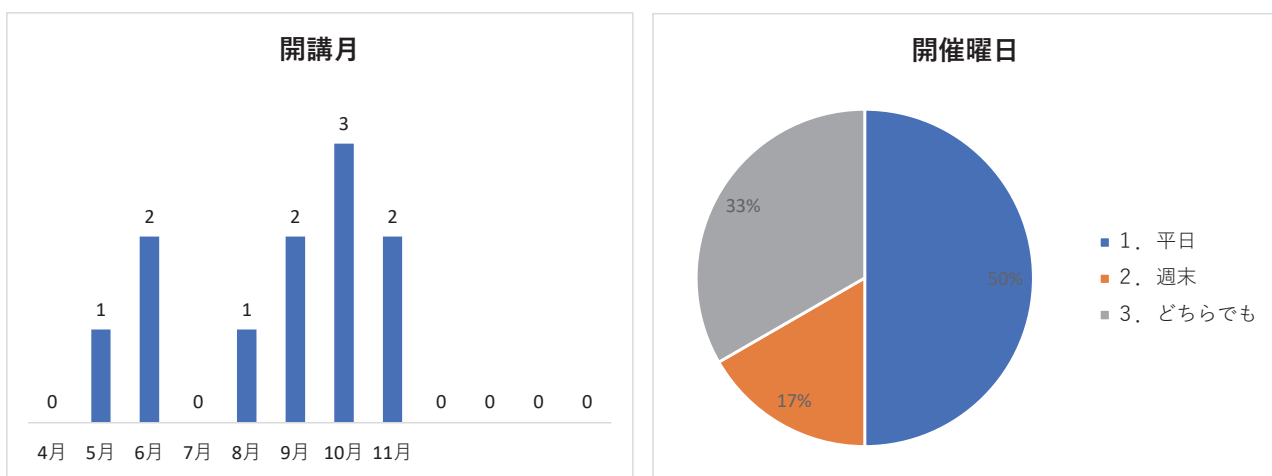
問5 来年度も「観光」をテーマにした講座の開講を予定しています。参加したいと思いますか。

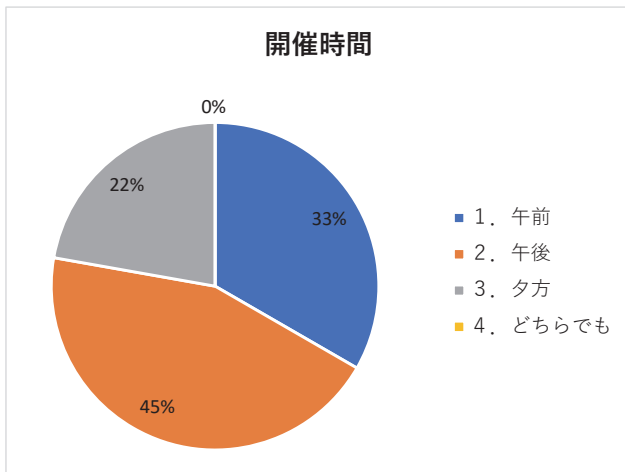


【「問5」の理由】

- ・ もっと勉強したいと思います。
- ・ 今回受講できない回もあったため
- ・ 今回の意見やアンケートを踏まえ、さらにブラッシュアップされた講座となることが期待されるため。
- ・ 今回と違う内容であれば。
- ・ さらに深めていきたい。
- ・ テーマ内容によります。（同じテーマ内容なら参加しないと思います。）

問6 開催日程にご希望がございましたら教えてください。





問7 最後に、講座全般についてお気づきの点、今後の要望等をご自由にご記入ください。

- ・是非、次回県内全域の地域おこし協力隊にも声をかけて下されると、おそらく今回の観光、今後のグローバル化に向けた地域の活性化にとっても関心のあるかたや、観光課担当の方もいるので、声をかけて下されると良いと感じました。
- ・観光先進県等、県内だけでなく、幅広い視野が養える場所を視察するのも良いのでは。

## 2-3 アートフォーラム

岩手大学アートフォーラムは、美術の学びの導入としての「いわて美術茶話」や、制作経験者を対象としたより深い学びの場を提供するアートスクールとして窯芸、版画、染織、彫刻、美術史の各コースを実施する。また、教員や専門家を対象とした「美術指導者研修会」を開催してより深化した創造の場を生成している。今後も岩手大学が保有する豊富な講師陣や恵まれた施設を利用し、地域のニーズにあわせて芸術活動のサポートを進める。令和元年度の活動実績は下記の通りである。

### 1 岩手大学アートスクール2019

平成27年に試行的に開始されたアートスクール染織から5年目となった令和元年のアートスクールは、4回連続実施の版画、3回目の染織に加え、美術史、彫刻が加えられ4コースが実施された。

- (1) 染織コース ①開催日 令和元年9月1日(土)計1回 ②開催場所 岩手大学 総合教育研究棟(教育系)1階 染織工芸実習室 ③講師 岩手大学人文社会科学部非常勤講師(染織科目担当)佐々木貴子 ④参加人数 10名 ⑤実施内容 染織における羊毛の「汚毛洗い」 ⑥満足度 満足80% やや満足10% 普通10%
- (2) 美術史コース ①開催日 令和元年12月14日(土)計1回 ②開催場所 岩手大学図書館2階 生涯学習・多目的学習室 ③講師 岩手大学教育学部准教授(美術史担当)金沢文緒 ④参加人数46名 ⑤実施内容 本学が収蔵する16世紀木彫作品《三日月の上に立つ聖母子》についての解説 ⑥満足度 大変満足42.9% 満足48.6% 普通8.5%
- (3) 彫刻コース ①開催期間 令和2年1月4日(土)、1月11日(土)、1月25日(土)計3回 ②開催場所 岩手大学芸術棟彫刻工房 ③講師 岩手大学客員教授(彫刻担当)藁谷収 ④実施内容 今回は、ロダンのパンセをイメージしながら独自の形を作り上げた。粘土制作を経て石膏による雌型形成、セメントなどによる彫刻制作を行った。⑤参加人数 6名 ⑥満足度 満足67% やや満足33%
- (4) 版画コース ①開催期間 令和2年1月25日(土)、2月1日(土)、2月8日(土)計3回 ②開催場所 岩手大学芸術棟版画工房 ③講師 岩手大学客員教授(版画担当)山本浩一 ④実施内容 今回は、木版刷りの「浮世草子」の制作を行った。⑤参加人数 10名 ⑥満足度 満足60% やや満足20% 普通20%



アートスクール染織コース

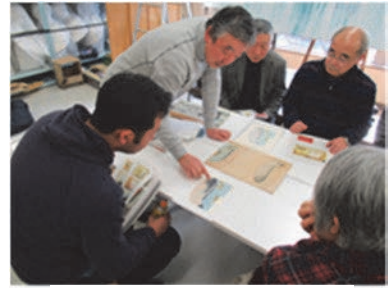


アートスクール美術史コース



アートスクール彫刻コース

開催場所 岩手大学芸術棟・版画実習室・デッサン室  
 ③講師 岩手大学人文社会科学部非常勤講師（木版画担当）田村晴樹 ④参加人数 10名 ⑤実施内容 外見当を使用する多色木版画の制作および展示 ⑥満足度 大変満足80% 満足20%



アートスクール版画コース

## 2 美術指導者研修会

- (1) 彫刻 ①開催日 令和元年8月4日～9月8日 土日開催  
 ②開催場所 岩手大学芸術棟・第1彫刻工房 ③講師 岩手大学客員教授（彫刻担当）藁谷収 ④実施内容 「木彫鑿の研ぎ方彫刻制作まで」彫刻制作（木彫）に於いて狂いが少ないチーク材を用い寄木技法を中心に具象・抽象の彫刻表現を行った。平鑿・丸鑿の研ぎ方を繰り返し行い、木彫道具の整備を重点的にを行い、チーク特有の彫りやすさや照りの効果を活かせるように制作指導に努めた。⑤参加人数 7名 ⑥満足度 満足86% やや満足16%



美術指導者研修会（木彫）

## 3 いわて美術茶話

令和元年度は、中高校生や一般を対象とした美術体験・対話での交流を目的とした「いわて美術茶話」を3回開催した。

- (1) 第13回高校生・中学生版「岩大オープンキャンパスで自由にデッサンして語ろう」①開催日 令和元年8月7日（水）②開催場所 岩手大学芸術棟3階デッサン室 ③講師 岩手大学教育学部准教授 溝口昭彦 ④実施内容 中学生高校生を対象とした木炭および鉛筆デッサン（石膏像を木炭で描くコース ・静物を鉛筆で描くコース） ⑤参加人数 高校生8名 ⑥満足度 大変満足86% 満足14%
- (2) 第14回高校生版「岩手大学で書の臨書をしてみませんか。」 ①開催日 令和元年9月28日（土） ②開催場所 岩手大学総合教育研究棟（教育系）書道実習室 ③講師 岩手大学人文社会科学部教授 玉澤友基（書道研究室）・岩手大学人文社会科学部准教授 久保田陽子（書道研究室）④実施内容 漢字と仮名の臨書 ⑤参加人数 5名（1年生1名・2年生3名・3年生1名）⑥満足度 大変満足100%



いわて美術茶話 13



いわて美術茶話 14



- (3) 第15回出張いわて美術茶話15ーみやこ木炭デッサン会 ①開催日 令和元年9月1日(日) ②開催場所 宮古市山口公民館多目的ホール ③講師 岩手大学教育学部准教授 溝口昭彦 ④実施内容 観察して描くことを楽しむ木炭デッサンの学びの場を生成した。 ⑤参加人数 一般20名 サポーター2名 計22名 ⑥満足度 大変満足61% 満足39%



いわて美術茶話 15

#### 4 岩手大学アートフォーラム企画部会会議報告

昨年度設置された企画部会は、「岩手大学アートフォーラム」と「アートフォーラムいわて」の連携を図りながら、様々な課題解決や企画立案に関する協議などをスピーディーに検討する場として、今年度も活動してきた。委員は岩手大学アートフォーラム代表の溝口昭彦准教授、アートフォーラムいわて事務局の高橋幸男、アートフォーラム担当の客員教授でもある藁谷収教授、同じく客員教授の長内努の4名が中心となっており、必要に応じ他のアートフォーラム会員の方々にも参加を呼び掛けながら、柔軟に議論を重ねてきた。

- (1) 第1回企画部会 ①日時 令和元年5月21日(火) 13:20~14:50 ②場所 アートフォーラム活動室 ③議題 ・平成30年度の活動のまとめと31年度の活動計画について ・アートフォーラム活動室の移動について ・組織についての検討について ④内容 昨年度の事業の反省等も踏まえ、今年度の事業について検討を行った。またアートフォーラム活動室の移動に向け、準備や作業の分担などについて話し合った。組織については以前からの継続協議である。
- (2) 第2回企画部会 ①日時 令和元年7月16日(火) 13:20~14:40 ②場所 アートフォーラム活動室 ③主な議題 ・第1回岩手大学アートフォーラム会議の報告、アートスクール染織・いわて美術茶話の進捗について ・新規事業(アートスクール美術史)について ・アートフォーラム活動室の引っ越しの作業日程について ④内容 6月18日に開催された岩手大学アートフォーラムの会議で出された意見等が報告された。活動に関しての情報提供や組織に関しての意見もあった。その後、今年度の事業(いわて美術茶話、美術史のアートスクール等)について協議を行った。アートフォーラム活動室の引っ越しに関し、現在保有している物品の整理や廃棄について、作業スケジュール等について意見交換した。
- (3) 第3回企画部会 ①日時 令和元年8月23日(金) 13:00~14:30 ②場所 アートフォーラム活動室 ③主な議題 ・実施予定事業の進捗状況について ・アートフォーラム活動室の引っ越しの作業日程について ・アートフォーラムいわて 総会について ④内容 アートフォーラムいわての総会について、現在事務局を担当している高橋氏が退任を希望しており、組織を一新する方向での協議が行われた。今後、11月開催予定の総会に向けて原案等を検討していくこととした。
- (4) 第4回企画部会 ①日時 令和元年10月15日(火) 14:00~15:00 ②場所 アートフ

フォーラム活動室 ③主な議題 ・実施済み事業について、ならびに実施予定事業の進捗状況について ・70周年記念事業企画展サポートについて ・アートフォーラムいわて 総会について ・組織についての検討 ④内容 いわて美術茶話について、事業の名称を「いわて芸術茶話」に変えて、内容によって「いわて美術茶話」「いわて書道茶話」のように柔軟にしていくことにした。11月開催のアートフォーラムいわて総会に向けては、組織や活動の方向性について確認をした。また、その他の継続議題については進捗状況の報告と検討を重ねた。

(5) 第5回企画部会 ①日時 令和元年12月17日(火) 13:00～14:00 ②場所 アートフォーラム活動室 ③主な議題 ・実施済み事業について ・アートフォーラム活動室の引っ越しの作業日程について ・アートフォーラムいわての総会以後の活動について ・アートフォーラム報告書について ④内容 今年度の新規事業であった美術史のアートスクールが、46名の参加により盛会裏に終えたこと、70周年記念展が無事終了したことなどが報告された。またアートフォーラムいわての事務局が空席となり、当面藁谷、長内が引き継ぐこととした。報告書も発行する方向で今後作業を進める予定にした。

(6) 第6回企画部会 ①日時 令和2年1月7日(火) 13:00～14:00 ②場所 アートフォーラム活動室 ③主な議題 ・実施済み事業について ・アートフォーラム活動室の引っ越しの作業日程について ・アートフォーラムいわての総会以後の活動について ・アートフォーラム報告書について ④内容 今年度の事業の報告と、未実施の事業の進捗について確認を行った。またアートフォーラム活動室の引っ越しが迫ってきたため、最終的な移動のスケジュールについて共有をした。そして、来年度の事業内容について協議し、指導者講習会は来年度実施せず、アートスクールといわて芸術茶話を事業の中心にしていくこととした。

## 5 その他の活動

(1) 企画展 ①サミア モンセフ 展 イタリア留学生展(留学修了記念)

②会期 令和2年 2月3日～6日

③場所 岩手大学アートフォーラム活動室

(2) 後援

①第45回盛岡彫刻シンポジウム企画展+佐々木悦也石彫展(Gallery1)・盛岡彫刻シンポジウム作品展(Gallery2)

・事業企画 盛岡彫刻シンポジウム実行委員会

・会期 令和元年7月1日～13日

・会場 Gallery彩園子

・主催 盛岡彫刻シンポジウム実行委員会

②Big Waffle Art Project 2019 岩大の森を描く展

・事業企画 岩手大学絵画研究室

- ・会期 令和元年11月7日～29日
- ・会場 岩手県予防医学協会 Big Waffle 1階 ギャラリー
- ・主催 岩手県予防医学協会＋岩手大学絵画研究室

今後の課題は下記の通りである。

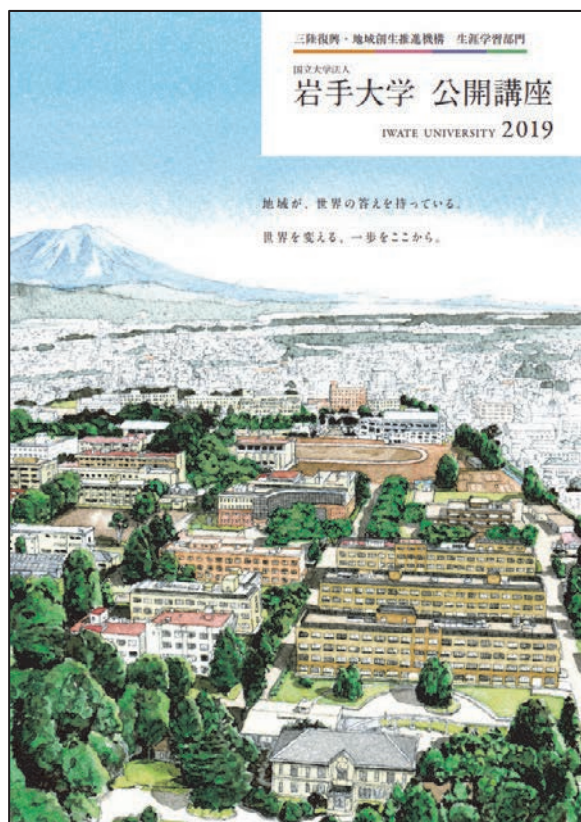
- 1 構成員減にかかわる事業維持について
- 2 アートフォーラム活動室の作品の管理について
- 3 外部団体や企業等との協力体制について

## 2-4 公開講座

岩手大学では地域に密着した社会貢献を目指しており、大学の研究成果を広く社会に還元するために「公開講座」を実施している。今年度の公開講座開講においては、学内教員を対象に公募を行い、「文学」、「スポーツ」、「芸術」、「農学」、「工学」、「地域学」等幅広い分野の18講座を提供した。なお、公開講座の活動報告については表<2-4-1>を参照されたい。

また、岩手大学における社会人対象のプログラムをより多くの地域住民に周知するための試みとして、各講座の概要を盛り込んだ公開講座リーフレットを4月に発行し、岩手県内の公民館、教育委員会、小中学校及び学内の教職員、生涯学習関連施設などに配布している。なお、公開講座リーフレットでは、岩手大学で開講している社会人などを対象にしたすべての講座を公開講座として位置づけ、開講期間で「短期プログラム」と「中・長期プログラム」に分類し、各講座の日程、講師、会場、趣旨等の内容を紹介している。また、短期プログラム19講座、長期プログラム5講座が紹介され、岩手大学で実施する社会人向けの講座を一冊にまとめて情報提供した。

### 2019年度 公開講座リーフレット



2019年度公開講座一覧			
<b>■ 短期プログラム</b>			
講座名	日程	講座名	日程
フィールドセミナー ―春の植物観察会―	6月2日(日)	樹木の成長・繁殖様式から 森林の成り立ちを知る	10月26(土) または 11月2日(土)
農学部5学科(植物生命科 学・応用生物化学・森林科 学・食料生産環境学・動物 科学)の実験講座	7月6日(土)	「面のバイナブル」の子供 で動く遺伝子を可視化する	10月後半または 11月前半の土日
地域政策入門	7月27日(土)	フィールドセミナー ―ウォッチングピンゴをし ながら親子で楽しむ秋の 森―	11月10(日)
非行少年防止と立ち寄り支 援―地域社会で考える立ち 寄り支援とは―(仮)	7月31日(水) 予定	牧場体験「子牛の誕生?ト ラクタに乗りよう」	11月頃を予定
少年少女のための バスケットボール	7月31日(水) ～8月2日(金)	少年少女のための陸上競技	1月下旬～2月上 旬
コーチのためのサッカーC	7月～9月	コーチのためのサッカーD	2月
第1回大学農場で体験する 食と農と生物学	8月1日(木)	かんじきをはいて冬の森を 歩こう	2月16日(日)
獣医学の世界 ～獣医学科はどんな研究を しているのだろうか?～	8月を予定	フィールドセミナー ―春をむかえる森をみる―	3月29日(日)
哲学者内山節氏を迎えての 第14回「哲学の森」	8月17日(土) ～8月18日(日)	ニワトリ屋を用いた研究は、 ライフサイエンスにどのよ うな貢献をして きたか(「ニワトリ初期胚 の観察会」)	未定
フィールドセミナー ―秋の植物観察会―	10月6日(日)		
<b>■ 中・長期プログラム</b>			
講座名	日程		
いわてアグリフロンティアスクール	5月下旬～2月上旬 ※今年度の募集は終了しています		
21世紀型ものづくり人材若手マイスター育成	年間通して開催		
地域を変える「エコリーダー」・「防災リーダー」育成プログラム	5月25日(土)～12月14日(土) ※今年度の募集は終了しています		
いわて生涯学習士養成講座	8月～12月水曜日午後		
いわて観光グローバル人材育成講座	9月～10月		

表2-4-1 令和元年度公開講座一覧

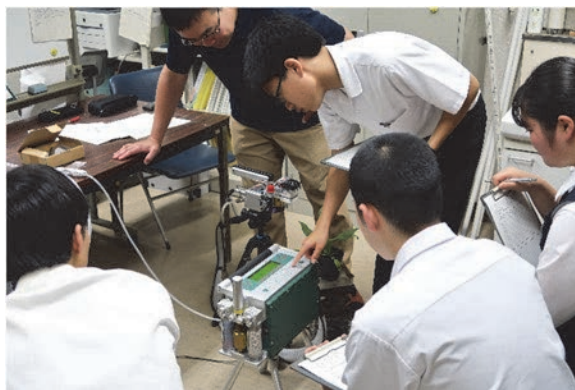
NO.	講座名	報告資料 番号
1	フィールドセミナー 「春の植物観察会」	2-4-1
2	農学部5学科の実験講座	2-4-2
3	地域政策入門 ー労働・環境・防災ー	2-4-3
4	少年の再非行防止と立ち直り支援 ー地域社会で考える立ち直り支援とはー	2-4-4
5	コーチのためのサッカーC級コース	2-4-5
6	少年少女のためのバスケットボール	2-4-6
7	第1回 大学農場で体験する食と農と生物学	2-4-7
8	獣医学の世界 ー獣医学科はどんな研究をしているのだろうか？ー	2-4-8
9	哲学者内山節氏を迎えての第14回「哲学の森」	2-4-9
10	フィールドセミナー 「秋の植物観察会」	2-4-10
11	樹木の成長・繁殖様式から森林の成り立ちを知る	2-4-11
12	「海のパイナップル」の子供で働く遺伝子を可視化する	2-4-12
13	牧場体験「子牛の誕生？トラクタに乗ろう」	2-4-13
14	フィールドセミナー 「ウォッチングビンゴをしながら親子で楽しむ秋の森」	2-4-14
15	ニワトリ胚を用いた研究は、ライフサイエンスにどのような貢献をしてきたか（+ニワトリ初期胚の観察会）	2-4-15
16	少年少女のための陸上競技	2-4-16
17	コーチのためのサッカーD級コース	2-4-17
18	「フィールドセミナーかんじきをはいて冬の森を歩こう」	2-4-18

成果報告書	
担当者：菊地智久 山本信次	
講座名：フィールドセミナー「春の植物観察会」	
実施日：令和元年6月2日	
受講者数：20名	定員数：15名
受講料：無料	
<p><b>目的</b></p> <p>滝沢演習林を歩き、初夏に咲く花や、この時期に見られる草木の姿を観察する。 演習林の多様な森林を歩き、大学の森としての様々な取り組みを一般市民に知ってもらおう。</p>	
<p><b>活動実績</b></p> <p>大人18名、子供2名の計20名が集まった。滝沢演習林内にある、100年間人手の入っていない不伐の森をスタートし、様々な外国産の樹木が植えられている針葉樹見本林までを2時間散策した。ホオノキやヤマボウシ、ヒトツバタゴ、ノイバラなどの花を観察して白い花が多い事を発見。また、ツリガネニンジンやミヤマイラクサ、シオデ、ヨブスマソウ、アマチャといった食用に適した植物を観察した。食用できるものに対しては参加者は強い関心を示した。大人から子供まで、伊藤講師のユーモア溢れる話しぶりに熱心に聞き入り、また同じ興味を持つ参加者同士でも楽しく交流をしながら初夏の森を歩いた。</p>	
<p><b>今後の課題</b></p> <p>当日は参加予定者2名がキャンセル。しかしキャンセル待ちだった3名が独断で飛び入り参加。キャンセル待ちの順番もあるので、公正を保つためにも飛び入り参加への対策が必要かと思われる。</p>	

成果報告書	
担当者：小出章二	
講座名：農学部5学科「植物生命科学科」「応用生物化学科」「森林科学科」「食料生産環境学科」「動物科学科」の実験講座	
実施日：令和元年7月6日（土）	
受講者数：54名	定員数：80名
受講料：300円（傷害保険料）	
<p><b>目的</b></p> <p>本公開講座は、5学科体制で開催する実験・実習講座である。これまでを踏襲し、主として岩手県内の高校生や理科教育に携わる教員の方々を対象に、実験・実習を中心に進めている。内容は、5学科で活躍している教員を講師として、現在進めている研究の内容等をわかりやすく説明する。その後、参加者は希望のコースに分かれ、ティーチングアシスタント（TA）の学生の指導のもと、実際に実験材料に手で触れ実験やフィールドでの実習等を体験する。本講座を通じて、教科書では得られない実験・実習の面白さや、農学への興味と関心をもってもらおうと同時に、それぞれの進路の参考になることを期待する。</p>	
<p><b>活動実績</b></p> <p>本講座は、岩手県内の高校生や理科教育に携わる教員の方々を対象とする、実験を中心とした公開講座です。平成8年に農学部4学科の『実験講座』としてスタートし、学部改組を経て「農学部5学科の実験講座」として継続、今回通算24回目を迎えたものである。</p> <p>令和元年度は、高校生52名、高校教員1名、専門学校教員1名の計54名が参加し、8つのコースに分かれて教員とティーチングアシスタントの学生の協力・指導のもと実験やフィールドワークを実施しました。</p> <p>参加者はそれぞれのコースで研究テーマや実験の内容について説明を受け、実際に薬品や器具を使いながら大学の研究室ならではの活動を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コース① 「昆虫のペプチドの生理活性を見よう」（安 嬰）</li> <li>コース② 「PCR法で植物のDNAの違いを調べて見よう」（川原田泰之）</li> <li>コース③ 「植物の光合成を測ってみよう」（鈴木雄二）</li> <li>コース④ 「健康機能性成分大豆サポニンの分析 ー見えないものをどうやって見るのかー」（塚本知玄）</li> <li>コース⑤ 「森の中の生き物と触れ合おう！～野ネズミ類を中心に～」（山内貴義）</li> <li>コース⑥ 「水の味とその成分を考えよう」（颯田尚哉）</li> <li>コース⑦ 「青果物の加工利用について調べてみよう ～ 加熱時の品質変化を捕まえる ～」（折笠貴寛）</li> <li>コース⑧ 「ドローンを使って空から環境を調べよう」（築城幹典）</li> </ul>	

## 今後の課題

各コースの実施内容についての問い合わせが多かったことから、募集の時点からある程度内容についてアナウンスする必要がある。





成果報告書	
担当者：松岡勝実、笹尾俊明、渡部あさみ	
講座名：地域政策入門－労働・環境・防災－	
実施日：令和元年7月27日（土）	
受講者数：68名	定員数：100名
受講料：無	
<p><b>目的</b></p> <p>高校生を主な対象として、人文社会科学部地域政策課課程の教育内容及び人材養成像を紹介するだけでなく、地域の現状を理解し課題に取り組むうえで、地域政策に収斂する経済学（経営学）・環境学・法学（防災法・公共政策）の視点が不可欠であることを十分に理解してもらうことを目的とした。</p>	
<p><b>活動実績</b></p> <p>2019（令和元年）年7月27日（土）13：30～16:20、G1大講義室にて「地域政策入門－労働・環境・防災」のテーマの下、労働・環境・法学（防災関連）の3分野から話題を提供した。</p> <p>最初に渡部あさみ准教授は、地域社会において働くことをテーマに、経営学における「働き方」「働かせ方」の関係性を示し、現代の日本社会で課題となっている「働き方改革」について、先進的な取り組み事例をもとに議論を展開したうえで、働きやすい職場づくりこそが、雇用の質の向上と持続可能な地域社会の形成に寄与できると唱道した。</p> <p>続いて笹尾俊明教授は、青森・岩手県境産廃不法投棄事件を取り上げ、地域における循環型社会像を提示し、持続可能な地域社会の課題と政策的方向性について検討した。笹尾は、同事件の概要を説明し、不法投棄された廃棄物の莫大な費用負担の問題を解説、不法投棄が発生する社会的原因を分析、さまざまな予防策を論じたうえで、地域循環型共生圏の創造と持続可能な地域社会の形成に向けて具体的な施策を提案し地方自治体の役割の重要性を説いた。</p> <p>最後に、松岡勝実教授は、岩手大学の震災以来の地域における災害復興・防災の活動・研究等のさまざまな取り組みを、地域と世界を結ぶ「グローバル」な大学の役割を中心に紹介しつつ、防災に関する我が国の基本的法律、基本的施策、政策上の含意を解説し、コミュニティ主体の防災、ボトムアップ型のレジリエンスの重要性を強調、防災・災害復興は持続的な社会構築の重要な要素になっていくことを展望した。</p> <p>そして講義の後、総括として質疑応答を行った。事前に提出してもらった多数の質問だけでなく、会場からもその場で質問があり、有意義な意見交換となった。</p>	
<p><b>今後の課題</b></p> <p>前年度より広い会場設定で参加者数は10名ほど増加した。この講座は、人文社会科学部地域政策課程の教員の研究内容を主としては高校生に広く一般公開し、課程の宣伝を意図している。参加者も多く盛会であったことはその目的を果たしたといえる。今回は持続可</p>	

能な社会という視点から 3 つの話題は共通項を持っており、今後もなんらかの一貫した視点を設定し講座を持つことが望ましい。ただし、課程内では、本講座の意義や教員の担当のあり方について必ずしも共通の理解が得られておらず、今後持続的に開講するには若干の懸念を抱えている。



立ち直り支援が必要かを参加者と考える部分が少なくなりました。このことについてアンケートでも指摘する声が寄せられており、全体で討議する時間確保などは今後の課題とさせていただきます。



盛岡保護観察所保護観察官による講義風景



盛岡少年院における講義風景

成果報告書	
担当者：鎌田安久	
講座名：岩手大学スポーツアカデミー2019 コーチのためのサッカーC級コース	
実施日：令和元年7月27日（土）～8月24日（土）	
受講者数：8名	定員数：20名
受講料：13,100円	
<b>目的</b> スポーツの専門教育を受けた指導者は少ない現状の中、本講座は、サッカーの指導とりわけ小学生の指導に携わろうという方に対して、サッカーの技術・指導法・その他サッカーに関する幅広い情報を提供し、指導力向上を目指して開講するものです。なお、講座の受講対象者としては、少年サッカークラブチームの指導者はもとより保護者の方々、またサッカーの指導に関わる学校関係者等、コーチを目指す全ての方々の受講を歓迎いたします。また、本講座を修了・資格検定審査に合格し所定の手続きを経た方には、岩手県サッカー協会と共催し、(公財)日本サッカー協会公認「C級サッカーコーチ」の資格を与えるものとします。	
<b>活動実績</b> 受講者 女性1名 男性7名 平均年齢31歳 最年少23歳 最高齢45歳 住所；宮古市 住田町 花巻市 奥州市 一関市 盛岡市 7月27日（土）9：00～18：00 講義①ガイダンス②技術戦術Ⅰ 実技①② 7月28日（日）9：00～18：00 講義③GK指導④⑤技術戦術理論ⅡⅢ⑥発育発達Ⅰ 実技③④ 8月3日（土）9：00～18：00 講義⑦⑧コーチング法ⅠⅡ⑨メディカル 実践ガイダンス 8月4日（日）9：00～17：00 実技⑦ 講義⑩指導者の役割Ⅰ 指導の実践1回目 8月17日（土）9：00～18：00 講義⑪指導者の役割Ⅱ⑫審判 実技⑧⑨ 8月18日（日）9：00～18：00 実技⑩ 講義⑬実技まとめ⑭指導実践ガイダンス 筆記試験 8月24日（土）9：00～16：00 指導の実践2回目 実践振り返り 閉講式 今年は酷暑の中での開催となり、熱中症の予防に配慮しながらの実技・実践の実施となった。お蔭様で熱中症をはじめ怪我人を出すこともなく、所定のプログラムを全て円滑に	

実施でき、受講生の指導者としての資質をあげることができた。  
本公開講座においても、JFA 公認Cコーチ資格を全員が取得するという成果を上げることができた。



#### 今後の課題

今年も計画段階で、7月8月は猛暑が予想されたが、8月9月の講義室の確保が困難であったため、やむを得ず7月8月開催とした。また、お盆休みが土日を挟んで長期間であったためか、昨年同様やや少ない受講生での開催となった。

また、屋外の実技講習の際に、靴を履きかえたり、荷物をおいたりする場所、更衣室やシャワー室、また雷雨の際の避難場所等、屋外での実技講習会を開催するには、研修施設として大変課題が多い大学の運動施設であると考えられる。

## 成果報告書

担当者：栗林徹

講座名：岩大スポーツアカデミー 2019 少年少女のためのバスケットボール

実施日：令和元年7月30日（水）～8月1日（金）

受講者数：26名（2名欠席）

定員数：30名

## 目的

現代生活の中におけるスポーツは、心身の健康や生きがいのため、あるいは余暇活動や観戦の楽しみなど様々な面で重要な位置を占めています。とりわけ、生涯スポーツの観点からその意義はさらに高くなってきています。しかしながら現実には、スポーツの専門の指導者に手軽に指導を受けたり、スポーツの指導方法を学んだりする機会は、極めて少ないのが現状です。そのため本講座では、バスケットボールを愛し、学びたい少年少女に対し、レベル・目的に応じたプログラムとエリアとヒトを提供し、バスケットボールの楽しく学習することを目的とします。

## 活動実績

## 日程

7月30日（水） 16：00～18：00

7月31日（木） 16：00～18：00

8月1日（金） 16：00～18：00

## 参加者

小学校4年生から6年生の男女24名。



## 活動内容

4年女子、5・6年女子、男子の3グループに分かれ、それぞれの技術・体力に応じ、補助学生（バスケットボール部員）とともに楽しく活動をおこなった。



第1日目 テーマ1:「みんなと仲間になろう! ボールとも仲良く!」

テーマ2:「ゲームをしよう」

鬼ごっこ、ボールハンドリング、シュート練習、ハーフコート・ゲームを練習した。  
大学生と一緒に楽しく活動できたという感想が聞かれた。



第2日目 テーマ:「ボールを運び、得意なシュートを決めよう」

ボール鬼、ボールハンドリング、ボール・キャッチ、ボディーコントロール、シュート練習、2対1の練習のあと、ハーフコート・ゲームをおこなった。みんな積極的なプレーを見せていた。

第3日目 テーマ:「オール・コートの攻撃を工夫しよう」

鬼ごっこ、1on1の基礎(ボールキープ:ピボット,ドリブル)、ランニング・シュート練習、シュート練習のあと、フォーメーションゲームをおこない、最後にまとめとしてオールコートゲームをおこなった。

初日にはシュートがうまくできない子も、ゲームでシュートを決めることができていた。  
3日間の活動を学生とともに楽しく活動することができ、技術の向上が見られた。

成果報告書	
担当者：渡邊 学	
講座名：第1回 大学農場で体験する食と農と生物学	
実施日：令和元年8月1日（木）	
受講者数： 21名	定員数： 20名
受講料：なし	
<p><b>目的</b></p> <p>農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢農場のもつ豊かな教育研究資源を地域社会に開放し、フィールド実習教育の体験を通し、生きるために欠くことのできない食と、それを支える農に対する理解を深める場を提供する。農業、農学、生物学に興味のある高校生と保護者が、滝沢農場で夏季の農作物栽培管理を体験する。これにより、参加者が食と農と生物学に関する理解を深め、また、高等学校で学習している教科（特に生物）と農業との関わりを知る機会となる。日常の高等学校での学習の動機づけだけでなく、岩手大学農学部への入学希望者の増加も期待できる。</p>	
<p><b>活動実績</b></p> <p>担当教職員：由比 進、渡邊 学、阿部 岳、村上政伸、田口芳彦、中西 啓、西 政佳、武田伸也、大堰康夫</p> <p>午前中は、3通りの作り方の水田と50年続く肥料試験水田を見学した。休憩を挟み、ミニトマトを教材としてメンデル遺伝学について解説した。その後、クッキングトマトとエダマメの収穫を体験した。昼食は、滝沢農場の生産物を一部利用したおにぎりとお汁を用意した。参加者と教職員で一緒に食事をする会食形式とした。また、同時に、農場所属学生による1分間研究紹介を実施した。午後は、エダマメとトウモロコシについて、3日前に収穫したものと収穫直後のものを食べ比べし、生産物の品質管理と植物の呼吸や蒸散との関わりを解説した。その後、リンゴとブルーベリーを見学し、ブルーベリーの収穫も体験した。最後に質疑応答時間を設け、終了した。</p>	
<p><b>今後の課題</b></p> <p>第1回目の開催であり、参加応募者があるかどうか不安であったが、結果的には定員を超える参加者があった。配布用ポスターを農場学生に作成してもらい、高校生受けの良いポスターに仕上がったのが良かったのかもしれない。しかし、この中には4名の一般参加者も含まれているため、今後は、主な対象である高校生への周知方法を検討したい。</p> <p>参加者の多くが滝沢農場に来る際、道に迷っていた。農場への分かりやすい案内図を作成し、参加者には事前に配布するようにしたい。</p> <p>食材や学生への謝金が予算超過したため、次年度以降、予算計上時に注意したい。</p> <p>独自アンケートの結果、参加者全員から「満足した」との回答を得た。特に水田の見学とブルーベリーの収穫体験に興味を持った参加者が多かった。これらのアンケート結果を来年度の計画に生かしたい。</p>	

成果報告書	
担当者：山本 欣郎（農学部共同獣医学科）	
講座名：獣医学の世界 ～獣医学科はどんな研究をしているのだろうか？～	
実施日：令和元年8月6日（火）	
受講者数：70名	定員数：100名程度
受講料：なし	
<b>目的</b>	
<p>岩手大学には共同獣医学科があり、獣医学に関する教育と研究を行っている。獣医学の研究は、動物の体の構造や仕組みを調べる基礎研究、病原体や感染症について調べる応用研究、動物の治療を対象とした臨床研究など多岐にわたっている。また、研究対象もイヌ・ネコからラットなどの実験動物や野生動物種類も多く、さらには畜産食品の安全管理、農場や牧野の放射線を調べる研究もある。岩手大学農学部共同獣医学科で行っているさまざまな研究を紹介し、獣医学が持つ広い世界を一般市民、高校生、中学生に紹介する。</p>	
<b>活動実績</b>	
<p>本公開講座では、獣医学の教育研究領域の概略を説明後、基礎獣医学分野、病態獣医学分野、小動物臨床分野、大動物臨床分野から4つの話題提供を行った。 開催時間は13:30～15:30であり、具体的内容は以下の通り。</p>	
13:30～13:40	開会あいさつ
岩手大学農学部 共同獣医学科長 村上賢二 教授	
13:40～13:50	講演「こんなに広い獣医学の研究領域」
岩手大学農学部共同獣医学科 山本欣郎 教授	
13:50～14:10	講演「マウス遺伝学アプローチによる骨代謝研究」
岩手大学農学部共同獣医学科 古市達哉 教授	
14:10～14:30	講演「日本鶏と鳥レトロウイルスの共存に向けて」
岩手大学農学部共同獣医学科 落合謙爾 教授	
14:45～15:05	講演「ネコを腎臓病から救う」
岩手大学農学部共同獣医学科 片山泰章 准教授	
15:05～15:25	講演「牛の繁殖管理技術；現状と対策」
岩手大学農学部共同獣医学科 高橋 透 教授	
<b>今後の課題</b>	
<p>獣医学を横断した研究内容の紹介は、受講者の興味を引いていたと考えられる。対象を中高生から一般までと広くしたが、話の難易度の設定が妥当であったかの検証は必要である。</p>	



## 成果報告書

担当者：山本信次

講座名：第14回哲学者 内山 節氏を迎えての「哲学の森」

実施日：令和元年8月17日（土）、18日（日）

受講者数：17日42名／18日41名 定員数：両日ともに30名

## 目的

演習林設置100周年を記念し哲学者内山節氏をお招きして以来、毎年、自然と人間の関係性や現代社会に関する講義を頂き、これからの社会について考える機会を提供することを目的に開催されてきている。

## 活動実績

哲学者内山節氏をお招きし、自然と人間の関係性や現代社会に関する講義を頂く本講座であるが、今年度は「いま、何を見直さなければいけないのか」を大テーマとし、「森林管理をめぐって」、「農業・農村をめぐって」、「〈支配される社会〉をめぐって」の3つの講義をいただいた。とりわけ森林・農地などをめぐって近代的な「管理」にほころびが生じつつある現状をどのように捉えるのか、そうした「管理」や「支配」をなす「近代的な大きなシステム」の限界からどのように逃れるのか、そのための思考法としての「ものそのもの」でなく「それらの関係性」から考える在り方の復活の必要性などが語られた。こうしたお話を受けて、参加者を交えて活発な議論が行われた。

また併せて、講義の中で触れられる「自然と人間の関係性」の岩手における具体的な現われを示すものとしての演習林内を散策しつつ、岩手の風土と歴史の具体的な形としての森と人間の関係についても林内散策を通じて解説した。

## 今後の課題

今後の課題としては、より充実したディスカッションの時間をとれるよう、運営に工夫することが必要である。



成果報告書	
担当者：菅原大輔	
講座名：フィールドセミナー「秋の植物観察会」	
実施日：令和元年10月6日（日）	
受講者数：15名	定員数：15名程度
受講料：なし	
<p><b>目的</b></p> <p>元演習林職員の講師による説明のもと、秋を迎える演習林内の植物にふれあい、岩手大学演習林に親しみを持ってもらえるようにする。</p>	
<p><b>活動実績</b></p> <p>場所：滝沢演習林  講師：伊藤 勲 氏</p> <p>朝晩の涼しさが目立ってきた10月初旬、滝沢演習林にてフィールドセミナー「秋の植物観察会」が開催された。直前の欠席等もあり計15名の参加者で行われた。</p> <p>今回のセミナーは、元演習林職員の伊藤氏に植物の和名に加え方言での名前も説明してもらいながら林内を散策するものである。</p> <p>林内への出発前に、今時期に実がなる植物を伊藤氏より提供、説明を受けた。中にはホップの原種であるカラハナソウや、ヤマブドウの仲間と同様に食べられるサンカクヅル、エビヅルもあり序盤から参加者の興味を引き寄せた。同時に、似た品種で毒性のノブドウも紹介して注意すべき植物の特徴なども紹介した。</p> <p>散策の道中では、花卉の数が異なるツルアジサイとイワガラミや同じクワ科だが葉の形が異なるヤマグワとコウゾといった見目で区別できる植物の説明の際には、参加者同士でそれぞれの違いを教え合いながら特徴を確認していた。また、ウルシ・ツタウルシ・ヤマウルシのかぶれる危険性を教えるとともに、主にウルシから漆塗りの材料である樹液を採取するという説明には感心する参加者が見られた。</p> <p>セミナー中は事故、けが等なく無事に終了できた。またそれ以上に参加者の多くが木漏れ日の射す林内をととても気持ちよさそうに歩いていたことがとても印象的なセミナーだった。</p> <p><b>今後の課題</b></p> <p>最終的に15名の参加者での開催となったが、講師とスタッフ1名の引率でセミナーを行うには林内で集団が離れすぎず説明を伝えるのにちょうどよい人数であった。当日キャンセルの可能性もあることから少し多めの受付を行うことがあるが、定員15名を上限に設定してよいと思う。</p>	

成果報告書	
担当者：真坂一彦	
講座名：樹木の成長・繁殖様式から森林の成り立ちを知る	
実施日：令和元年 11 月 9 日（土）	
受講者数：4 名	定員数：10 名
受講料：なし	
<p><b>目的</b></p> <p>様々な樹種が無秩序に混在するように見える森林でも、それぞれの成長方法や繁殖方法が森林の今ある姿に大きく反映している。</p> <p>本講座では、森林科学に関心を寄せる中学生、高校生を対象に、本学滝沢演習林内を歩きながら、それぞれの樹木の生き方（生態）を説明し、森林の成り立ちについて理解を深めることを目的とする。</p>	
<p><b>活動実績</b></p> <p>本学滝沢演習林において、林道を歩きながらパネルを用いつつ、森林の更新方法と樹木の成長、花の咲かせ方、花粉交配の在り様、そして森林の構造の関係について説明した。</p> <p>樹木の成長や森林の構造を説明するには、樹種の判別が容易な秋の紅葉時期がもっとも適切である。たとえば、枝葉の伸ばし方の違いが樹冠の位置による葉の紅葉・黄葉の仕方に反映したり、窒素固定菌と共生している樹木では紅葉・黄葉がほとんどみられず、雪が降るまで緑の葉を着けているなどの生態的特徴が際立つ。当日は木々がきれいに色付き、また天気にも恵まれたために本公開講座を実施するうえで絶好の日よりだった。</p> <p>参加者の中には宮城県から来た学生もあり、全員、本学森林科学科へ入学希望の学生だった。講座の最初の方では皆おとなしく、こちらから質問しても答えづらい感じだったが、後半になってからは森林の研究についても熱心に質問していた。</p>	
<p><b>今後の課題</b></p> <p>アナウンスが遅くなったために受講者数が予定の半分程度になってしまった。</p>	



成果報告書	
担当者：平田統一、千田広幸、佐々木修、佐々木修一、桃田優子、小野寺昭好	
講座名：子牛の誕生？トラクタに乗ろう	
実施日：令和元年 11 月 16 日（土）～17 日（日）	
受講者数：25 名	定員数：25 名
受講料：300 円（傷害保険料）	
<p><b>目的</b></p> <p>地域の子供達の畜産体験と命についての学び、併せて岩手大学の施設としての御明神牧場の紹介を目的として、小学生とその保護者を対象に、1泊2日の公開講座を開催した。</p>	
<p><b>活動実績</b></p> <p>参加者にはトラクタ運転体験としてベールクラブとラッピングマシンの操作を、牛の世話体験として育成牛への配合飼料の計量給与と粗飼料給与、子牛へのミルクやりを体験させた。さらに牛の分娩観察を内容に取り入れるため、事前に分娩間近の妊娠牛に分娩誘起処置をしておき、娩出しそうになったら体験をいったん休止して分娩房前に集合させた。1頭目の妊娠牛は初日 14 時半頃に分娩し、全員で分娩の様子を観察することができた。2頭目の妊娠牛は初日の夕食時に二次破水し、希望者のみ見学としたがほぼ全員が夕食を中断して分娩を観察した。</p> <p>3頭目は 23 時の分娩で、深夜であったことを考慮して就寝中の参加者には声をかけず、3 名のみが見学した。3 頭目の分娩牛は胎児の頭位整復と牽引が必要で、教職員と学生、参加者で助産し無事に分娩させた。例年は深夜の分娩が多く、就寝中の参加者を起こして分娩観察させたこともあったが、今年度は 2 頭が就寝前に分娩し、例年と比較し参加者全員がゆっくりと分娩を観察することが出来た。</p>	
<p><b>評価</b></p> <p>終了後の参加者アンケートの結果、全体の評価は「とても楽しかった」「楽しかった」「ふつう」「やや不満」「不満」の 5 段階評価のうち「とても楽しかった」が 90.1、「楽しかった」が 9.1 %で、昼間に全員で分娩の様子を観察できたことを反映し、例年以上に高評価であった。自由記入欄には「感動した」「貴重な体験になった」「勉強になった」「かわいかった」「また来たい」との声が寄せられ、非常に好評であった。</p>	



成果報告書	
担当者：濱道寿幸、渡邊篤	
講座名：フィールドセミナー「ウォッチングビンゴをしながら親子で楽しむ秋の森」	
実施日：令和元年 11 月 10 日（日）	
受講者数：14 名	定員数：20 名程度
受講料：無料	
<p><b>目的</b></p> <p>ネイチャーゲームのひとつである「ウォッチングビンゴ」を親子で取り組んでもらい、秋季の林内において動植物の発見や魅力を体感してもらう。また、この体験を通じて市民の方々に岩手大学演習林に親しみを持っていただけるようにする。</p>	
<p><b>活動実績</b></p> <p>場所：滝沢演習林  講師：浅沼 晟吾 氏</p> <p>紅葉が終盤となった滝沢演習林でフィールドセミナー「ウォッチングビンゴをしながら親子で楽しむ秋の森」が開催された。</p> <p>当日 2 名のキャンセルがあり計 14 名の参加者（うち子共 6 名）となった。</p> <p>散策コースは例年と同様に 10 林班広葉樹見本林まわりの林道、及び国土交通省との境界である四十四田ダム巡回路を歩いた。</p> <p>セミナー序盤ではウダイカンバやホオノキ・ブナの落ち葉の道を散策しながら、枯れ葉の音と感触を体感した。また、シラカバの枝痕やクズ・クルミの葉痕を観察し、各部位が顔に見えるという特徴を説明すると、親子で指さしたり顔を近づけたりし、とても興味深く観察していた。</p> <p>林内の紅葉は散り始めており道上を落葉が層をなして埋め尽くしていたが、その中でシオデやヤマカシユウの黒い実やガmazミやミヤマガmazミの赤い実を、視覚や味覚を用いながら観察し、「甘い・酸っぱい」「苦い・おいしい」等の感想を話した。</p> <p>終盤はダム巡回路に入っの散策で、南部藩時代から残るクヌギ林の歴史について触れたり、倒れたサクラから多数生えるムキタケを発見したりした。</p> <p>次回の「春のフィールドセミナーにも参加したい」「夏と冬もやってほしい」との声があり、参加者にとって充実したセミナーだったことが感じられた。</p>	
<p><b>今後の課題</b></p> <p>受付の際、参加者には名札、ウォッチングビンゴシート、鉛筆、クリップボード、地図、双眼鏡を貸与したが、双眼鏡が古く持ち手がベタついたものが数点あり、子どもたち全員には行きわたらなかった。今後は更新も考えていければ、よりよいものとなると感じた。</p>	

成果報告書	
担当者：荒木 功人	
講座名：ニワトリ胚を用いた研究紹介+ニワトリ初期胚の観察会	
実施日：令和元年 12 月 14 日（土）	
受講者数：20 名	定員数：30 名
受講料：なし	
<p><b>目的</b></p> <p>爆発的に発展し続けているライフサイエンス分野では、さまざまなモデル生物が用いられている。北東北において食用として親しまれているニワトリは、そのようなモデル生物の 1 つであり、古代ギリシャ時代から 2300 年以上、研究の対象となってきた。本プログラムでは、ニワトリ胚を用いた研究の歴史を解説した後、主に基礎的分野に焦点を当てつつ、最新の研究成果をわかりやすく説明する。また講演に引き続き、ニワトリ初期胚の観察会も行う。</p>	
<p><b>活動実績</b></p> <p>講演では、ニワトリが属する鳥類の進化と特徴について述べた後、ニワトリの家禽化の過程について説明した。続いて発生生物学におけるニワトリの実験動物としての特徴について説明した後、その実験動物の歴史を紹介した。そして、ウズラ-ニワトリキメラ胚を用いた神経堤由来細胞の発生や、遺伝子導入により鳥類の直接の祖先である恐竜の特徴をニワトリに復活させる研究、更に脳の領域化に関する研究について紹介した。</p> <p>続いて持参した実体顕微鏡と 2 日および 4 日孵卵した有精卵を用いて、ニワトリ胚の観察を行った。参加者のうち半数程度は高校生であり、少なくとも 1 名は本学農学部獣医学科を志望しているとのことであった。</p>	
<p><b>今後の課題</b></p> <p>事前参加申込者は 6 名であったが、当日参加も受け付けることを広報し、更にオープンスペース（八戸ポータルミュージアムの「はっちひろば」）での講演であったため、最終的に 20 名の参加があった。隣は百貨店と立地は最高であるので、もう少し良い季節に予約を取れば、更に参加者増を期待できたが、公開講座の実施が認められる 5 月には、良い季節の週末は既に全て予約が入っていたことは惜しまれる。</p>	
	<p><b>in ovo エレクトロポレーションによる遺伝子導入</b></p> <p>easy inexpensive non-biohazardous</p> <p>① buy fertilized eggs</p>  <p>② make a pinhole on the eggshell</p>  <p>③ remove 4ml of the egg white per egg</p> 

成果報告書	
担当者：上濱龍也，清水茂幸	
講座名：少年少女のための陸上競技	
実施日：令和2年2月1日（土）、8日（土）、15日（土）	
受講者数：120名	定員数：100名
受講料：なし	
<p><b>目的</b></p> <p>陸上競技を愛し、学びたい少年・少女に対して、基本技能の習得と冬季トレーニングなどについて、レベル・目的に応じたプログラムとエリアとヒトを提供し、資質の向上を目指し開講する。</p> <p>また、本講座は岩手県小学校体育研究会の陸上指導者の小学校教員を外部講師に迎え、さらに、小学校挙員を対象とした指導者講習会を兼ねることにより、将来に向けた指導者養成も行うことを目指す。</p>	
<p><b>活動実績</b></p> <p>教育学部の上濱龍也，清水茂幸のほか県内小学校の教員16名を外部講師に迎え講座を実施した。</p> <p>2月1日は走運動を中心に、早く走るための身体の使い方や動き方などを、高学年児童はより正確に、中学年以下の児童は楽しみながら県内全域から集まった初めて会う友達と仲良く学び、最後は全員でリレーを行った。</p> <p>2月8日は、ハードル走や跳運動の基本となる走りながら踏み切ることを遊びや身近な器具を用いて挑戦し、学習した。はじめのうちは上手くできなかった参加者も、リズムよく跳べるようになった。</p> <p>2月15日は投運動を行った。ボールをあまりうまく投げられなかった参加者も、身体の使い方、腕の振り方などを段階的に学習し、楽しみながら遊び感覚で慣れていくうちに、遠くに投げられるようになった。</p> <p>また、県内の若手の小学校教員も延べ25名ほど参加し、楽しく学ぶ学習方法について参加者や指導者たちと一緒に学ぶことができた。現在、全国小学生陸上競技大会も勝つことを競うことよりも、多様な種目に挑戦することや競技の楽しさを経験することを主眼とする方向に変革されていること、陸上競技は様々な運動の貴をとることを踏まえ、いかに楽しく運動に親しむかについて学ぶ機会となった。</p>	



#### 今後の課題

今年度は、昨年度ほどではなかったが、インフルエンザなどの流行時期であることを考慮した対応や、定員を超える参加ニーズへの対応なども検討していく必要がある。

成果報告書	
担当者：鎌田安久	
講座名：コーチのためのサッカーD級コース	
実施日：令和2年2月1日（土）、2日（日）	
受講者数：33名	定員数：30名
受講料：7,600円	
<p><b>目的</b></p> <p>近年、サッカーの普及には眼を見張るものがあるが、サッカーの専門教育を受けた指導者は少ないのが現状である。そのため本講座は、小学生年代の指導に携わろうという方や理解を深めたいという方に対して、サッカーの技術、指導法に関する基礎的情報を提供し、指導力向上を目指して開講するものである。なお、講座の受講対象者には、（公財）日本サッカー協会第4種加盟登録団体（チーム）の指導者はもとより、サッカーの指導に関わる学校関係者や保護者の受講も歓迎する。また、本講座を修了・資格検定審査に合格し、所定の手続きを経た方には岩手県サッカー協会と共催し（公財）日本サッカー協会公認「D級コーチ」の資格を与えるものとする。</p>	
<p><b>活動実績</b></p> <p>受講者：女性2名 男性31名 計33名 平均年齢38歳 最年少20歳 最高齢47歳</p> <p>住所：久慈市 二戸市 八幡平市 宮古市 釜石市 花巻市 北上市 金ヶ崎町 一関市 雫石市 滝沢市 盛岡市</p> <p>会場：教育学部 教育系棟 E22教室 第一体育館</p> <p>2月1日（土）9：00～17：30</p> <p>9：00～ 9：45 コースガイダンス</p> <p>10：00～10：45 講義「発育発達と育成の全体像」</p> <p>11：00～12：30 講義「コーチング法」</p> <p>13：30～14：30 実技①「ゲーム」</p> <p>14：45～15：45 実技②「テクニック」</p> <p>16：30～17：30 講義「審判とルール」</p> <p>2月2日（日）9：00～18：30</p> <p>9：00～ 9：30 講義「実技の振り返り①②」</p> <p>9：30～10：15 講義「メディカルの知識」</p> <p>10：30～11：30 講義「大人の関わり」</p> <p>13：00～14：30 実技③「サンプル①②」</p> <p>14：45～15：45 実技④「シュート」</p> <p>16：15～16：45 講義「実技の振り返り③④」</p> <p>17：00～17：30 筆記試験</p> <p>18：00～18：30 修了ガイダンス</p>	



暖冬とはいえ盛岡の2月は寒さが厳しく、そのような中、広域の岩手県内、北は久慈市、沿岸は宮古市、釜石市、陸前高田市、南は一関市からと、県内遠方より多数の方々に参加していただき、熱心に受講していただいた。大きなケガや事故もなく、所定の JFA 公認カリキュラムも全て実施し、受講生にはサッカー指導者として、また大人としての関わり方についての理解を深めることができ、JFA 公認 D 級コーチ資格を全員が取得することができた。

#### 今後の課題

体育施設として 暖房など冬季の使用に適した環境整備が必要である。



成果報告書	
担当者：山本信次	
講座名：フィールドセミナー「かんじきをはいて冬の森を歩こう」	
実施日：令和2年2月16日（日）	
受講者数：20名	定員数：20名
受講料：無料	
<p><b>目的</b></p> <p>大学の教育研究施設としての演習林の利用を学内にとどめることなく、社会に広く開放すること、また近年関心の高まる森林のもたらす生態系サービスの詳細について市民に普及し、その制御技術としての森林科学が大学でどのように研究されているかを周知することを目的とする。</p>	
<p><b>活動実績</b></p> <p>活動における指導は、教員の山本信次、技術職員の菊地智久、麻生臣太郎、菅原大輔の4名で行った。</p> <p>今回の参加者は成人個人単位と子供連れご家族での申し込みに大別できたため、年齢の違いによる理解力の相違などに配慮してその二つでグルーピングを行い、スタッフが付き添って森林内をかんじき装着の上でガイドウォークした。</p> <p>成人グループにおいては、一般的な森林生態、樹木の判別、森林管理技術の開設などを中心に行った。</p> <p>子供連れ家族グループについては、野生動物の足跡や食べ痕、糞などの痕跡から森の生き物を調べるアニマルトラッキングや植物の解説、林業に関する簡単な解説を行った。</p> <p>グルーピングが功を奏し、参加者の興味や関心に沿った形での運営とできたことで参加者からは、「面白かった」、「来年も参加したい」などの感想をいただき好評を博した。</p>	
<p><b>今後の課題</b></p> <p>開始前の降雨により参加をキャンセルする方が複数あり、申込から人数が減少したものの、予定定員を確保することができた。</p> <p>また暖冬・小雪の影響により、かんじきを利用する時間が短くなってしまった。</p> <p>温暖化の進む中で開催時期を徐々に前倒しするなどの対応をとってきているものの、本務との関係上、これ以上の開催時期の前倒しは難しい。開催場所を御明神演習林に変更する、雪の多寡にかかわらず楽しめる企画であることを周知するなどの対応をとっていきたい。</p>	

## 2-5 企画講座「がんちゃんの学び」

岩手大学では、地域の中核的学術拠点として大学の知的資源を活用した社会貢献を推進しており、生涯学習部門がその窓口として多岐にわたる講座を提供している。生涯学習部門では毎年、地域に愛着を持ち、地域課題に取り組む地域人材の育成を目標に、地域の学習需要を確認し、ニーズに合った学習プログラムを提供するため、毎年企画講座「がんちゃんの学び」（シリーズセミナー）を開講している。今年度は「中国文化と中国語入門講座」及び「地域のグローバル化と子ども支援」の2つのシリーズを開講している。セミナーは令和元年7月から令和2年2月にかけて実施した。実施状況は下記の通りである。

表2-5-1 令和元年度がんちゃんの学び講座一覧

NO.	講座名	報告資料 番号
1	中国文化と中国語入門講座	2-5-1
2	地域のグローバル化と子ども支援	2-5-2

なお、地域住民の学習ニーズを確認するため、学内で社会人を対象に開講している各プログラムの受講者を対象に生涯学習ニーズのアンケート紙調査を行うと共に、がんちゃんの学びの講座の質保証のためのアンケートを取っている。なお、アンケート調査の結果は資料<2-5-3>及び<2-5-4>の通りである。



## 成果報告書

担当者：朴 仙子

講座名：中国文化と中国語入門講座

実施日：令和元年7月10日～10月30日 毎週水曜日

受講者数：13名 定員数：15名

受講料：無料

## 目的

隣国である中国の文化、言語について紹介することで、中国への理解を深め、日本と中国との交流を促すことを目的に開講している。講義では、言葉の背景にある中国文化や中国人の考え方にも触れ、言語に対する理解を深めていく。

## 活動実績

中国への理解を深めるため、中国文化を交えた中国語入門講座を開講した。15回の講座では、ピンインから始め、簡単な日常会話ができるよう会話中心の講義を行った。

講座の成果を確認するため、最終回の授業に岩手大学に在学している留学生がティーチングアシスタントとして加わり、実際の会話練習をすることができた。なお、講座のカリキュラムは下記の通りである。

	日程	講義名	講義内容
1	7月10日	中国語の学び方	中国語の由来、簡体字と繁体字、ローマ字表記法、四声
2	7月17日	母音と子音	母音と子音の発音と練習
3	7月24日	こんにちは！	人称代名詞、述語文と疑問文
4	7月31日	お元気ですか	形容詞述語文と疑問文
5	8月21日	あなたのカードキーです	指示詞、「的」の使い方
6	8月28日	郵便局はどこですか	場所を表す語、前置詞「在」
7	9月4日	今日は日曜日です	名詞述語文、曜日のいい方
8	9月11日	どこへ行きますか？	場所指定詞、動詞述語文
9	9月18日	どこへ行きましたか？	過去を表す「了」
10	9月25日	いくらですか？	疑問詞「多少」、変化を表す「了」
11	10月2日	お酒が飲めますか	助動詞「会」と「能」、レストランで使う表現
12	10月9日	ごちそうします	動詞「请」、経験を表す「过」
13	10月16日	映画を見に行きましょう	連動文、時刻の言い方
14	10月23日	何人家族ですか	疑問詞「谁」、「几」
15	10月30日	中国語で自己紹介	受講者による成果発表、懇談会

## 今後の課題

大学における社会人向けの学習機会の提供への需要は確認できているが、社会人のための講習会場の確保は追いついていない状況である。社会人学び直しの推進において、継続的に使用可能な教室の確保は喫緊の課題となる。

## 講義の様子



成果報告書	
担当者：朴 賢淑	
講座名：地域のグローバル化と子ども支援	
実施日：令和2年1月30日、2月5日、12日、19日	
受講者数：119名（延べ人数）	定員数：各講座15名
受講料：無料	
<p><b>目的</b></p> <p>1990年の出入国管理及び難民認定法（入管法）の改正をきっかけに外国人の数は年々増え、令和元年6月には日本に常住する外国人の数が283万人弱となっており、日本の総人口の2%を占めている。</p> <p>一方、観光客だけではなく生活者として日本で暮らす外国人の増加に伴い、「外国にルーツのある子どもたち」も増え、多様な言語や文化をバックグラウンドに持って日本の地域社会で暮らす子どもたちをめぐる課題も浮き彫りになっている。</p> <p>岩手県においても留学生をはじめ国際結婚者、外国人技能実習生・研修生など多様な目的を持って暮らしている外国人移住者が増えており、中には子育てをしている親も少なくない。</p> <p>近年、学校において外国にルーツのある子どもに出会うのも珍しいことではなくなっているが、日本での「孤育」に不安を抱えている外国人親への支援が行き届いているとは言えない。</p> <p>多文化共生社会において多様化する言語や支援のニーズに応えるためには、地域住民の協力が不可欠である。そこで本講座では、地域社会における外国人に対する理解を深め、外国にルーツを持つ子どもの教育支援の在り方について探ることを目的としている。</p>	
<p><b>活動実績</b></p> <p>各講座に定員を大幅に超える受講者が集まり、地域におけるグローバル化・子ども支援のニーズを確認することができた。講習には、研究者、支援者、実践者を講師として招き、それぞれの視点から外国にルーツを持つ子どもの支援について講義をしてもらい、質疑応答を通して受講者と意見交換を行った。なお、講座の詳細は下記の通りである。</p>	

日程	講義名	講師
1 1月30日	地域の多文化化と子どもの支援 ー自治体施策の現場に見るコーディネーターの必要性ー	公益財団法人 仙台観光国際協会 仙台多文化共生センター長 菊池 哲佳
2 2月5日	貧困問題と子ども支援	特定非営利活動法人インクルいわて 理事長 山屋 理恵
3 2月12日	多文化社会に育つ子どもたちの教育 ーその現状と課題を考えるー	職業能力開発総合大学校 助教 坪田 光平
4 2月19日	外国人の親の子育て実践	仙台中国文化交流協会 副会長 李王寧

### 今後の課題

全国において、多様な支援活動が展開されている中、岩手県における外国にルーツを持つ子ども支援、親支援が充分に行き届いているとは言いがたい。今後大学においても外国にルーツを持つ子ども及びその親の支援を検討していく必要がある。

地域の多文化化と子どもの支援 講義の様子



貧困問題と子ども支援 講義の様子



多文化社会に育つ子どもたちの教育 講義の様子

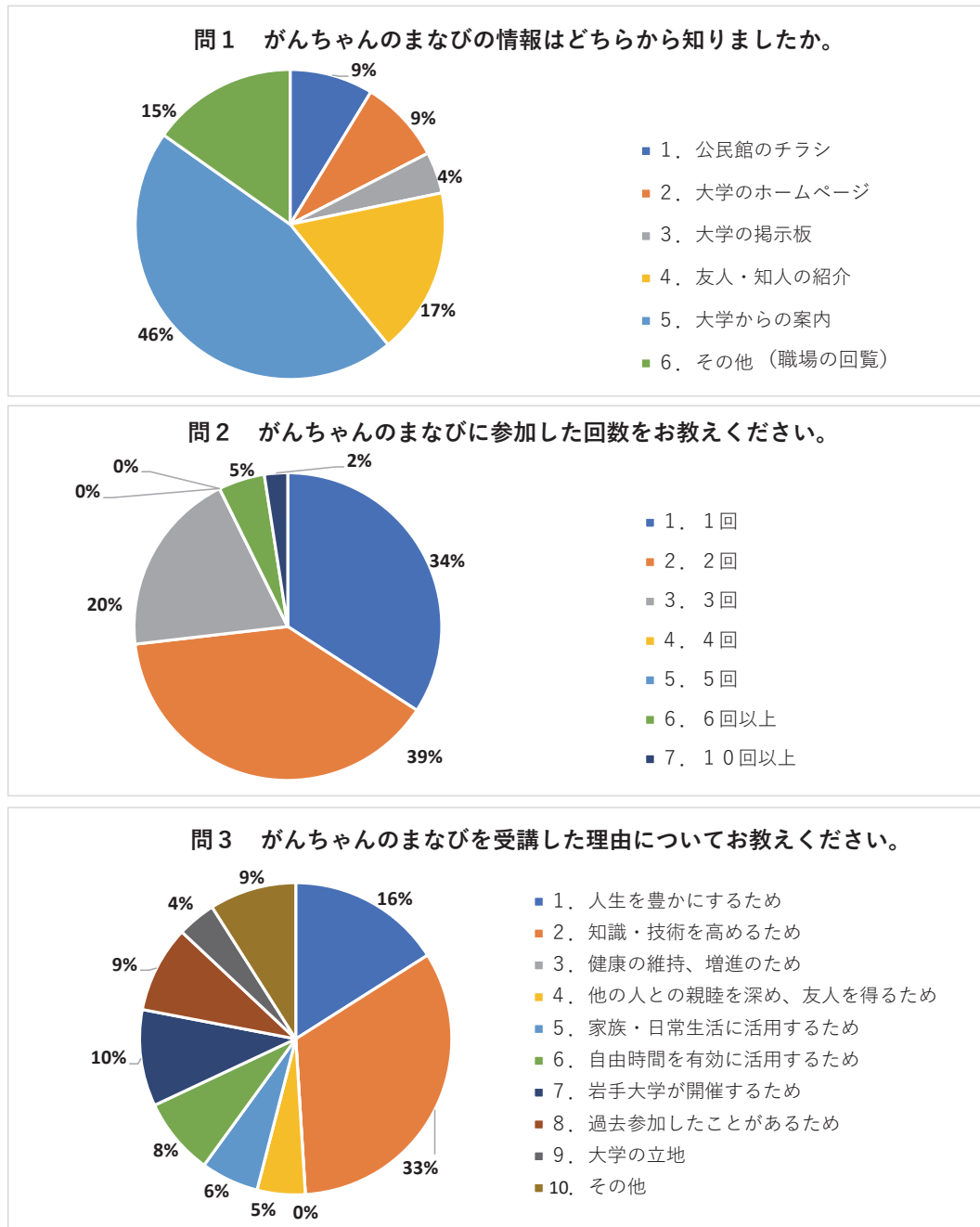


外国人の親の子育て実践 講義の様子



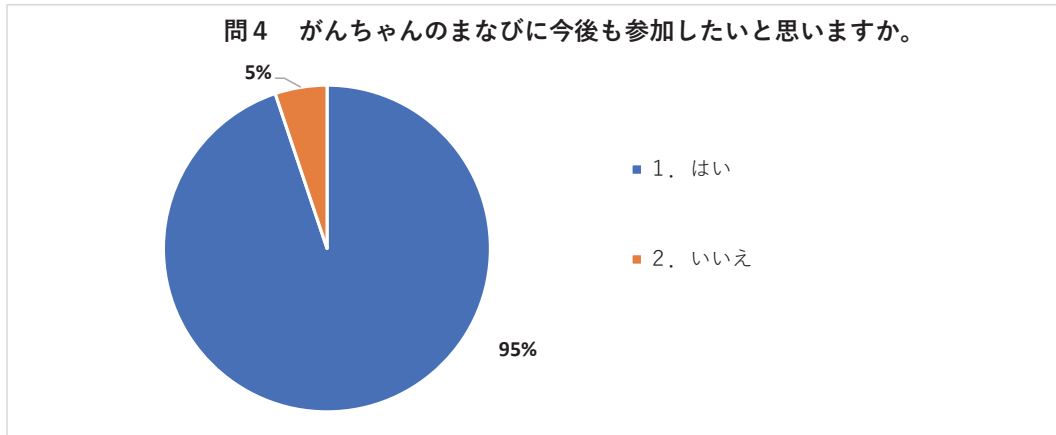
## 令和元年度がんちゃんのまなびアンケート調査結果

回答者：42名



## ■問3「その他」の記述

- ・ 貧困問題など保育指針にも出てきているが、実際のところ現状がよく分からなかったため。
- ・ 内容に興味のあるものだったので。
- ・ 岩大とは明治期鉤屋町人vs上田町人がどっちに建てるかけんかになりました。
- ・ 学び直しです。とても勉強になりますので助かっています。
- ・ 仕事上の役に立つかも・・・？
- ・ 現在の仕事に活かすため。



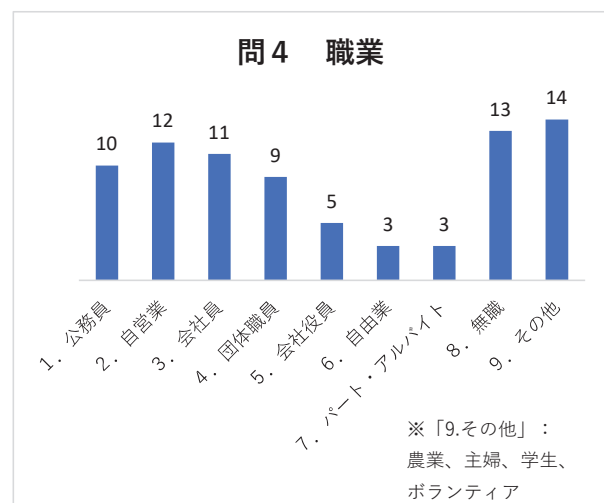
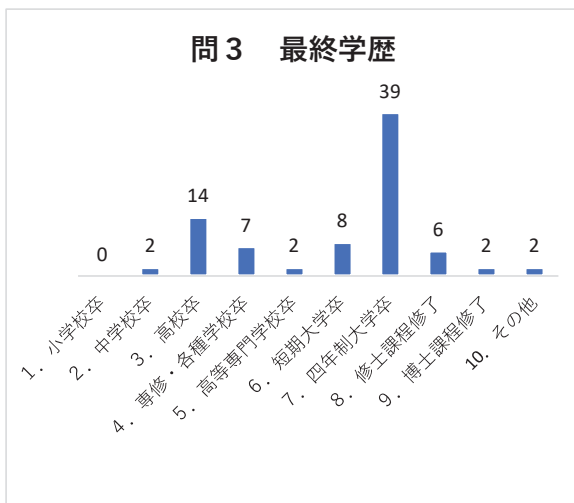
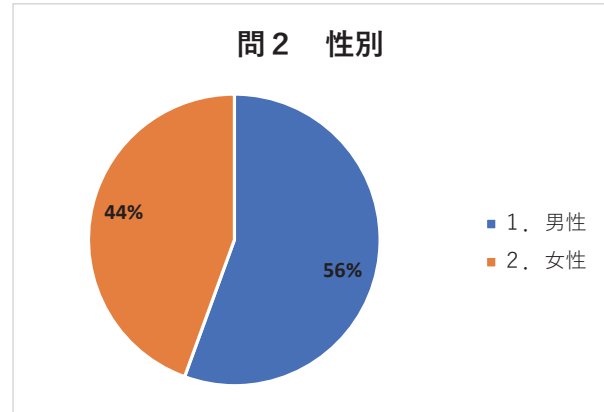
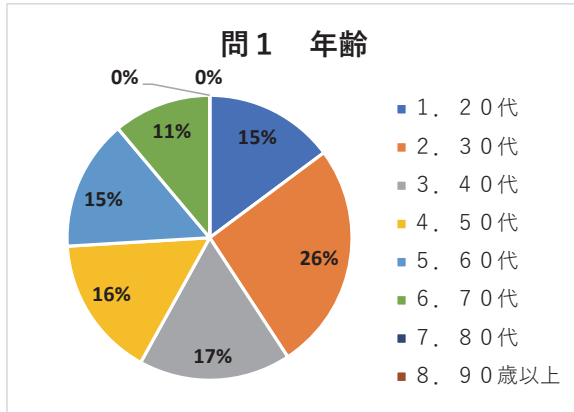
【問4の理由】

- ・ 大学とは無縁であった。受講が楽しいからです。
- ・ 知識を得るため。
- ・ 自分のため、地域のため、高齢者のため、子どものための知識を学べるから。それを地域社会に還元できるから。
- ・ とても勉強になるから。
- ・ 生涯学習継続
- ・ とても勉強になったから。
- ・ できれば学習したことを盛岡や岩手という地域で何か生かせればと思います。
- ・ 幅広い視野で学べました。
- ・ とても内容の濃い講習なので。
- ・ 新しい発想が得られるので。
- ・ 日本語の勉強を含めて、いろいろ知識を増やします。
- ・ いろいろな人を話を聞きたいです。
- ・ 社会参加をしたいので。
- ・ 生活に活用する知識を得るために。
- ・ テーマが大変興味のあるものだったので。
- ・ 近くに住んでいることと一昨年からのシリーズの内容に興味があるから。
- ・ 自分の知らない分野について理解を深めるよい機会となるから。
- ・ 社会に役立つプログラムが用意されていることです。
- ・ 現在の問題を知ることができると思える。
- ・ 生涯学習継続
- ・ もっと専門的内容があってもいいかも。NPOの人とかいつも同じ方しかいないのか？
- ・ 知らない知識を得ることができるうえ、知り合いができるので。この知識をどうにか活用する場があると良いと思います。
- ・ 参加することで、新しい出会いがあるため。（学びのアップデートができる）
- ・ 普段では考えないことを系統だてて知ることができる。
- ・ 今まで考えたこともなかったが、周りの移民子供についての配慮も考えていきたい。
- ・ 新しいことに気づくからです。
- ・ 人生を豊かにするため。ボランティアに役立てたい。
- ・ ニュースを見るだけでは分からないことを知れたから。
- ・ タイムリーな講座の内容であるため。
- ・ 内容が濃く、ためになるので。
- ・ 内容は自分の興味を持っているものだと参加したい。

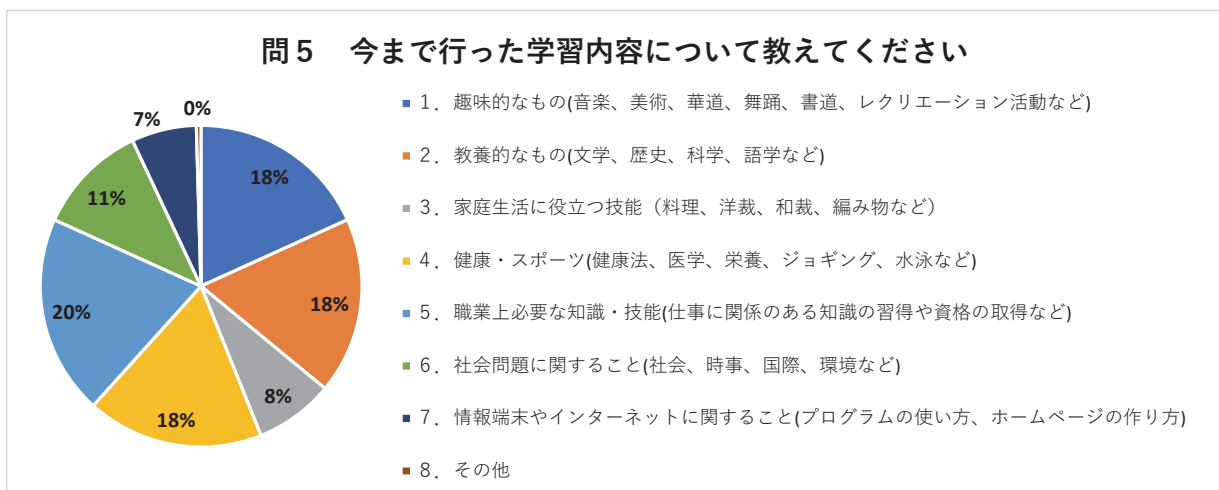
## 令和元年度生涯学習ニーズに関するアンケート調査結果

回答者：84名

I ご自身についてお聞きます。

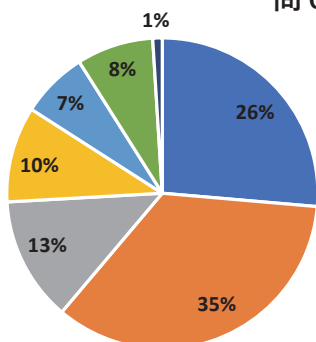


II 生涯学習経験について



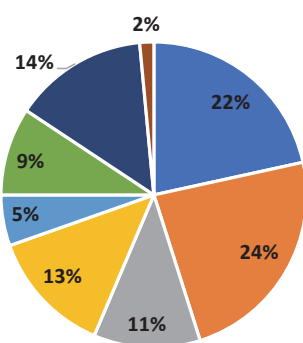


### 問6 学習を行う理由について教えてください



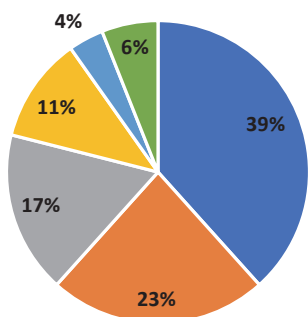
- 1. 人生を豊かにするため
- 2. 知識・技術を高めるため
- 3. 健康の維持、増進のため
- 4. 他の人との親睦を深め、友人を得るため
- 5. 家庭・日常生活に活用するため
- 6. 自由時間を有効に活用するため
- 7. その他

### 問7 学習を行った場所は？



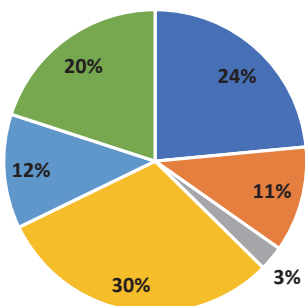
- 1. 大学で開講された公開講座・セミナー等
- 2. 公民館などの公的機関における講座や教室
- 3. 同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動
- 4. カルチャーセンターやスポーツクラブなど民営の講座や教室
- 5. 通信教育
- 6. 職場の教育、研修
- 7. 自宅での学習活動（書籍など）
- 8. その他

### 問8 参加した講習の受講料について教えてください



- 1. 無料
- 2. 5000円未満
- 3. 5千円以上、1万円未満
- 4. 1万円以上、3万円未満
- 5. 3万円以上、5万円未満
- 6. 5万円以上

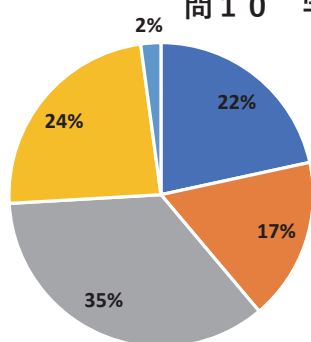
### 問9 参加した講習の情報はどちらから知りましたか



- 1. 公民館のチラシ
- 2. 大学のホームページ
- 3. 大学の掲示板
- 4. 友人・知人の紹介
- 5. 大学からの案内
- 6. その他

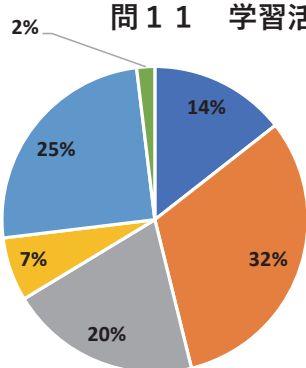
※「その他」：職場から、SNS、HP（ネット）  
情報誌市などの広報誌、新聞

**問 1 0 学習活動を通じて身に付けた知識・技能や経験をどのように生かしていますか**



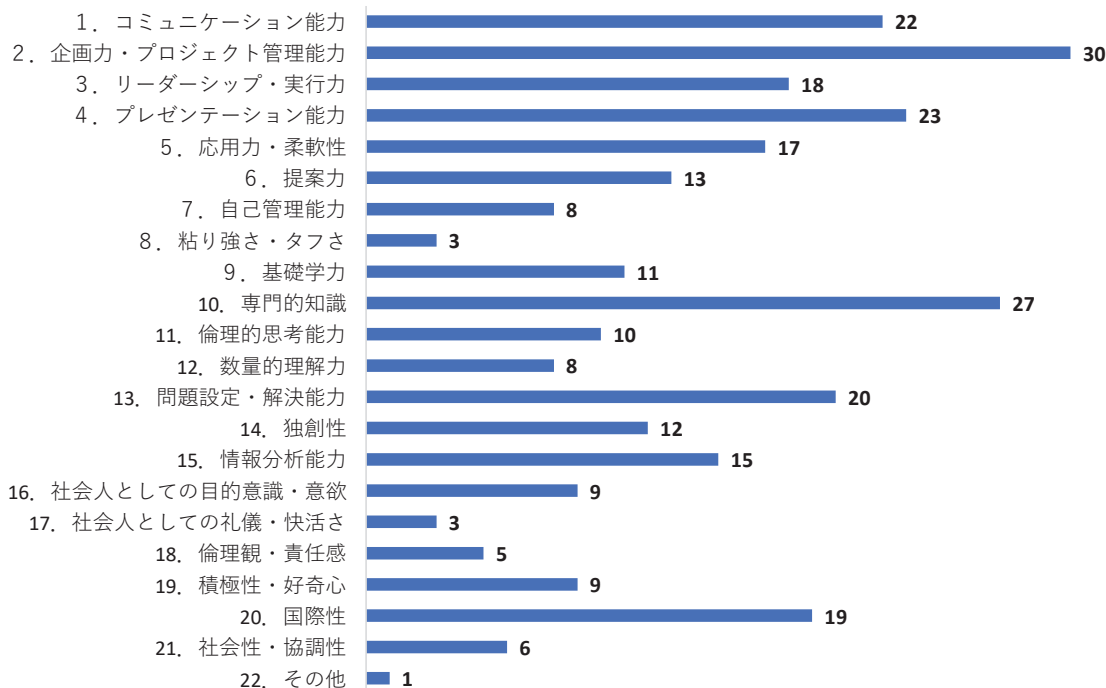
- 1. 自分の健康を維持・増進している
- 2. 家庭・日常の生活に生かしている
- 3. 仕事や就職の上で生かしている
- 4. 地域づくり活動や自治会活動に生かしている
- 5. その他

**問 1 1 学習活動を行う際、あなたが一番重視するものはなんですか**

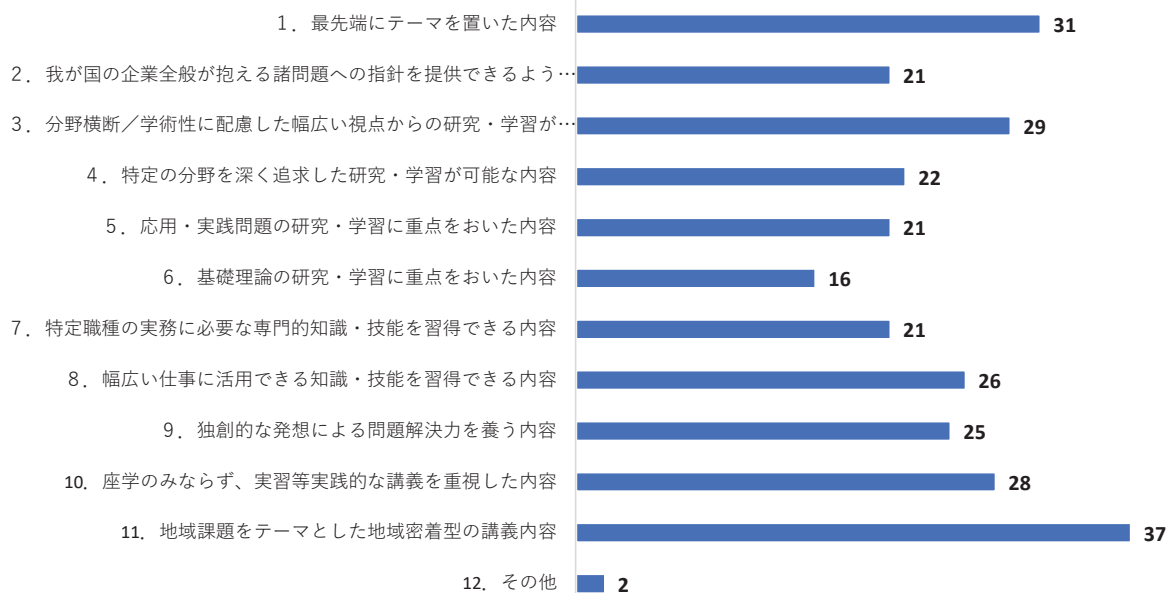


- 1. 趣味的なものを楽しんで行うこと
- 2. 教養的なものを学習すること
- 3. 生活に役立つ技能を身に着けること(資格に関係なく)
- 4. 健康の維持や増進
- 5. 職業上必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)
- 6. その他

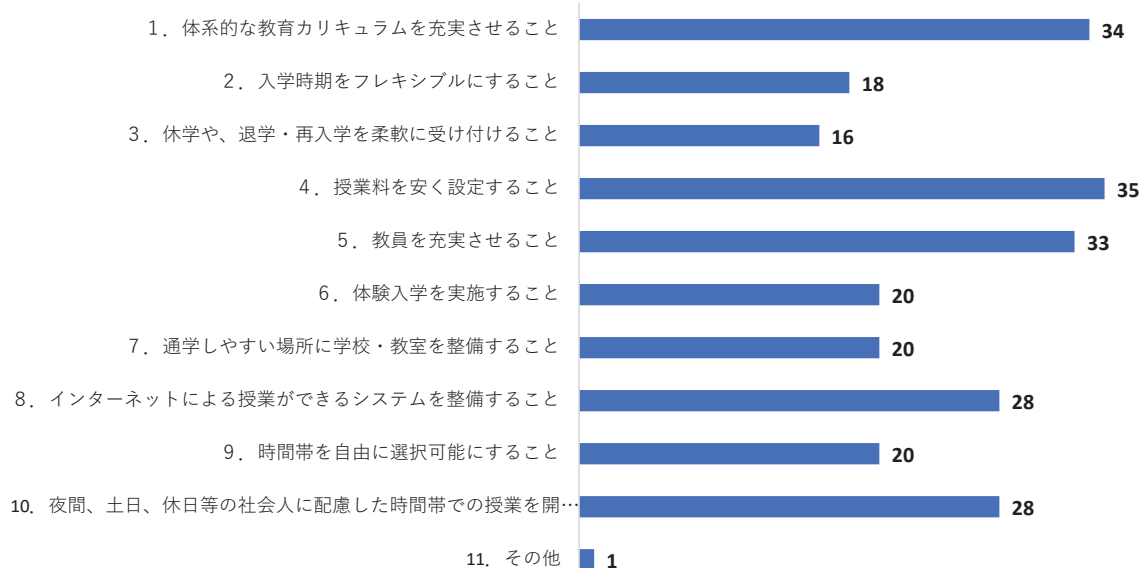
**問 1 2 大学で学び直しをする場合、特に身に付けたい知識・技能・資質はなんですか**



### 問13 大学等で学び直しプログラムを提供する際、 カリキュラムにおいて特に重視してほしい内容は何か



### 問14 大学等において、教育環境面で 特に重視してほしいことは何か



○ご意見等をお書きください。

- ・ 高齢者への聞き書きや昔の知恵、技術。オカルトやスピリチュアルの科学的なアプローチ。
- ・ 聴講生みたいな形での講座（本学生）があれば。
- ・ この事業を続けてください。
- ・ 岩手ならではの、賢治、啄木、原敬など。岩手ならではの災害について。
- ・ 意見交換や話し合いなど討論できる場の提供（セミナーだけでなく）。人と人の交流が必要だと思います。
- ・ 心理学、精神論。あおり運転、いじめ、貧困などの社会現象をうけて。
- ・ そのまま社会に出ても履歴書に書けるほどの資格を取得できる講座。
- ・ 地元の歴史学・地理学・民俗学。大人になるにつれ、知りたくなってきました。
- ・ 弱者（高齢者、子ども）に関する講座。現場で実際に活躍している方。
- ・ 私は主婦で夫の転勤があります。特別な資格も専門的な知識もありませんが、余力は常に持っていますが、住むところも変わる度に、どのように“力”を出せるか悩みなのです。盛岡のような場所なかりでなく、中山間地域もあれば東京もあります。前回どなたかが「ネット」はあるが「ワーク」がない！！と言っていましたが、私のように転々としている者は「ネット」も少ないです。
- ・ 学び直しプログラム等について、本当にありがとうございます。私は大学の先生のご指導とは無縁な者と思っておりました。とにかく、お話を聞くことが嬉しいです。
- ・ SDGsに関連するもの
- ・ 毛沢東と今日の中国
- ・ 資格を取れる講座を開講してほしいです。
- ・ 大変勉強になりました。ありがとうございました。

## 2-6 地域連携

生涯学習部門では地域の課題に対応できる人材育成を目的に地域に密着した学習プログラムを提供するため、岩手県内にある各市町村の教育委員会、公民館等の関連機関との連携を強化している。今年度は、社会人学び直し講座の開講に際し、岩手県教育委員会、岩手県立生涯学習推進センター、釜石市教育委員会、上田公民館と協議を重ねた結果、連携体制のもとで、岩手県における生涯教育システムの構築に合意した。詳細は〈資料2-6-1〉各機関との打ち合わせ記録を参照されたい。

また、各市町村から派遣されてきた共同研究員と連携体制を構築し、今後の支援体制を図るため、昨年度に続き、共同研究員との懇談会を2回開催している。生涯学習部門では、各市町村で開かれた地域フォーラムに生涯学習部門のパネルを掲示することで共同研究員の活動を支援し、共同研究員は生涯学習部門と各市町村の架け橋となって、人的ネットワークの構築に向けて活動を進めている。詳細は〈資料2-6-2〉共同研究員懇談会議事録を参照されたい。



〈地域連携フォーラム in 釜石〉

## 岩手県立生涯学習推進センターとの連携に関する打ち合わせ記録

日程：令和元年7月16日（火） 13：30～15：00

訪問先：岩手県立生涯学習推進センター

先方対応者：藤原 安生（岩手県立生涯学習推進センター 所長）

訪問者：朴 賢淑 准教授、朴 仙子 特任研究員

朴准教授より、岩手大学、岩手県教育委員会、岩手県立生涯学習推進センター及び各市町村の連携の下、岩手県の生涯学習システムを構築していきたい旨の説明があった。

なお、打ち合わせでは下記の事項について話し合われた。

○岩手県立生涯学習推進センターの事業について

- ・岩手県立生涯学習推進センターでは、主に市町村の生涯学習担当者を対象に講座を企画、開講している。
- ・1年間の事業計画をまとめた「事業等実施要項（案）」を、3月中旬に発行している。  
→各市町村で予算計画に組めるよう、3月に発行している。
- ・県教育委員会では、家庭教育、地域づくり、学校と家庭の連携を3本柱にしているので、岩手県立生涯学習推進センターでの講座もこの3本柱で展開しているが、家庭教育、学校と家庭の連携に事業内容が偏りがちである。生涯学習関連の講座は、広報、プログラム企画等が多い。
- ・今年から地域づくりに重点を置き、2年間の研究プログラムを始めている。山田町、紫波町をフィールドとしている。

○いわて生涯学習士育成講座について

朴准教授より地域の生涯学習関連部署の職員の中には専門知識がない者も多いことから、準社会教育主事の育成を目的に「いわて生涯学習士育成講座」を開講したい故の説明があった。

なお、カリキュラムに関して、藤原所長より下記の提案をいただいた。

- ・岩手県は広いので集まるのが大変である。科目の大枠をコースとした方が、2日間で一つのコースを修了することができるので、受講者を集めやすい。
- ・3つのコースなので、履修期間を「1回の登録で3年受講できる」ようにすると気軽に集まれる。
- ・近年教員の社教主事講習の受講者は増えているが、一般行政職員の受講者が少ない。一般行政の職員が講習を受ける意義をアピールした方がいい（生涯学習課だけでなく、保健福祉など他部局でも有用であること）。
- ・NPO、地域づくり、子育てなどの人たちが参加したいプログラムにするのもいい。
- ・後援については、センターは岩手県教育委員会の一部署であるため、県教育委員会のみでいい。

- ・各授業において、受講者による発表の時間を設けると満足度が高い。
- ・開講時期については、秋は行事で忙しい（10月はスポーツ関連、11月は文化祭関連）ので、避けた方がいい。週の前半の方が参加しやすい。
- ・講師派遣については、センターに直接連絡してもいい。なお、講義名だけでは、講座の内容が分かりづらいので、詳細を追記した方がいい。

なお、今後連携体制を構築することについては合意された。

## 岩手県教育委員会との連携に関する打ち合わせ記録

日程：令和元年7月16日（火） 13：30～15：00

訪問先：岩手県教育委員会

先方対応者：佐藤 公一（岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課総括課長）

澤柳 健一（岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課主任社会教育主事）

訪問者：朴 賢淑 准教授、朴 仙子 特任研究員

朴准教授より、岩手大学で今年度より「いわて生涯学習士育成講座」を開講することが決まり、詳細を調整していること及び岩手県教育委員会と各市町村の連携の下、岩手県の生涯学習システムを構築していきたい旨の説明があった。

なお、打ち合わせでは下記の事項について話し合われた。

### ○いわて生涯学習士育成講座について

朴准教授より地域の生涯学習関連部署の職員の中には専門知識がない者も多いことから、準社会教育主事の育成を目的に「いわて生涯学習士育成講座」を開講したい故の説明があった。

なお、下記の事項について検討した。

- ・県民カレッジでも同様な構想があったが、専門知識をという面で限界があった。大学でやるということは、こういった面で非常に意義のあることである。なお、講座の内容は県民計画にもあった内容となっている。

- ・講座修了後の出口を作っていく必要がある。「生涯学習士」の「生涯学習」の概念が大きすぎて、あいまいになってしまう恐れがあるので、こういった職種の人が取った方がいいかを明記した方がいい。

- ・市民センター等を指定管理している団体の学習機会が少ないことから、指定管理していない市民センターと差が出てきている。

- ・学習に関するニーズは高いものの、職場の職務に追われているので、受講したことで職務の処理が楽になるなど、講座受講のメリットを理解してもらう必要がある。

- ・岩手県は広いので集まるのが大変である。特に、葛巻のような小さい市町村には、担当職員が少ないことから各種講座を受講するために職場を離れるのが難しい。県の研修プログラムへの参加率も一ノ関、奥州市は9割、盛岡市は8割であるのに対し、葛巻は1割しかない。

- ・ICTを活用した同時進行の授業形式の他、動画などの学習コンテンツを作成し、見たいときに見られるようになるといい。

- ・1つの市町村を選定し、ICT教育のモデルケースを作るのは？

- ・県教育委員会の講座の継続事業として位置づけることで、受講率を高めることができる。現在県教育委員会で開講している講座は、入門講座と専門講座となっていて、間に生じるギャップを大学の講座が埋めることができる。



・行政職員は各地域の課題を背負ってくるので、発信し、解決策の得られる講座にする必要がある。

・地方開講をする場合は、二戸、久慈、釜石、一関の4地域を検討してもらいたい。

○岩手県生涯学習システムの構築について

・社会教育主事講習の現在の3大学が2年間ずつ持ちまわるシステムを1年間ずつ持ちまわるシステムに改編してほしい。

・社会教育人材養成のニーズに関しては、県内全ての市町村を対象にアンケート調査を行うこともできる。

なお、今後連携体制を構築することについては合意された。

## 盛岡市教育委員会との連携に関する打ち合わせ記録

日程：令和元年8月5日（月） 13：30～15：00

訪問先：盛岡市教育委員会

先方対応者：高橋 悦子（盛岡市教育委員会生涯学習課 社会教育係長）

訪問者：朴 賢淑 准教授、朴 仙子 特任研究員

朴准教授より、岩手大学で今年度より「いわて生涯学習士育成講座」を開講することが決まり、詳細を調整していること及び各市町村との教育委員会との連携の下、岩手県の生涯学習システムを構築していきたい旨の説明があった。

なお、打ち合わせでは下記の事項について話し合われた。

### 1、いわて生涯学習士育成講座について

朴准教授より地域の生涯学習関連部署の職員の中には専門知識がない者も多いことから、準社会教育主事の育成を目的に「いわて生涯学習士育成講座」を開講したい故の説明があった。

なお、下記の事項について検討した。

- ・盛岡市教育委員会の場合、5年周期での移動が一般的である（新卒は3年）。3年間受講できるのは非常にいい。移動してきたばかりの職員は専門知識を、長年勤めている職員は先進事例を勉強することができる。

- ・近年子育て関連の講座、歴史関連の講座が人気あって、毎回100名以上受講しているが、いつも同じメンバーが集まるのが課題である。

- ・受講料を3000円と設定しているが、3年間受講希望ではなく、1講座だけ受講したいときは受講料が負担になることも考えられる。

- ・社会教育主事講習の場合、移動してきたばかりの職員が受講し、3年間勤務して社教主事になるので、社教主事になった時には他部署へ移動してしまう。

- ・フィールドワークでは、下記のような事例が見たい。

①地域・学校とうまく連携が取れている公民館

②社会教育施設を観光関連の部署に位置づけた市町村の現状と課題

③公民館を市民センターに替えた施設の現状と課題

- ・後援については、内諾を受け、後日所定様式で提出してもらいたい。

### 2、10月の主な行事について

- ・10月17日、18日には盛岡で全国公民館連合会東北大会を開催するので、公民館関連の職員は忙しい。

- ・10月末には公民館祭りがあるため、公民館関連職員が忙しい恐れがある。

なお、今後連携体制を構築することについては合意された。

## 岩手県教育委員会との連携に関する打ち合わせ記録

日程：令和2年1月10日（金） 10：00～11：00

訪問先：岩手県教育委員会

先方対応者：佐藤 公一（岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課総括課長）

澤柳 健一（岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課主任社会教育主事）

訪問者：朴 賢淑 准教授、朴 仙子 特任研究員

朴准教授より、令和元年度「いわて生涯学習士育成講座」の実施状況および受講生へのアンケート調査結果について報告し、岩手県教育委員会と意見交換を行った。また、令和2年度の開講に向けて、運営委員会を発足する旨説明があった。運営委員会の構成メンバーとして岩手県教育委員会、市町村及び生涯学習関連専門家などを候補として取り上げられた。なお、打ち合わせでは下記の事項について話し合った。

### 1、いわて生涯学習士育成講座について

朴准教授より岩手県教育委員会の後援の基で令和元年度いわて生涯学習士育成講座を開講できたことについて御礼申し上げた。また次年度開講に向けて、運営委員会を3月中に発足し、講座内容を協議したい旨説明があった。

なお、下記の事項について県教員委員会から意見を頂いた。

- ・岩手県教育委員会としても社会人学び直しプログラムを推進したいが、人的・財政的な面で困難であるため、大学側で進めて頂いていることは非常にうれしい。
- ・講座修了式に参加した際に、受講者の熱意を感じており、定員を超える受講生が集まったことは、地域においてニーズがあったことは明らかである。
- ・運営委員会等で意見交換できることは非常に大事である。教育委員会も一員として参加したい。
- ・「いわて生涯学習士」と称することができるとしているが、修了者が具体的にどのような力量が発揮できるかについて、募集要項などに示していただくと受講する側が分かりやすいのではないかと。
- ・講座の一部を岩手県生涯学習推進センターの施設を活用してもらいたい。
- ・今年度受講者の半数が新聞から講座情報を得ていることから、新聞社に一コマをお願いするなど、これからもマスコミを積極的に巻き込んだ方がいい。

## 釜石市教育委員会との連携に関する打ち合わせ記録

日程：令和2年1月23日（木） 13：00～14：30

訪問先：釜石市教育委員会

先方対応者：佐々木豊（釜石市市民生活部生涯学習文化スポーツ課 課長）

小笠原達也（釜石市市民生活部生涯学習文化スポーツ課課長補佐兼生涯学習係長）

訪問者：朴 賢淑 准教授

朴准教授より、令和元年度「いわて生涯学習士育成講座」の実施状況について報告し、釜石市教育委員会と意見交換を行った。また、令和2年度の開講に向けて、募集要項に基づき釜石市での一部コースの開講に向けて検討すると共に運営委員会を発足する旨説明があった。運営委員会の構成メンバーとして岩手県教育委員会、市町村及び生涯学習関連専門家などを候補として取り上げられた。

なお、打ち合わせでは下記の事項について話し合った。

### 1、いわて生涯学習士育成講座を釜石市での開講について

- ・朴准教授より令和2年度には講座の「生涯学習基礎コース」（1泊2日）を釜石市でも開講し、修了者にはコース修了証を公布したいと提案し、了承された。
- ・コースの開講に当たり、釜石市から講師を1名担当すると共に受講者募集・会場の提供に協力することとなった。また、講義の予算についても一部（10万円程）を釜石市が負担することとなった。
- ・釜石市での開講は、「生涯学習基礎コース」とし、開講時期は、岩手大学での開講時期に合わせて、木・金又は月・火に開催することとした。（10月頃開講予定）
- ・会場としては、釜石市サテライト、釜石市キャンパスを含め、受講者がアクセスしやすい会場を検討して頂くこととなった。

### 2、運営委員会の発足について

- ・運営委員会メンバーとして釜石市において1名推薦してもらいたい旨説明し、了承された。なお、当委員会は来年度正式に発足することとなる。

### 3、沿岸部の課題について

- ・沿岸部と内陸における教育機会の格差を無くすため、生涯学習士育成講座を皮切りに沿岸部において社会人学び直しプログラムを継続して実施したい旨説明した。
- ・釜石市を拠点とした社会教育・生涯学習の充実化を図り、市町村との連携によるキャリアアッププログラムの開発と実施を継続検討したい旨説明した。
- ・震災後の公民館の在り方についての検討、および社会教育の充実化を図りたい旨説明した。

→なお、上記の項目については今後も継続して意見交換を行うことになった。

## 上田公民館との連携に関する打ち合わせ記録

日時：令和2年2月4日（火） 10：00～11：00

訪問先：上田公民館

対応者：中野 玲子 館長

訪問者：朴 賢淑 准教授

朴准教授より、令和元年度「いわて生涯学習士育成講座」の実施状況について報告し、上田公民館中野館長と意見交換を行った。また、令和2年度の開講に向けて、運営委員会を発足する旨説明があった。運営委員会の構成メンバーとして岩手県教育委員会、市町村及び生涯学習関連専門家などを候補として取り上げられた。

なお、打ち合わせでは下記の事項について話し合った。

### 1、いわて生涯学習士育成講座を釜石市での開講について

- ・カリキュラムを大きく変更せず、開講時期についても本年度と同様にコースをまとめて開催する予定であり、釜石市を拠点にした沿岸部で基礎コース開講と日程、および、講師依頼をし、承諾を得た。
- ・受講者募集への協力を頂きたい旨を説明し、市町村の職員などが職務の一環として参加できるように3月中には大まかな内容をお知らせすることとした。

### 2、運営委員会の発足について

- ・運営委員会メンバーとして中野館長に加わってほしい旨説明し、了承された。なお、当委員会は来年度正式に発足し、主にカリキュラムについて意見交換を行うことで地域のニーズに合った講座を目指すこととなる。

### 3、その他

- ・上田公民館事業に関連して、岩手大学と連携し事業を進めて行くことについて確認した。

## 共同研究員×生涯学習部門 第1回 懇談会 議事録

日時：令和元年7月9日（火） 15：00～16：00

共同研究員参加者：工藤 啓（盛岡市共同研究員）

上條 雄喜（奥州市共同研究員）

武田 孝紀（八幡平市共同研究員）

生涯学習部門参加者：朴 賢淑 准教授（生涯学習部門長）

朴 仙子 特任研究員

場所：地域連携推進センター棟 ゼミ室

岩手県各市町村から派遣された共同研究員と今後の生涯学習部門との連携を図ることを目的に昨年度より懇談会を開催している。パク准教授より懇談を通して共同研究員が行っている活動、生涯学習部門の事業について意見交換したい旨説明があった。

なお、懇談会では下記の事項について話し合われた。

#### 1、市町村での職務経験について

工藤：商工観光部で今年の3月まで勤務し、産業振興系に移ったばかりに派遣された。

上條：企業振興課配属として派遣された。1年前は鋳造関連で勤務した。なお、派遣期間は定められていない。

武田：企画財政課地域戦略係から派遣された。前は農林課勤務。

#### 2、岩手大学での研究・活動について

パク：大学での主な仕事内容はどういうものなのか。

上條：大学との連携を拡大し、共同研究等を進めることで地元企業を支援することである。

武田：地域戦略係から来ているので、企業支援よりは地域づくりに繋がる活動がメインとなる。

工藤：同じく大学と企業の連携を拡大することである。

#### 3、各市町村の生涯学習の現状

上條：奥州市には、公民館は無くなり、地区センターとなっている。予算も削減されている上、講座を開設しても受講者がほとんど高齢者であることから講座の内容も高齢者対象のものが多。

他、職業訓練においては、県、市町音、商工会議所などでもかなり開講しているが、景気がいい今日において、人手不足の企業が職員を派遣しづらい。こういった競争の中で大学だからこそ開講できるのみにしないと受講者を集めるのが難しい。

#### 4、今後について

## 共同研究員×生涯学習部門 第1回 懇談会 議事録

日時：令和元年7月9日（火） 15：00～16：00

共同研究員参加者：工藤 啓（盛岡市共同研究員）

上條 雄喜（奥州市共同研究員）

武田 孝紀（八幡平市共同研究員）

生涯学習部門参加者：朴 賢淑 准教授（生涯学習部門長）

朴 仙子 特任研究員

場所：地域連携推進センター棟 ゼミ室

岩手県各市町村から派遣された共同研究員と今後の生涯学習部門との連携を図ることを目的に昨年度より懇談会を開催している。パク准教授より懇談を通して共同研究員が行っている活動、生涯学習部門の事業について意見交換したい旨説明があった。

なお、懇談会では下記の事項について話し合われた。

#### 1、市町村での職務経験について

工藤：商工観光部で今年の3月まで勤務し、産業振興系に移ったばかりに派遣された。

上條：企業振興課配属として派遣された。1年前は鋳造関連で勤務した。なお、派遣期間は定められていない。

武田：企画財政課地域戦略係から派遣された。前は農林課勤務。

#### 2、岩手大学での研究・活動について

パク：大学での主な仕事内容はどういうものなのか。

上條：大学との連携を拡大し、共同研究等を進めることで地元企業を支援することである。

武田：地域戦略係から来ているので、企業支援よりは地域づくりに繋がる活動がメインとなる。

工藤：同じく大学と企業の連携を拡大することである。

#### 3、各市町村の生涯学習の現状

上條：奥州市には、公民館は無くなり、地区センターとなっている。予算も削減されている上、講座を開設しても受講者がほとんど高齢者であることから講座の内容も高齢者対象のものが多。

他、職業訓練においては、県、市町村、商工会議所などでもかなり開講しているが、景気がいい今日において、人手不足の企業が職員を派遣しづらい。こういった競争の中で大学だからこそ開講できるのみにしないと受講者を集めるのが難しい。

#### 4、今後について



共同研究員×生涯学習部門 第2回 懇談会 議事録

日時：令和2年1月29日（水） 10：30～12：00

共同研究員参加者：工藤 啓 （盛岡市共同研究員）

上條 雄喜 （奥州市共同研究員）

武田 孝紀 （八幡平市共同研究員）

澤口 なつ美（釜石市共同研究員）

生涯学習部門参加者：朴 賢淑 准教授（生涯学習部門長）

朴 仙子 特任研究員

場所：地域連携推進センター棟 ゼミ室

岩手県各市町村から派遣された共同研究員と今後の生涯学習部門との連携を図ることを目的に令和元年度第2回懇談会を開催し、生涯学習部門の事業について意見交換を行った。

なお、懇談会では下記の事項について話し合われた。

1. いわて生涯学習士育成講座について

朴（賢）よりいわて生涯学習士育成講座の開講に当たり、多大なご協力をいただいたことについてお礼を申し上げますと共に令和元年実績について報告した。なお、来年度の開講に向けてもご協力いただきたい旨を伝え、了承された。なお、共同研究員から下記の提案があった。

- ・市町村職員が職務の一環として参加した実績は、来年度以降職員を派遣するのにいい。
- ・すべての講義を受講するよう求めなければ、他の職員に進めやすい。
- ・3年間受講を可能としているので、新入職員又は生涯学習関連部署に配属されたばかりの職員の受講が期待できる。
- ・共同研究員が岩手大学生涯学習部門と各市町村教育委員会の間でパイプ役割を果たすことができる。

2. いわて観光グローバル人材育成講座について

朴（賢）よりいわて観光グローバル人材育成講座の開講に当たり、多大なご協力をいただいたことについてお礼を申し上げますと共に令和元年実績について報告した。なお、来年度の開講に向けてもご協力いただきたい旨を伝え、了承された。

3. その他

来年度また懇談会を継続実施することとする。

## 2-7 社会教育主事講習

生涯学習部門では地域で社会教育の担い手となる専門的職員（社会教育主事）の養成を行っている。当事業は、文部科学省の委託事業であり、北東北では岩手県・秋田県・青森県の学習者を対象に岩手大学、秋田大学、弘前大学が持ち回りで主催校となり、社会教育主事講習を開講している。

社会教育主事講習は、専門的職員として社会教育を行う者に対する助言や指導に当たる役割を担うことになる。なお、当養成講習では、「生涯学習概論」、「社会教育計画」、「社会教育演習」、「社会教育特講」の4科目を開講し、社会教育主事としての専門的知識・技能習得を目指す。今年度は弘前大学が主催校となり、岩手大学では運営委員の派遣、講師派遣という形で携わっている。令和元年の実施状況は下記の通りである。なお、詳細は「令和元年度弘前大学社会教育主事講習報告書北東北はひとつ！」を参照されたい。

1. 開催期間：令和元年7月16日～8月8日
2. 開催場所：青森県武道館及び弘前大学創立50周年記念会館
3. 受講人数：32名（岩手県5名、秋田県14名、青森県13名）
4. 講習の概要：資料<2-7-1>日程表の通り

なお、「社会教育主事養成の見直しに関する基本的な考え方について」（平成29年8月社会教育主事養成等の改善・充実に関する検討会）等の提言内容を踏まえ、①社会教育主事が NPO や企業等の多様な主体と連携・協働して、社会教育事業の企画・実施による地域住民の学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに中核的な役割を担うことができるよう、その職務遂行に必要な基礎的な資質・能力を養成するため、社会教育主事講習及び大学（短期大学を含む。以下同じ。）における社会教育主事養成課程の科目の改善を図ること、②また、社会教育主事講習等における学習成果が広く社会における教育活動に生かされるよう、社会教育主事講習の修了証書授与者は「社会教育士（講習）」と、社会教育主事養成課程の修了者は「社会教育士（養成課程）」と称することができることとするという趣旨の基、社会教育主事講習等規則の一部を改正され、令和2年度より執行することとなった。

改正は、主に①科目と単位数の改善と②「社会教育士」の称号の付与の面で行われている。両方とも、社会教育主事講習と社会教育主事養成課程でそれぞれ定めているが、ここでは岩手大学で開講している社会教育主事講習について紹介する。

### ①社会教育主事講習の科目及び単位数の改正

学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る「生涯学習支援論」と、多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決等につなげていくための知識及び技能の習得を図る「社会教育経営論」を新設している。新旧科目表の変化は下記の通りである。

科目	単位
生涯学習概論	2
社会教育計画	2
社会教育特講	3
社会教育演習	2



科目	単位
生涯学習概論	2
生涯学習支援論	2
社会教育経営論	2
社会教育演習	2

新設された「生涯学習支援論」と「社会教育経営論」の2科目の他、「社会教育演習」においては、社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図るため、社会教育に関する実践演習及び社会教育に関する現場体験を盛り込んでいる。よって、岩手大学においても次回の開講に向けて演習授業における実践機関の開拓が求められ、大学と地域の連携が強まることが期待できる。

## ②「社会教育士」の称号の付与

社会の各分野で社会教育主事資格の有資格者が活躍することは、社会全体における学習の充実と質の向上につながるものであり望ましいことである。また、社会教育主事を目指す者と多様な社会教育関係者が共に学ぶことは、多様な主体と連携・協働して人づくりや地域づくりに取り組む社会教育主事の資質・能力の養成を図る観点からも有意義である。

そのため、社会教育主事養成の見直しに当たり、社会教育主事資格が社会の各分野で活用され、社会全体における学習の充実と質の向上が図られるよう、社会教育主事講習と社会教育主事養成課程の修了者にそれぞれ「社会教育士（講習）」と「社会教育士（課程）」の称号を付与することとしている。

## 令和元年度 弘前大学社会教育主事講習日程

【会場：青森県武道館】

期 日	8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	18:30~21:00
7/16 (火)			開講式 オリエンテーション	生涯学習の理念と施策(1) 生涯学習の理念と 現代的意義 松本 大	社会教育演習 松本・深作・社教主事
7/17 (水)			社会教育の意義と展開(1) 社会教育の本質 深作 拓郎	社会教育行政の特徴と展開(2) 青森県の地域課題と 社会教育行政 大島 義弘	社会教育演習 松本・深作・社教主事
7/18 (木)	社会教育演習 松本・深作・社教主事		社会教育の意義と展開(2) 東北における社会教育の特徴 新妻 二男		社会教育演習 松本・深作・社教主事
7/19 (金)	生涯学習の理念と施策(2) 生涯学習をめぐる国際的動向 松本 大		社会教育計画の意味 社会教育計画とは何か 松本 大	社会教育演習 松本・深作・社教主事	

【会場：弘前大学創立50周年記念会館】

期 日	8:40~10:10	10:20~11:50	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30
7/22 (月)	社会教育の現代的動向(2) 子育て支援と社会教育 深作 拓郎	社会教育演習 松本・深作・社教主事	社会教育施設の意義と特徴 社会教育施設の理念と機能、社会教育施設の現代的課題 生島 美和		
7/23 (火)	社会教育演習 松本・深作・社教主事	地域学校協働活動(2) 地域学校協働活動と 社会教育 松本 大	地域学校協働活動(3) 地域学校協働活動の 実際 伊勢 みゆき	社会教育の現代的動向(8) 教育委員会制度と社会教育 桐村 豪文	
7/24 (水)	社会教育演習 松本・深作・社教主事		社会教育計画の方法と視点(2) 社会教育事業計画の方法と視点 朴 賢淑		社会教育の現代的動向(1) 市民社会と社会教育 朴 賢淑
7/25 (木)	社会教育演習 松本・深作・社教主事	社会教育の現代的動向(3) 地域スポーツと 社会教育 鹿内 葵	社会的包摂と社会教育(3) 地域ネットワークと 社会教育 平間 恵美	社会教育の現代的動向(7) メディアリテラシーと社会教育 森本 洋介	
7/26 (金)	社会教育演習 松本・深作・社教主事	社会教育の意義と展開(3) 住民の学習と社会教育 大坪 正一		地域学校協働活動(1) 地域社会と学校 福島 裕敏	
7/29 (月)	社会教育計画の方法と視点(2) 社会教育における 教育・学習 松本 大	社会教育演習 松本・深作・社教主事		地域づくりと社会教育(1) 北東北における地域づくり 野口 拓郎	
7/30 (火)	社会教育演習 松本・深作・社教主事		社会教育施設の経営 社会教育施設の経営と評価 原 義彦		
7/31 (水)	地域課題と社会教育計画(2) 学校外教育論 深作 拓郎			社会的包摂と社会教育(1)(2) 障害者の生涯学習、若者の現代的困難と社会教育 廣森 直子	
8/1 (木)	社会教育演習 松本・深作・社教主事		社会教育行政の特徴と展開(1) 生涯学習関連施策の動向 文部科学省		社会教育の現代的動向(7) 自然体験と社会教育 中村 剛之
8/2 (金)	社会教育の現代的動向(6) 博学連携をめざした博物館学習の推進 宮崎 充治		地域課題と社会教育計画(1) 地域づくりと社会教育計画 高橋 満		
8/5 (月)			社会教育関係職員の役割と力量形成 社会教育関係職員論 長澤 成次		社会教育演習 松本・深作・社教主事
8/6 (火)	社会教育の現代的動向(5) 大学と地域の連携 深作 拓郎	社会教育演習 松本・深作・社教主事		地域づくりと社会教育(2) 震災後の地域づくりと女性の学習 千葉 悦子	
8/7 (水)	社会教育演習 松本・深作・社教主事				
8/8 (木)	社会教育演習 松本・深作・社教主事		閉講式		

(生涯学習概論：ピンク、社会教育計画：青、社会教育演習：黄、社会教育特講：緑)

※7月25日(木)17時40分~19時10分、7月31日(水)17時40分~19時10分：社会教育演習



# 総括



## 総 括

生涯学習部門では、社会人学び直しプログラムの開発を大きな柱とし、関係者一丸となり研究開発に取り組んでいる。特に今年度は「いわて生涯学習士育成講座」及び「いわて観光グローバル人材育成講座」を開講するなど、新たな試みを展開し、大きな成果を得た一年となっている。最後に生涯学習部門で主に取り組んだ事業（1）いわて生涯学習士育成講座、（2）いわて観光グローバル人材育成講座、（3）アートフォーラム、（4）公開講座、（5）がんちゃんの学び、（6）地域連携、（7）社会教育主事講習について1年間の事業成果を振り返りたい。

### （1）いわて生涯学習士育成講座

生涯学習部門では、社会人学び直しプログラムの開発を事業の主な柱としていて、今年度その成果として「いわて生涯学習士育成講座」を開講することができた。岩手県の地域課題に取り組める人材を育成することを目的に開講した本講座には、行政職員、NPOメンバーなど地域で活躍されている方々が受講し、10名が修了した。なお、本講座は令和3年度までの開講をすでに決めている。

### （2）いわて観光グローバル人材育成講座

東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）の寄付金を受け、グローバルな視点を持つ観光人材育成を目的に本年度より「いわて観光グローバル人材育成講座」を開講することができた。講座にはホテル関係者、地域起こし隊メンバーなど観光関連で活躍している方々が受講し、9名が修了した。なお、本講座において既にJR東日本社と次年度の開講概要について検討中である。

### （3）アートフォーラム

今年度より生涯学習部門の事業として仲間入りしたアートフォーラムはアートスクール、いわて美術茶話などを通して、岩手大学が保有する豊富な講師陣や恵まれた施設を利用して地域のニーズにあった芸術活動のサポートを進めている。今後も生涯学習部門とアートフォーラムの連携を強め、更に多様な活動を展開する予定である。

### （4）公開講座

公開講座は大学の研究成果を広く地域社会に還元する上で大きな役割を果たしている。今年度も小学生から高齢者まで幅広い年齢層、職業を対象に18講座を開講することができた。また、学内における社会人対象の講座の認知度を高めるため、短期プログラム、中・長期プログラムを紹介したリーフレット『岩手大学 公開講座 2019』を発行し、教育委員会、公民館、小中高校等に配布している。



#### (5) がんちゃんの学び

地域住民の学習ニーズを確認するため、「がんちゃんの学び」を継続して実施している。今年度は中国語の語学講座及びグローバル時代における子ども支援について開講することができた。地域住民の学習意欲に対して、学習機会の少なさは大きな課題となっている中、生涯学習部門では今後も学内外の資源を活用し多様な学習プログラムを提供する予定である。

#### (6) 地域連携

地域連携は今年度の生涯学習部門の活動の重要なキーワードとなっている。今年度新たに開講した「いわて生涯学習士育成講座」、「いわて観光グローバル人材育成講座」のいずれも各市町村において多大な支援をいただいている。今後も地域との連携を強めることで地域ニーズに合った学習プログラムの開発に取り組んでいく予定である。

#### (7) 社会教育主事講習

今年度の北東北における社会教育主事講習は弘前大学で開講し、岩手大学は運営委員会委員及び講師の派遣を行っている。社会教育主事講習は来年度から新たなカリキュラムで開講することが決まっていて、生涯学習部門では岩手大学で開講する時に備えた準備作業を進めている。

生涯学習部門では、多様な成人学習者の特徴を生かした学習プログラムの充実化を目指しており、今後も成人学習者が「学びをほどこき、編み直す力」、「地域で生かす力」、「学び続ける力」などを身に着け、地域活動や職業活動で役立てることによって地域の生涯学習の振興を目指す。

令和2年3月

三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門  
特任研究員  
朴 仙子

編集者

朴 賢淑 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門長・准教授  
朴 仙子 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 特任研究員  
吉田 義子 地域連携・COC推進課 事務補佐員

三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門  
令和元年度 成果報告書

発行日	令和2年3月27日
発行者	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門
代表者	朴 賢淑
住 所	岩手県盛岡市上田4丁目3-5
T E L	019-621-6852
F A X	019-621-6493
E-mail	renkei@iwate-u.ac.jp

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構

# 生涯学習部門

令和元年度 成果報告書